

**ボリビア多民族国  
特別支援教育教員養成プロジェクト  
終了時評価調査報告書**

平成 25 年 7 月  
(2013年)

独立行政法人国際協力機構  
人間開発部

人間
JR
13-073

**ボリビア多民族国  
特別支援教育教員養成プロジェクト  
終了時評価調査報告書**

平成 25 年 7 月  
(2013 年)

独立行政法人国際協力機構  
人間開発部

# 目 次

地 図

写 真

略語表

終了時評価調査結果要約表（和文・英文）

第1章 評価調査の概要	1
1-1 調査団派遣の経緯と目的	1
1-2 調査団構成	1
1-3 調査日程	2
1-4 面談者	3
第2章 対象プロジェクトの概要	4
2-1 ボリビアの教育セクター概況	4
2-1-1 教育セクター概況	4
2-1-2 特別支援教育への取り組み	5
2-2 基本計画	7
2-3 実施体制	7
2-4 協力内容	8
第3章 評価の方法	10
3-1 評価設問と必要なデータ・評価指標	10
3-2 評価実施方法	10
3-2-1 評価実施プロセス	10
3-2-2 評価方法	11
3-4 評価調査の制約・限界	11
第4章 プロジェクトの実績	12
4-1 実績の確認	12
4-1-1 投入実績	12
4-1-2 活動実績及び成果の達成状況	19
第5章 評価結果	29
5-1 5項目評価結果	29
5-1-1 妥当性	29
5-1-2 有効性	29
5-1-3 効率性	30
5-1-4 インパクト	30
5-1-5 持続性	30

5-2	阻害・貢献要因	30
5-2-1	効果発現に貢献した要因	30
5-2-2	問題点及び問題を惹起した要因	31
5-3	結論	31
第6章	提言と教訓	32
6-1	提言	32
6-2	教訓	32
付属資料		
1.	議事録 (Acta)	35

地 図



プロジェクト対象校所在地：ラパス、コチャバンバ、サンタクルス

写 真



教育省関係者との協議



高等教員養成校でのインタビュー



特別支援教育センターの授業（音楽）



特別支援教育センターの授業（職業訓練）



特別支援教育センターでのインタビュー



議事録（Acta）署名

## 略 語 表

略 語	正式名称（英語/西語）	日本語
CE	Comité de Ejecución	運営委員会
C/P	Contraparte (Counter Part)	カウンターパート
ESFM	Escuela Superior de Formación Maestros	高等教員養成校
GIZ	German Society for International Cooperation (Deutsche Gesellschaft für Internationale Zusammenarbeit)	ドイツ国際協力公社
GM	Grupo Meta	コアグループ（中核人材）
JCC	Comité de Coordinación Conjunta (Joint Coordinating Committee)	合同調整委員会
JICA	Agencia de Cooperación Internacional del Japón (Japan International Cooperation Agency)	国際協力機構
JOCV	Voluntarios Japoneses para la Cooperación Extranjera (Japan Overseas Cooperation Volunteer)	青年海外協力隊
FM-EID	Proyecto para Formación de Maestros/as en Educación Inclusiva en la Diversidad-Aprendemos en la Diversidad	特別支援教育教員養成プロジェクト
ME	Ministerio de Educación	教育省
M/M	Minutas de Reuniones (Minutes of Meetings)	協議議事録（ミニッツ）
OEI	Organización de Estados Iberoamericanos	イベロアメリカ機構
PNIEO	Plan Nacional de Igualdad y Equiparación de Oportunidades	障がい者の平等・機会均等に関する国家計画
PDM	Matriz de Diseño del Proyecto (Project Design Matrix)	プロジェクト・デザイン・マトリックス
PO	Plan Operativo (Plan of Operations)	活動計画表
PROFOCOM	Programa de Formación Complementaria para Maestras y Maestros	教員補完研修プログラム
R/D	Registro de Discusiones (Record of Discussions)	討議議事録
UNEFCE	Unidad Especializada de Formación Continua	継続教育専門ユニット
UNESCO	Organización de las Naciones Unidas para la Educación, la Ciencia y la Cultura (United Nations Educational, Scientific, and Cultural Organization)	国連教育科学文化機関
UNICEF	Fondo de las Naciones Unidas para la Infancia (United Nations Children's Fund)	国連児童基金
USAID	Agencia de los Estados Unidos para el Desarrollo Internacional (United States Agency for International Development)	米国国際開発庁

## 終了時評価調査結果要約表

<b>1. 案件の概要</b>	
国名：ボリビア多民族国	案件名：特別支援教育教員養成プロジェクト
分野：基礎教育	援助形態：技術協力プロジェクト
所轄部署：人間開発部 基礎教育第一課	協力金額（評価時点）：1億1,000万円 （2011年度末までの支出実績、及び2012年度以降計画額）
協力期間	(R/D)：2010年6月1日～ 2012年11月30日（2年6カ月間）
	(延長)：2012年12月1日～ 2013年5月31日（6カ月間）
	先方関係機関：教育省 日本側協力機関：筑波大学特別支援教育研究センター 他の関連協力：—
<b>1-1 協力の背景と概要</b>	
<p>ボリビア多民族国（以下、ボリビアと記す）では、障がい者法（1995年制定）において障がい者には差別なく教育を受ける権利があると規定されているが、特別支援教育の充実のための具体的な政策は存在していなかった。</p> <p>2006年1月、貧富格差の是正、先住民の権利拡大をかかげて政権を獲得し、2009年12月の選挙においても再選されている現政権は、2006年4月に大統領令No.28671を通じて「障がい者の平等・機会均等に関する国家計画」（Plan Nacional de Igualdad y Equiparación de Oportunidades : PNIEO）を制定し、教育分野に関しては学校教育におけるインクルーシブな視点の重視や特別支援教育の充実を打ち出すなど、特別支援教育の改善を重視する方針をとっている。</p> <p>これを受け、ボリビア教育省（Ministerio de Educación : ME）は、2010年より新規教員養成に関して、教員免許取得条件を従来の3年制の教員養成課程修了（短大卒レベル）から、5年制の学士課程修了に変更すると同時に、特別支援教育専門課程の新設を決定した。また、特別支援学校の充実や、普通学校内の特別支援学級設置、普通学級における特別支援教育の実施をめざす方針をとっている。一方、これまで新規教員養成カリキュラムのなかに特別支援教育に関する講座は存在せず、現職教員への研修も行われていなかったために、国内では高い専門性を有する特別支援教育専門人材が育成されていない状況である。したがって、現在ボリビアにおいては、特別支援教育を強化していくために必要な、特別支援教育を専門とする中核人材の育成が急務となっている。</p> <p>JICAはこれまで企画調査員や青年海外協力隊、シニア海外ボランティア、本邦研修等を通じて、特別支援学校の現職教員に対する支援を行い、特別支援教育の質向上に貢献してきた。これらの成果がボリビア教育省に認識されるに至り、新規教員養成や現職教員研修を通じた特別支援教育の中核人材育成にかかる技術協力が要請され、これを受けてJICAは2010年6月1日より2年半の予定で「ボリビア特別支援教育教員養成プロジェクト（Proyecto para Formación de Maestros/as en Educación Inclusiva en la Diversidad-Aprendemos en la Diversidad : FM-EID）」を開始した。その後、2012年10月には、ボリビア側との協議により、プロジェクト期間を半年間延長し、2013年5月31日までとすることを合意した。</p>	



## 1-2 協力内容

### (1) 上位目標

コアグループ（Grupo Meta：GM）が活用されることにより、特別支援教育に携わる人材育成が強化される。

### (2) プロジェクト目標

コアグループがボリビアの特別支援教育を担う中核人材として育成される。

### (3) 成果

成果1：コアグループの障がいに関する基礎知識が向上する。

成果2：コアグループの特別支援の必要な児童・生徒の実態把握及び発達診断能力が向上する。

成果3：コアグループの特別支援教育における計画能力が強化される。

成果4：コアグループの教育実践が向上する。

成果5：1～4の成果をまとめた教材が作成される。

成果6：コアグループにより、所属校においてプロジェクト活動のモニタリングが実施される。（2012年10月の合同調整委員会で追加）

### (4) 投入（評価時点）

<日本側>総投入額：約1億1,000万円

（2011年度末までの支出実績：6,000万円、2012年度以降計画額：5,000万円）

長期専門家派遣：1名（特別支援教育）

研修員受入れ：計27名（国別研修21名、課題別研修6名）

機材供与（携行機材を含む）：616万1,000円（ビデオ機材、教育器具、心理検査用具等）

在外事業強化費：2,696万8,000円

<ボリビア側>

カウンターパート（C/P）配置：計45名〔教育省3名、教員養成校11名（兼任）、特別支援教育センター33名（兼任）〕

機材購入：

施設提供：教育省内執務スペース、研修会場の提供

ローカルコスト負担：各種研修・セミナー、モニタリングの実施費用

その他：

## 2. 評価調査団の概要

調査者	団長・総括	村田 敏雄	JICA 国際協力専門員（人間開発部課題アドバイザー）
	協力企画	池田 亜美	JICA 人間開発部 基礎教育第一課

調査期間	2013年2月15日～3月4日	評価種類：終了時評価
------	-----------------	------------

## 3. 評価結果の概要

本プロジェクトは小規模案件であり、協力開始当初（R/D署名2010年5月27日）にプロジェクト・デザイン・マトリックス（Project Design Matrix：PDM）を作成していない。このため、今次評価では、第1回合同調整委員会（Joint Coordinating Committee：JCC、2012年3月8日開催）で合意された指標に基づき実績の確認及び5項目評価を行った。

### 3-1 実績の確認

#### (1) 成果の達成状況

成果1：コアグループの障がいに関する基礎知識が向上する。

指標：1-1 研修時の事前・事後テスト結果  
1-2 実習結果（公開授業の評価結果）

成果1は達成された。

全国研修セミナーにおける事前・事後テスト及び実習の評価結果を比較し、理論面での理解が不十分である点はみられるものの、全体としてコアグループの障がいに関する知識向上が確認された。これは、事前テストでは参加者の約7割の得点率が50%以下であったのに対し、事後テスト及び実習では7割以上の参加者が50%以上の得点率を得たことから明らかである。

なお、個別に分析すると、プロジェクト活動以外にも研修で獲得した知識や技術を積極的に日々の教育実践に生かしている教員とそうでない教員との間には大きな差が生じている。

成果2：コアグループの特別支援の必要な児童・生徒の実態把握及び発達診断能力が向上する。

指標：2-1（各コアグループメンバー作成の）個別指導計画（プロフィール部分）の完成度

成果2は達成された。

コアグループメンバーが作成した個別指導計画（プロフィール部分）を、日本人専門家が4段階で評価<sup>1</sup>（高い順にA～D）した結果、完成度の向上が確認された。2012年4月には約8割がCレベルであったのに対し、2013年2月には約8割がAレベルに到達している。

成果3：コアグループの特別支援教育における計画能力が強化される。

指標：3-1（各コアグループメンバー作成の）個別指導計画（指導計画部分）の完成度  
3-2（各コアグループメンバー作成の）授業案の完成度

成果3は達成された。

コアグループメンバーが作成した個別指導計画（指導計画部分）を、日本人専門家が4段階で評価<sup>2</sup>（高い順にA～D）した結果、完成度の向上が確認された。2012年3月には約7割がDレベルであったのに対し、2013年2月には約6割がAレベルに到達している。

また、授業案の完成度についても同様に4段階評価<sup>3</sup>（高い順にA～D）を行った結果、2012年3月には約7割がCレベル以下であったのに対し、2013年2月には約7割がAレベルに到達しており、完成度の向上が確認された。

<sup>1</sup> A：精緻な観察に基づいて各児童・生徒に適した個別指導計画を作成できる、B：十分な情報収集と正確な分析に基づいて個別指導計画を作成できる、C：フォーマットに従って個別指導計画を作成できる（フォーマットが埋められる）、D：不十分な個別指導計画しか作成できない（フォーマットの記述が不十分である）

<sup>2</sup> A：実施可能かつ評価可能な個別指導計画を作成できる、B：具体的な目標とそれに対応した指導法を含む個別指導計画を作成できる、C：フォーマットに従って個別指導計画を作成できる（フォーマットが埋められる）、D：不十分な個別指導計画しか作成できない（フォーマットの記述が不十分である）

<sup>3</sup> A：児童・生徒の個別指導計画に基づく授業案が作成できる、B：内容に過不足のない授業案が作成できる、C：授業案の略案が作成できる、D：不十分な授業案しか作成できない

成果4：コアグループの教育実践が向上する。

指標：4-1 授業観察シートに基づく公開授業の評価結果  
4-2 授業観察者としての公開授業への参加度評価

成果4は達成された。

コアグループメンバーの教育実践については、プロジェクト開始当初より一定の向上がみられることから、コアグループメンバーが既に特別支援教育の実践能力を身につけていたといえる。とはいえ、研修・セミナーで得た知識や技術を日々の授業実践で活用している研修参加者ほど、教育実践の向上度に大きな変化がみられた。

また、公開授業の評価結果と公開授業への参加度評価からは、よりの確な授業観察の視点を習得することで、自らの教育実践能力の向上にもつながることが明らかとなった。

成果5：1～4の成果をまとめた教材が作成される。

指標：5-1公式教材としての発行

成果5は達成に向けて進捗している。

プロジェクトでは、8種類の教材（理論編3種類、ケーススタディ編5種類）を作成している。現在は教材の執筆を完了し、編集・校正・公式化の段階にある。なお、ケーススタディ教材の執筆を担当したコアグループメンバーの教材作成経験が少なかったこと、プロジェクトの活動計画がボリビアの学校歴と合致していなかったことから、執筆に時間を要し、プロジェクト期間を6か月延長することとなった。全教材の出版は、2013年4月中旬に完了予定である。

成果6：コアグループにより、所属校においてプロジェクト活動のモニタリングが実施される。

指標：相互モニタリングの実践回数

成果6は達成された。

当初、本省技官によるモニタリング実施を想定していたが、専門性不足から代替案としてプロジェクトの技術評価に継続教育専門ユニット（Unidad Especializada de Formación Continua：UNEFCO）技官を活用することになった。しかし、教育省の実施する教員補完研修プログラム（Programa de Formación Complementaria para Maestras y Maestros：PROFOCOM）等の活動により、UNEFCO技官が多忙であったため、彼らによるモニタリング実施の機会は十分に得られなかった。

この代わりとして、プロジェクトでは相互モニタリング手法を導入し、コアグループメンバー間での意見交換と経験共有を効果的に実施することに成功した。

## (2) プロジェクト目標の達成状況

プロジェクト目標：コアグループがボリビアの特別支援教育を担う中核人材として育成される。

指標：専門知識、診断能力、計画能力、実践能力の総合評価（成果1～4の指標の総合評価）

プロジェクト目標は達成された。

成果1～4の指標の評価結果から、プロジェクト開始当初と比較して、コアグループメンバーの特別支援教育に関する理論・知識や教育実践は向上したといえる。また、コアグループメンバーが教材作成を担ったことにより、彼ら自身の専門性の深化や、理論知識と教育実践の一体化が可能になった。このような専門性の向上は、コアグループメンバーの自

信を高め、更にはボリビアにおける特別支援教育専門人材のネットワーク強化につながった。

ただし、ボリビアの特別支援教育の人材育成は始まったばかりであり、ケーススタディや公開授業を通して、更なる専門性の向上が必要である。

### 3-2 評価結果の要約

#### (1) 妥当性：高い

特別支援教育/インクルーシブ教育の推進は、2009年発表のボリビア国家政策、及び2010年制定の「教育基本法」において優先課題の1つに掲げられていることから、プロジェクトの政策面での整合性は高い。また、特別支援教育の教員養成により専門性を強化し、障がい児への教育実践を向上させる必要性が高い一方、ボリビアでは基礎情報すら不足していたことから、本分野への協力は現地ニーズに合致している。

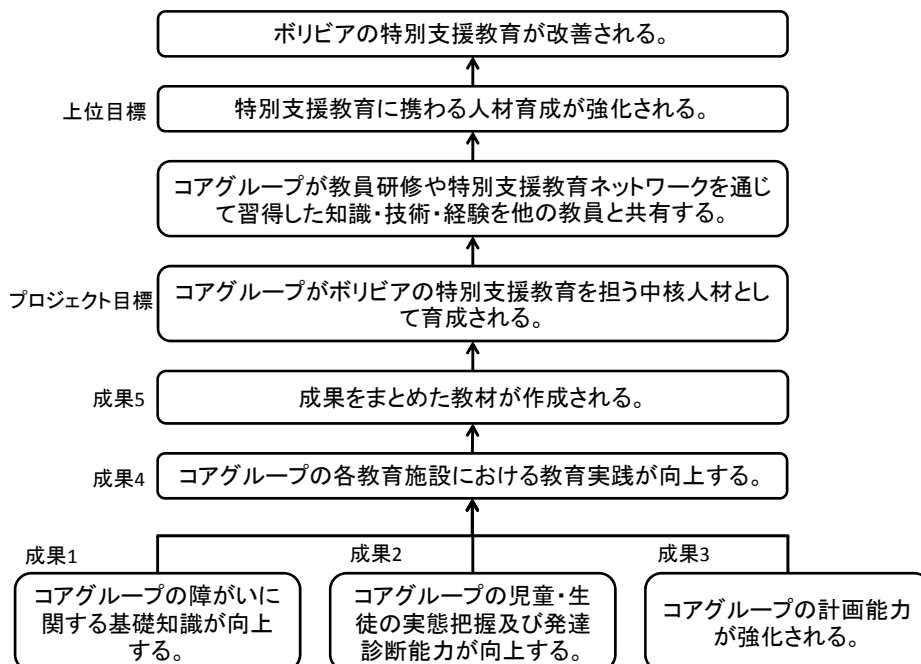
また、プロジェクトはわが国のODA分野別政策「日本の教育協力政策（2011～15）」の重点分野1「すべての人に質の高い教育を」に合致しており、「対ボリビア多民族国事業展開計画」（2012年6月）において、重点分野「人材育成を中心とした社会開発」、開発課題「教育」の下で、「障がい者支援」プログラムに位置づけられていることから、日本の協力方針とも整合性が高い。

以上から妥当性は高いと判断される。

#### (2) 有効性：高い

プロジェクト目標は達成されている。また、成果とプロジェクト目標の因果関係については、以下のとおりロジカル・フレームワークで整理され、適切にデザインされている。以上から有効性は高いと判断される。

なお、成果からプロジェクト目標に至る外部条件は設定されていないが、プロジェクト目標達成の貢献要因・阻害要因を、以下3-3及び3-4に整理した。



(3) 効率性：中程度

投入はボリビア側・日本側ともにおおむね適切な質・量・時期によって管理・実施され、成果達成に結び付いている。ただし、ボリビア側については、教材執筆担当のコアグループメンバーの経験不足とプロジェクト活動計画と学校歴との不一致により、執筆活動の遅延が生じた。この結果、教材の完成及び全国普及のため、プロジェクト期間を6カ月延長したことから、効率性は中程度と判断される。

なお、活動から成果に至る外部条件は設定されていない。

(4) インパクト：高い

上位目標：コアグループが活用されることにより、特別支援教育に携わる人材育成が強化される。

指標：コアグループによる研修実績

上位目標達成に向けては、特別支援教育分野の教員養成の質の向上がみられる。コアグループメンバーにより計81回の研修・セミナーが実施され、延べ2,000人が参加した。

正のインパクトとしては、①高等教員養成校において特別支援教育の関心が向上し、教育環境の改善にもつながったこと、②特別支援教育センター内で教員・関係者間の連携が強化されたこと、③教室での教育実践向上や家庭訪問を通して、高等教員養成校・特別支援教育センターの教員と障がい児の両親との良好な関係が構築されたこと、等が挙げられる。また、高等教員養成校の教員は、本プロジェクトで教材執筆をした経験を生かし、教員養成課程のカリキュラム作成にも関与しており、作成教材は同課程のテキストとして活用される見込みである。一方、負のインパクトはみられない。

以上から、インパクトは高いと判断される。

(5) 持続性：中程度

コアグループメンバーが習得した知識・技術は、ボリビアの特別支援教育の質の向上に有効であることが確認されており、教材作成や中核人材の育成を通じて技術面での持続性はおおむね担保されている。なお、コアグループメンバーの教材開発能力には改善の余地が残されているが、高い研修運営能力を身につけていることから、今後も公開授業やケーススタディを通して、継続的な能力向上・専門性強化を図ることが期待される。また、作成教材の具体的な活用計画は策定されていないが、コアグループの在籍する高等教員養成校や特別支援教育センター、今後実施予定の研修参加者により活用される見込みである。

法制度・政策面においても、特別支援教育の強化は、ボリビアの法律・政策に一致することから、持続性は担保されている。しかし、教育省及び高等教員養成校の特別支援教育分野への優先的な予算配賦、特別支援教育センターでの予算確保等、財政面での持続性は懸念が残る。また、高等教員養成校における特別支援教育養成課程の新入生受入れ計画や、同課程教員の職の安定性にも課題が残る。

以上から、持続性は中程度と判断される。

### 3-3 効果発現に貢献した要因

(1) 計画内容に関すること

プロジェクト開始当初から、高等教員養成校及び特別支援教育センターと協働しプロジェクト活動を実施する計画を立案していたことにより、教室現場における教育実践能力向上につながった。

## (2) 実施プロセスに関すること

実施プロセスにおける貢献要因としては、コアグループメンバーが強い責任感をもって積極的にプロジェクト活動へ参加したこと、また、教育省関係者も高いイニシアティブの下、予算・プロジェクト運営面で高い貢献を果たしたことが挙げられる。

あわせて、法制度・政策や、システム・組織体制に関しても、特別支援教育について継続的に広報・啓発活動を行ったこと、教育省の責任者や高等教員養成校・特別支援教育センターの校長から必要な支援が得られたことも、効果発現に貢献した。

### 3-4 問題点及び問題を惹起した要因

#### (1) 計画内容に関すること

特別支援教育に係る政策の詳細や、教員養成カリキュラム・法規が未整備の状態プロジェクトを開始したことにより、プロジェクトのインパクト発現に制約が生じた。また、計画時点では、コアグループメンバーの科学的調査・学術論文執筆に係る知識・経験の少なさを十分に把握できておらず、ケーススタディ実現に必要な学校歴との整合性が十分に考慮されていなかったため、教材執筆に遅延が生じた。

#### (2) 実施プロセスに関すること

実施プロセスの問題点としては、プロジェクト期間中にコアグループメンバーが減少したこと（当初計画80名→現行42名）や、人事問題に起因してシモン・ロドリゲス高等教員養成校（コチャバンバ）からの参加者が少なかったことが挙げられる。また、教育省の責任者や高等教員養成校・特別支援教育センターの校長が頻繁に交代し、プロジェクト活動の調整に多大な労力を要したが、これに対しては、専門家が直接かつ適時に関係者への説明を行い、プロジェクト活動への理解を得ることで問題の回避に成功した。

### 3-5 結論

本プロジェクトは、2013年5月末までに予定された活動をすべて終了する見込みである。教育省の調整の下、関係機関のイニシアティブとコアグループメンバーの積極的な貢献、適切な技術支援によって、プロジェクト目標及び各成果が達成された。

また、プロジェクトで紹介された知識・技術は、ボリビアの特別支援教育の質向上に有効であることが明らかになった。あわせて、特別支援教育センターの教育実践においても、正のインパクトがあったことが確認された。

### 3-6 提言

(1) プロジェクトを予定どおり2013年5月31日に終了する。

(2) プロジェクトで開発した教材を教員養成及び継続教育（現職教員研修等）にも活用する。

(3) プロジェクトに参加した特別支援教育センターをモデル校（リソースセンター）として位置づけ、研修・セミナーの実施や、高等教員養成校の実習に活用する。

(4) 高等教員養成校においても、教室現場での教育実践能力を強化し、障がい児のケーススタディを深化させる。

(5) コアグループはじめプロジェクト関係者の経験を明文化し、特別支援教育制度整備に活用する。

### 3-7 教訓

- (1) プロジェクト成果を最大化し、正のインパクトを確保するためには、現行の教育開発の方向性に即した政策・法制度の確立が不可欠である。
- (2) 特別支援教育の専門性は4分野（視覚・聴覚・知的障がいと肢体不自由）に分かれており、専門性の深化・分化が顕著であることから、1名の専門家が全領域をカバーするには限界がある。プロジェクト形成時にはこの点を勘案し、より戦略的な人的投入を実施すべきである。
- (3) プロジェクトの効率的な運営のためには、相手国の組織規定に配慮しつつ懸案事項に係る意思決定過程を明確にするとともに、日本側・ボリビア側関係者の意思統一が重要である。

## Summary of the Terminal Evaluation

<b>1. Outline of the Project</b>	
Country: The Plurinational State of Bolivia	Project: Teachers Training in Special Needs Education
Sector: Basic education	Cooperation scheme: Technical cooperation project
Division in charge: Basic Education Division 1, Human Development Department	Cooperation amount (at the time of evaluation): 110 million yen (Actual expenditure to end FY2011 and planned expenditure from FY2012 onward)
Period of cooperation	(R/D): June 1, 2010 - November 30, 2012 (2 years 6 months)
	(Extension): December 1, 2012 - May 31, 2013 (6 months)
	Partner country's implementing organization: Ministry of Education
	Supporting organization in Japan: Special Needs Education Research Center, University of Tsukuba
	Other related cooperation: -
<b>1-1 Background to and outline of the cooperation</b>	
<p>In the Plurinational State of Bolivia (hereinafter referred to as "Bolivia"), the Persons with Disabilities Act (enacted in 1995) stipulates that persons with disabilities have the right to receive education, without discrimination, but no specific policies existed for enhancing special needs education.</p> <p>The regime that came to power in January 2006 advocated remedying disparities of wealth and extending the rights of the indigenous people. The current administration, which was re-elected in the December 2009 elections, established the National Plan of Equality and Equalization of Opportunities for Persons with Disability (PNIEO) in April 2006 under Presidential Order No.28671. In the field of education, it has adopted a policy that emphasizes improvements in special needs education, such as emphasizing the perspective of inclusive education and enhancing special needs education.</p> <p>In response, beginning in 2010, the Bolivian Ministry of Education changed the new teacher training system so that the condition for obtaining a teacher's license was altered from completion of a three-year teacher training course (junior college level) to completion of a five-year bachelor's degree, while also establishing a new program dedicated to special needs education. Moreover, the policies that were adopted aim to enhance special needs schools, establish special needs classes in ordinary schools, and implement special needs education in ordinary classes. On the other hand, there have been no courses focused on special needs education in the curriculum for new teacher training, nor do in-service teachers receive any training. This means that dedicated special needs education personnel with a high level of expertise have actually not been cultivated within Bolivia. Consequently, the cultivation of core personnel who specialize in special needs education, which is a requirement in order to strengthen such education, is a matter of urgency in Bolivia at present.</p> <p>To date, JICA has provided support to in-service teachers at special needs schools through the dispatch of project formulation advisors, Japan Overseas Cooperation Volunteers, and</p>	



Senior Volunteers, as well as the provision of training in Japan. This support has contributed to improving the quality of special needs education. These outcomes came to the attention of the Bolivian Ministry of Education, which then requested technical cooperation from Japan in the cultivation of core special needs education personnel through new teacher training and training for in-service teachers. In response, JICA established the Project for Teacher Training in Special Needs Education in Bolivia, which was due to run for two and a half years from June 1, 2010. Subsequently, in October 2012, following discussions with the Bolivian side, it was agreed to extend the Project by six months, until May 31, 2013.

## **1-2 Contents of the cooperation**

### **(1) Overall goal**

Strengthening of human resources development related to special needs education through the effective use of the Core Group.

### **(2) Project goal**

Cultivation of the Core Group as personnel who will play a key role in special needs education in Bolivia.

### **(3) Outputs**

- Output 1: The teachers of the Core Group improved their basic knowledge on disability.
- Output 2: The teachers of the Core Group acquired the ability to make diagnosis and pedagogical assessment of students with special educational needs.
- Output 3: The teachers of the Core Group strengthened planning capacity on Inclusive Education in Diversity (annual, weekly, teaching situations and individual plans).
- Output 4: The teachers of the Core Group improved teaching practice in their educational institutions.
- Output 5: The teachers of the Core Group prepared materials for outputs 1-4 and other requirements according to the Ministry of Education.
- Output 6: Monitoring of project activities by the teachers of the Core Group in the schools to which they are assigned. (Added by the Joint Coordinating Committee in October 2012)

### **(4) Inputs (at the time of evaluation)**

**Japanese side:** Total amount: approximately 110 million yen

(Actual expenditure to end FY2011: 60 million yen; planned expenditure from FY2012 onward: 50 million yen)

Dispatch of long-term experts: 1 (special needs education)

Acceptance of training participants: 27 in total (21 in country-specific training; 6 in topic-specific training)

Provision of equipment (including equipment for experts):  
6.161 million yen (video equipment, educational

apparatus, tools for psychological testing, etc.)	
Overseas project improvement costs: 26.968 million yen	
<b>Bolivian side:</b>	
Placement of counterparts (C/P):	45 persons in total (3 at the Ministry of Education, 11 at teacher training schools (concurrent posts), 33 at the Special Education Center (concurrent posts))
Purchase of equipment:	
Provision of facilities:	Provision of office space within the Ministry of Education and workshop venues
Local cost burden:	Cost of implementing training courses, seminars, and monitoring

## 2. Outline of the evaluation team

Team members	Leader:	Toshio Murata, Senior Advisor (Education), JICA
	Cooperation planning:	Ami Ikeda, Basic Education Division 1, Human Development Department, JICA
Period of the evaluation	February 15 - March 4, 2013	Type of evaluation: Terminal evaluation

## 3. Outline of the evaluation results

As the project was a small-scale one, no Project Design Matrix (PDM) was created when cooperation first began (R/D signature: May 27, 2010). Accordingly, the recent evaluation focused on the confirmation of achievements and a five evaluation criteria based on the indicators agreed at the first meeting of the Joint Coordinating Committee (JCC; held on March 8, 2012).

### 3-1 Confirmation of the achievements

#### (1) Degree of output achievement

**Output 1:** The teachers of the Core Group improved their basic knowledge on disability.  
Indicators: 1-1 Pre- and post-training test results  
1-2 Results in practical exercises (results of evaluation of demonstration classes)

Output 1 was achieved.

Although there were some areas where the understanding of theoretical aspects was inadequate when the results of the tests administered before and after the national training seminar and the evaluation of practical exercises were compared, an improvement in the Core Group's understanding of disability was observed overall. This is also clear from the fact that, whereas approximately 70% of the teachers scored 50% or less in the test administered before the training, more than 70% of the teachers scored at least 50% in the post-training test and practical exercises.

In addition, analyzing the results on an individual basis, there was a significant gap between those teachers who, in their day to day teaching practice proactively made use of the knowledge and techniques that they had learned from training, compared to those involved in the Project who did not make use of what they had learned.

**Output 2:** The teachers of the Core Group acquired the ability to make diagnosis and pedagogical assessment of students with special educational needs.

Indicator: 2-1 Degree of completeness of individual guidance plans (profile section; compiled by each teacher of the Core Group)

Output 2 was achieved.

When the individual guidance plans (profile section) compiled by the teachers of the Core Group were evaluated by the Japanese experts on a four-rank scale<sup>1</sup> (A-D, with A as the highest grade), an improvement in the degree of their completeness was observed. Whereas approximately 80% scored a C in April 2012, approximately 80% attained an A in February 2013.

**Output 3:** The teachers of the Core Group strengthened planning capacity on Inclusive Education in Diversity (annual, weekly, teaching situations and individual plans).

Indicators: 3-1 Degree of completeness of individual guidance plans (guidance section; compiled by each teacher of the Core Group)  
3-2 Degree of completeness of lesson plans (compiled by each teacher of the Core Group)

Output 3 was achieved.

When the individual guidance plans (guidance plan section) compiled by the teachers of the Core Group were evaluated by the Japanese experts on a four-rank scale<sup>2</sup> (A-D, with A as the highest grade), an improvement in the degree of their completeness was observed. Whereas approximately 70% scored a D in March 2012, approximately 60% attained an A grade in February 2013.

Moreover, the degree of completeness of the lesson plans was also evaluated on the basis of a four-rank scale<sup>3</sup> (A-D, with A as the highest grade), and whereas approximately 70% scored a C or lower in March 2012, approximately 70% attained an A in February 2013, demonstrating an improvement in the degree of completeness.

**Output 4:** The teachers of the Core Group improved teaching practice in their educational institutions.

Indicators: 4-1 Results of the evaluation of demonstration classes based on the class observation sheet  
4-2 Evaluation of the degree of participation in demonstration classes as a class observer

<sup>1</sup> A: Can formulate individual guidance plans appropriate to each child, based on detailed observation; B: Can formulate individual guidance plans based on adequate information gathering and accurate analysis; C: Can formulate individual guidance plans following the form (form is filled in); D: Can only formulate inadequate individual guidance plans (form not filled in adequately)

<sup>2</sup> A: Can formulate individual guidance plans that are feasible and can be evaluated; B: Can formulate individual guidance plans that include specific goals and guidance methods tailored to these; C: Can formulate individual guidance plans following the form (form is filled in); D: Can only formulate inadequate individual guidance plans (form not filled in adequately)

<sup>3</sup> A: Can formulate lesson plans based on the individual guidance plans for children; B: Can formulate well-balanced lesson plans; C: Can formulate skeleton lesson plans; D: Can only formulate inadequate lesson plans

Output 4 was achieved.

Improvements can be seen in the teaching practice of the teachers of the Core Group compared with the situation at the beginning of the Project. Thus the teachers have acquired the practical skills required for special needs education. Nevertheless, a greater level of improvement in teaching practice was seen among those who had more experience of participating in training courses and seminars, and who then used the knowledge and techniques that they learned in these courses and seminars in their day to day teaching practice.

Moreover, based on the results of the evaluation of demonstration classes and the evaluation of the degree of participation in these demonstration classes, it was clear that the development of a more precise viewpoint by the participants when they observed classes led to an improvement in the teaching practice abilities of these participants after their observation experience.

**Output 5:** The teachers of the Core Group prepared materials for outputs 1-4 and other requirements according to the Ministry of Education.

Indicator: 5-1 Publication as official teaching materials

Progress is being made toward the achievement of Output 5.

As part of the Project, eight types of teaching materials (3 types of theory manuals and five types of case study manuals) were compiled. The writing of the teaching materials has been completed and they are now in the process of being edited, proofread, and authorized. It should be noted that the teachers of the Core Group, who were in charge of writing the case study materials, had little experience of compiling teaching materials, and the activity plan for the Project did not correspond to the Bolivian academic year, so it took time to complete the writing stage and the Project period was extended by six months as a result. The publication of all teaching materials is expected to be completed in the middle of April 2013.

**Output 6:** Monitoring of project activities by the teachers of the Core Group in the schools to which they are assigned.

Indicator: Number of times on which mutual monitoring is carried out

Output 6 was achieved.

Initially, it was envisaged that monitoring would be carried out by officials from the Ministry, but due to a lack of expertise, an alternative solution was adopted, involving technical evaluation of the Project by officials from the Special Unit for Continuing Education (UNEFECO: Unidad Especializada de Formación Continua). However, the UNEFECO officials were very busy with activities such as the Ministry of Education's Program of Complementary Education (PROFOCOM: Programa de Formación Complementaria), so there were insufficient opportunities for them to carry out monitoring.

Instead, mutual monitoring techniques were introduced for the Project, and success was achieved in the effective implementation of exchanges of opinions and the sharing of experience among the teachers.

## (2) Degree of project goal achievement

**Project goal:** Cultivation of the Core Group as personnel who will play a key role in special needs education in Bolivia.

**Indicator:** Overall evaluation of expertise, diagnostic ability, planning ability, and practical skills (overall evaluation of the indicators for Outputs 1-4)

The project goal was achieved.

From the results of the evaluation of the indicators for Outcomes 1-4, it can be said that compared with the situation at the outset of the Project, the theoretical knowledge and teaching practice of Core Group members in regard to special needs education have improved. Moreover, by playing an active role in compiling teaching materials the Core Group members have improved their expertise and integrated their theoretical knowledge and teaching practice. These improvements in expertise have increased the confidence of the Core Group members, as well as strengthening interpersonal relations among the specialists in special needs education in Bolivia.

However, human resources development in the field of special needs education in Bolivia has only just begun, and it is necessary to promote further improvements in expertise through case studies and demonstration classes.

### **3-2 Summary of the evaluation results**

#### **(1) Relevance: High**

The promotion of special needs education and inclusive education was cited as a priority task in the Bolivian national policy announced in 2009 and in the Education Act enacted in 2010, so the Project has a high level of consistency in terms of policy. Moreover, while there is a great need to strengthen expertise by cultivating teachers in the field of special needs education as well as by improving teaching practice in regard to children with disabilities, Bolivia also lacked even basic information in this field, so this cooperation met the local needs.

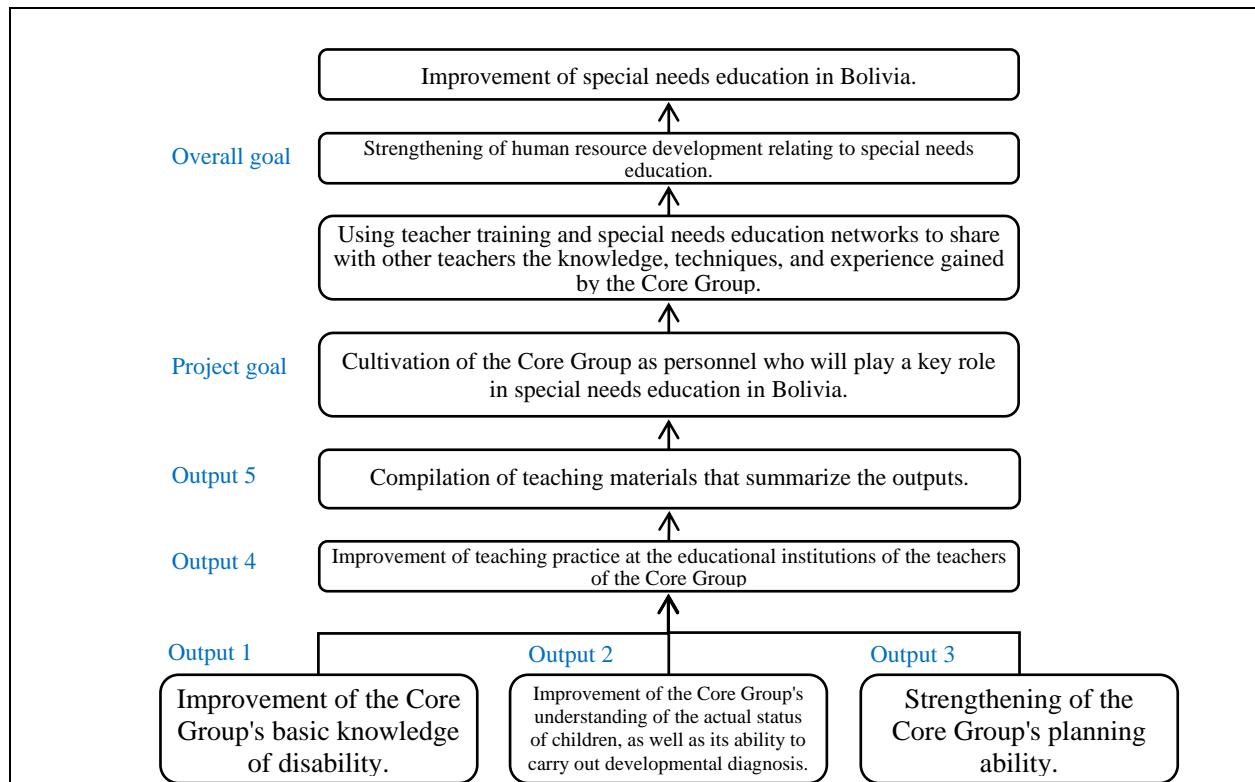
Furthermore, the Project corresponds to the Focus Area (1) “Quality Education for All” in “Japan’s Education Cooperation Policy 2011-2015”, which is one of Japan’s sectoral ODA policies; in addition, in the Country Assistance Program for the Plurinational State of Bolivia (June 2012), under the development task “Education”, which is part of the Priority Area “Social Development Assistance Focused on Human Resource Development”, the Project is positioned as a program to support persons with disabilities, so it also has a high level of consistency with Japan’s policy on cooperation.

Thus, the relevance of the Project is judged to be high.

#### **(2) Effectiveness: High**

The project goal has been achieved. Moreover, the causal relationship between the outputs and the project goal has been designed on the basis of the following logical framework. Thus, the effectiveness of the Project is judged to be high.

In addition, although no external conditions were set for the process from the outputs to the project goal, 3-3 and 3-4 below summarize the factors contributing to the achievement of the project goal, as well as the factors hindering it.



(3) Efficiency: Medium

The inputs were managed and implemented by both the Bolivian and Japanese sides based on appropriate quality, quantity, and timing, leading to the achievement of the outputs. However, on the Bolivian side, delays in the production of the teaching materials occurred due to the lack of experience of the Core Group members responsible for writing them and the fact that the Project activity plan did not correspond to the academic year. As a result, the project period was extended by six months, in order to allow for completion of the teaching materials and their nationwide dissemination, so the efficiency was judged to be medium.

No external conditions were set for the process from carrying out the activities to achieving the outputs.

(4) Impact: High

<b>Overall goal:</b>	Strengthening of human resources development related to special needs education through the effective use of the role of a Core Group.
<b>Indicator:</b>	Training achievements by the Core Group

Improvements in the quality of teacher training in the field of special needs education were observed, which demonstrated progress towards the achievement of the overall goal. A total of 81 training courses and seminars were conducted by the Core Group members, in which a total of 2,000 people participated.

Positive impacts include (1) interest in special needs education among teacher training colleges has increased, leading to an improvement in the educational environment; (2) collaboration among teachers and other personnel at the Special Education Center has

been strengthened; and (3) improved teaching practice in the classroom and home visits have led to the development of good relationships between teachers at teacher training colleges, the Special Education Center, and the parents of children with disabilities. Moreover, teachers at teacher training colleges are making use of their experience in writing teaching materials as part of this project. These teachers are also becoming involved in formulating curriculums for teacher training courses and it is anticipated that the teaching materials that they compile will become set texts for teacher training courses in future. On the other hand, no negative impacts can be seen.

Thus, the impact of the Project is judged to be high.

#### (5) Sustainability: Medium

The knowledge and techniques learned by the Core Group members have been confirmed to be effective in improving the quality of special needs education in Bolivia. The sustainability of the Project from the technical perspective has been guaranteed through the compilation of teaching materials and the cultivation of core personnel. In addition, while there is scope for improvement in the ability of the Core Group members to develop teaching materials, they have acquired a high level of ability to run training courses. Thus it is expected that there will be ongoing improvement of the abilities of the Core Group members and the strengthening of their expertise through demonstration classes and case studies. Moreover, although no concrete plan has been developed for utilizing the teaching materials that were compiled in this Project, it is anticipated that they will be used by participants in training courses that are due to be conducted at teacher training colleges and the Special Education Center, where the Core Group members work.

The strengthening of special needs education corresponds to the laws and policies of Bolivia, so the Project's sustainability is guaranteed from the perspective of the legal system and policies. However, concerns remain about its financial sustainability in relation to such matters as the priority allocation of budget funding to the field of special needs education by the Ministry of Education and teacher training colleges, and the securing of a budget at the Special Education Center. Moreover, issues remain in relation to the plan for accepting new entrants into special needs education teacher training courses at teacher training colleges, and the stability of the posts of the staff teaching these courses.

Thus, the sustainability of the Project is judged to be medium.

### **3-3 Factors for the emergence of the effects**

#### **(1) Factors relating to the contents of the plan**

From the outset of the Project, plans for the implementation of project activities were formulated in collaboration with the teacher training colleges and the Special Education Center, leading to improved performance in teaching practice in actual classroom situations.

#### **(2) Factors relating to the implementation process**

Contributory factors related to the implementation process include the fact that the Core Group members participated actively in project activities with a strong sense of responsibility, and the fact that the Ministry of Education staff involved demonstrated great initiative and made a significant contribution in terms of the budget and project

management aspects.

In conjunction with this, in regard to the legal system and policies, and organizational systems and frameworks, the fact that the Core Group members carried out ongoing public relations and educational activities focused on special needs education with the necessary support of officials at the Ministry of Education, the principals of the teacher training colleges, and the director of the Special Education Center, the Project was able to achieve the desired effects.

### **3-4 Problems and factors that caused problems**

#### **(1) Problems relating to the contents of the plan**

Constraints on the achievement of project impacts arose due to the fact that the project began before details of the policy on special needs education and the teacher training curriculum and laws had been put in place. Moreover, at the time of planning, there was an inadequate understanding of how little knowledge and experience the Core Group members had of conducting scientific surveys and writing academic papers. Insufficient consideration was also given to consistency with the academic year, which was required in order to conduct the case studies, so delays arose in writing the teaching materials.

#### **(2) Problems relating to the implementation process**

Problems related to the implementation process include the decline in the number of Core Group members during the project period (initial plan: 80 people → actual: 42 people) and the fact that there were few participants from the Simón Rodríguez Teacher Training College (Cochabamba), due to personnel issues. Moreover, there were frequent changes among the officials at the Ministry of Education, the principals of the teacher training colleges, and the director of the Special Education Center, and a great deal of effort was required to coordinate project activities. However, the participating experts succeeded in avoiding problems by directly explaining matters to the people involved, as required, and securing their understanding for project activities.

### **3-5 Conclusion**

All activities planned as part of this Project are expected to be completed by the end of May 2013.

The project goal and various outputs were achieved thanks to the initiative demonstrated by the relevant organizations, the proactive contributions made by the Core Group members, and appropriate technical support, all coordinated by the Ministry of Education.

Moreover, it became clear that the knowledge and techniques introduced through the Project would be effective in improving the quality of special needs education in Bolivia. In addition, it was confirmed that the Project had had a positive impact on teaching practice at the Special Education Center.

### **3-6 Recommendations**

(1) The Project ended on May 31, 2013, as planned.

(2) The teaching materials developed through the Project should be used to train teachers and



provide ongoing education (training of in-service teachers, etc.)

- (3) The Special Education Center, which participated in the Project, should be positioned as a model school (resource center) and used for holding training courses and seminars, as well as for practical exercises by teacher training colleges.
- (4) Teaching practice abilities in classroom situations should be strengthened, and more in-depth case studies of children with disabilities developed at the teacher training colleges as well.
- (5) The experiences of those involved in the Project, especially the Core Group members, should be documented and used in the further development of the special needs education system.

### **3-7 Lessons learned**

- (1) The establishment of policies and legal systems that are consistent with the current direction of the development of education is essential, in order to maximize project output and ensure positive impacts.
- (2) Expertise in special needs education is divided into four fields (visual impairment, hearing impairment, intellectual disability, and physical disability), and there is a marked degree of specialization and differentiation between them, so there are limits to the ability of a single expert to cover all these fields. This fact should be taken into account when developing projects, so that more strategic human inputs can be ensured.
- (3) In order to ensure the efficient running of projects, it is vital to ensure that those on the Japanese side and those on the Bolivian side share a common understanding and purpose, as well as clarifying the decision-making process in relation to outstanding issues, taking into account organizational regulations in the counterpart country.

# 第1章 評価調査の概要

## 1-1 調査団派遣の経緯と目的

ボリビア多民族国（以下、「ボリビア」と記す）では、障がい者法（1995年制定）において障がい者には差別なく教育を受ける権利があると規定されているが、特別支援教育の充実のための具体的な政策は存在していなかった。

2006年1月、貧富格差の是正、先住民の権利拡大を掲げて政権を獲得し、2009年12月の選挙においても再選されている現政権は、2006年4月に大統領令No.28671を通じて「障がい者の平等・機会均等に関する国家計画」（Plan Nacional de Igualdad y Equiparación de Oportunidades : PNIEO）を制定し、教育分野に関しては学校教育におけるインクルーシブな視点の重視や特別支援教育の充実を打ち出す等、特別支援教育の改善を重視する方針をとっている。

これを受け、ボリビア教育省（Ministerio de Educación : ME）は、2010年より新規教員養成に関して、教員免許取得条件を従来の3年制の教員養成課程修了（短大卒レベル）から、5年制の学士課程修了に変更すると同時に、特別支援教育専門課程の新設を決定した。また、特別支援学校の充実や、普通学校内の特別支援学級設置、普通学級における特別支援教育の実施をめざす方針をとっている。一方、これまで新規教員養成カリキュラムのなかに特別支援教育に関する講座は存在せず、現職教員への研修も行われていなかったために、国内では高い専門性を有する特別支援教育専門人材が育成されていない状況である。したがって、現在ボリビアにおいては、特別支援教育を強化していくために必要な、特別支援教育を専門とする中核人材の育成が急務となっている。

JICAはこれまで企画調査員や青年海外協力隊、シニア海外ボランティア、本邦研修等を通じて、特別支援学校の現職教員に対する支援を行い、特別支援教育の質向上に貢献してきた。これらの成果がボリビア教育省に認識されるに至り、新規教員養成や現職教員研修を通じた特別支援教育の中核人材育成に係る技術協力が要請され、これを受けてJICAは2010年6月1日より2年半の予定で「ボリビア特別支援教育教員養成プロジェクト（Proyecto para Formación de Maestros/as en Educación Inclusiva en la Diversidad-Aprendemos en la Diversidad : FM-EID）」を開始した。その後、2012年10月には、ボリビア側との協議により、プロジェクト期間を半年間延長し、2013年5月31日までとすることを合意した。

今般、プロジェクト活動終了を3カ月後に控え、終了時評価調査を実施した。なお、本件は小規模案件であり、終了時評価を要する案件には該当しないものの、特別支援教育に取り組む案件は限定的であり、今後の教育協力や障がい者支援を検討するうえでの情報・知見として重要であることから、同国「教師教育教材改訂プロジェクト」詳細計画策定調査（詳細は同調査報告書参照）と同時期に、簡易な方法により終了時評価を行った。

## 1-2 調査団構成

担当分野	氏名	所属
団長・総括	村田 敏雄	JICA 国際協力専門員（人間開発部課題アドバイザー）
協力企画	池田 亜美	JICA 人間開発部 基礎教育第一課職員

### 1-3 調査日程

現地調査は、2013年2月15日から3月4日までの期間で実施された。

調査日程の概要は、以下のとおりである。

日 程		活動内容 ※「教師教育教材改訂プロジェクト」詳細計画策定調査の活動も含む
2月15日	金	東京/マナグア発
2月16日	土	16:05 ラパス着 19:00 JICAボリビア事務所/団内打合せ
2月17日	日	AM 協議準備、資料整理 15:00-19:00 JICAボリビア事務所打合せ
2月18日	月	9:00-11:00 JICAボリビア事務所打合せ PM 協議準備
2月19日	火	9:30-10:00 教育省高等教育次官協議 16:00-16:30 教育省教師教育局長協議 16:30-17:00 教育省代替・特殊教育次官協議
2月20日	水	8:30-11:00 シモンボリバル高等教員養成校 (Escuela Superior de Formación de Maestros : ESFM) 視察 インタビュー 15:30-16:00 教育省国際協力担当官協議
2月21日	木	報告書・ミニッツ/Acta案作成、団内協議
2月22日	金	報告書・ミニッツ/Acta案作成、団内協議
2月23日	土	AM 報告書・ミニッツ/Acta案作成、資料整理 15:30-19:00 FM-EID専門家インタビュー
2月24日	日	報告書・ミニッツ/Acta案作成、団内協議、資料整理
2月25日	月	9:00-10:00 教育省教師教育局長協議 報告書作成 18:30-19:00 教育省高等教育次官協議 19:30-20:30 JICAボリビア事務所打合せ
2月26日	火	8:00-9:00 教育省代替・教育次官協議 15:00-16:00 VIPFE (Viceministerio de Inversión Pública y Financiamiento Externo) 担当官協議
2月27日	水	8:30-9:30 教育省高等教育次官・教師教育局長とのActa署名、教員養成カリキュラム・教育実習に係る提言 (プレゼンテーション) 14:30-16:00 ムルラタ特別支援教育センター授業観察、インタビュー 17:00-17:30 教育省代替・特殊教育次官協議
2月28日	木	報告書作成
3月1日	金	8:30-10:30 教育省代替・特殊教育局協議 10:30-11:30 FM-EID専門家打合せ 16:00-17:00 JICAボリビア事務所報告 17:00-18:00 在ボリビア日本大使館報告
3月2日	土	16:45 ラパス発→東京着 (3月4日)

#### 1-4 面談者

調査団は、ボリビア教育省、シモン・ボリバル高等教員養成校、ムルラタ特別支援教育センター、日本側関係者等との協議、インタビュー及び授業観察を行った。面談者は表1-1のとおり。

表1-1 面談者リスト

No.	氏名	役職
教育省		
1	Benecio Quispe	高等教育次官
2	Noel Aguirre	代替・特殊教育次官
3	Fernando Carrión	教師教育局長
4	Susana Postigo	大臣官房国際協力チーム専門官
5	Delia Apaza	特殊教育局長
6	Jaime Chambilla	教員継続研修専門官
7	Luisa Cáceres Velasco	教員養成専門官
8	Gonzalo Vacaflores	特殊教育技官
9	José Luis Pumacawa	特殊教育技官
開発企画省公共投資・海外金融次官室		
1	Stephanie Bellot	海外金融分析官
シモン・ボリバル高等教員養成校		
1	José Antonio Villalba Choque	校長
2	Rómulo Huayta	総務経理局長
3	Melva Laime Bramas	学術局長
4	Edith Chacón	教員（コアグループメンバー）
5	María Luisa Cusicanqui	教員（コアグループメンバー）
6	María Consuelo Dávila	教員（コアグループメンバー）
7	Juan Gutiérrez	教員（コアグループメンバー）
8	María Elena Martínez	教員（コアグループメンバー）
ムルラタ特別支援教育センター		
1	Luz Wayar	校長
2	Ruth Bautista	教員（コアグループメンバー）
3	Lizet Ortiz	教員（コアグループメンバー）
4	Nancy Maydana	教員（コアグループメンバー）
5	Edwin Coaquira	教員（コアグループメンバー）
FM-EIDプロジェクト		
1	上條 高子	長期専門家
在ボリビア日本大使館		
1	江崎 浩司	参事官
2	紙屋 貴典	二等書記官（経済協力担当）
JICAボリビア事務所		
1	丸岡 秀行	所長
2	河内 正浩	次長
3	大里 圭一	所員
4	Mónica Okabe	ナショナルスタッフ
5	Rocío Peredo	在外専門調整員

## 第2章 対象プロジェクトの概要

### 2-1 ボリビアの教育セクター概況<sup>1</sup>

#### 2-1-1 教育セクター概況

##### (1) 新教育法制定と教育制度改革

2009年2月の新憲法発布後、懸案であった新教育法（Ley de la Educación “Avelino Siñani-Elizardo Pérez”）が2010年12月に制定され、多民族国家の設立と「尊厳ある生き方（Vivir Bien）」をめざし、脱植民地化を掲げる新たな教育理念の下、各種の教育改革が実施されている。そして、普通教育制度は、これまでの就学前教育1年間－初等教育8年間－中等教育4年間－高等教育（過程により教育年限多様）から就学前教育2年間－初等教育6年間－中等教育6年間－高等教育に移行された。

##### (2) カリキュラム改編

新教育法の制定を受け、新憲法と新教育法の理念を教育現場で実践すべく、2011年9月に普通教育、高等技術教育、教員養成、代替教育のカリキュラムが公式発表された。新カリキュラムに基づく教育は、児童・生徒や学校が属するコミュニティの問題やニーズを把握し、これを解決・実現するために必要な知識・技術を「生産的コミュニティ教育プロジェクト（Proyecto Educativo Comunitario Productivo）」を通じて獲得するデザインになっている。これは半期ごとに教員が準備する指導計画と一連の教育・学習活動に相当し、1つのテーマ（例えば「水」「環境保全」など）に基づき、各教科の要素を盛り込んで作成するもので、児童・生徒の問題解決能力育成をめざしている。日本の「総合的な学習の時間」に似ているが、教科書を用いた教科別指導は行わず全教育課程を総合学習とするところが非常に大きな特徴である。教育省はカリキュラム（日本の学習指導要領総則に相当）とプログラム（学習指導要領教科に相当）の提示、生産的コミュニティ教育プロジェクトに必要な各種執務参考資料の提供、教育実践に必要な教員研修の実施を行い、教員はこれらを基に学校教育を実践することになる。なお、同教育の実施体制は教育省、市役所（役場）、コミュニティ組織（先住民組織など）によって構成され、同プロジェクトを通じた教育実践に必要な各種情報・支援が市役所とコミュニティ組織から提供される見込みである。また、教育省は新カリキュラムに即した教科書を作成しない方針であるものの、各種指導案集のアーカイブを整備する計画を有しており、将来的には各地の生産的コミュニティ教育プロジェクトの実践結果そのものが、地域的な特徴を帯びた教科書として昇華されることを期待している。

新カリキュラムは、①教育省本省による国レベルの「基礎カリキュラム（Currículo Base）」と「学習計画（Plan de Desarrollo）」の策定、②①を各地の特性やニーズに応じて適正化させた、地域レベルの「地域カリキュラム（Currículo Regionalizado）」の策定、③②を学校や児童生徒の現状に合わせて改編した「多様化カリキュラム（Currículo Diversificado）」の策定、の3段階を経て授業実践にあたることが規定されている。しかし、各カリキュラムの内容規定の不十分さ、カリキュラム策定・適正化プロセスの不明確さ、「地域カリキュラム」

<sup>1</sup> 「ボリビア多民族国 特別支援教育教員養成プロジェクト 運営指導調査団報告書」JICA、2012より

の地理的な適用範囲と策定主体の未規定、初等・中等教育第1学年を除く新カリキュラム導入スケジュールの未定などの問題が存在しており、短期間で新カリキュラムの教室実践を行える状況にはない。なお、これらの背景には全教科統合をめざす総合学習に起因する技術的な困難さとカリキュラム開発関連の専門人材の大幅な不足が存在する。

ちなみに、教育省の当初予定では、2011年12月までに総合的な教育計画、カリキュラム最終版、プログラム、執務参考資料を作成し、それらを基にした教員研修を2011年中に実施し（主に初等・中等教育第1学年担当教員対象）、2012年から本格導入する予定であった。しかし、事前研修の不足などを理由に教員組合の反対を受け、2012年は初等・中等教育第1学年カリキュラムの試行期間とし、初等教育第2～6学年と中等教育第2～6学年については、2012年の試行結果を踏まえて導入スケジュールが決定される見込みである。

### (3) 教員養成課程の改編

教員養成課程は後期中等教育3年間から高等教育2年間を加えた高等教育5年間になり、実施機関である教員養成校も名称を“*Instituto Normal Superior (INS)*”から“*Escuelas Superiores de Formacion de Maestras y Maestros (ESFM)*”へと変え、カリキュラムも改定された。これに併せて2011年には教員養成校第1・2学年担当教員の再雇用（選考に基づく再契約）が、2012年には教員養成校第3～5学年担当教員の再雇用が実施された。また、教育省は新カリキュラム実践準備と教員需給調整の必要から2012年は新入生を募集せず、新課程の2・3年生が教員養成校で学んでいる状況にある。

### (4) 現職教員研修の現状

2009年6月施行の大統領令156号によって継続教育専門ユニット（*Unidad Especializada de Formación Continua*）が設置された。UNEFCOの前身である現職教員研修センター（*Instituto de Formación Docente : INFOPER*）は、分野専門性を有する技官を抱え、彼らが研修講師となって研修を実施していた。しかし、UNEFCOでは、研修の計画・実施・評価は行うものの、研修講師はテーマの専門性と経験を有する現職教員（契約講師）が担っており、UNEFCOは現職教員研修調整機関として機能している。

同機関は2011年までに常設現職教員研修プログラム（*Interino Formativo : I/F*、参加教員約4万7,000名）、中等教員専門強化研修プログラム（*Programa de Especialización y Actualización para los Maestros de Secundaria : PEAMS*、参加教員約3,000名）を実施し、今後、代用教員資格付与プログラム（*Programa de Profesionalización para los Maestros Interinos : PPMI*）の後継的な位置づけを有する教員補完研修プログラム（*Programa de Formación Complementaria para Maestras y Maestros : PROFOCOM*）の実施を計画している。同プログラムは新カリキュラムの適切な導入をめざして実施されるものである。

## 2-1-2 特別支援教育への取り組み

### (1) 特別支援教育の法的枠組み

1985年に教育省内にリハビリテーションと特殊教育部門が設置され、1990年には教育省が統合教育（インテグレーション教育）をめざして「バリアフリーの推奨」と「段階的な学校教育への統合」の推進を決定した。後者の方針は、①肢体不自由・運動障がい、感覚

器障がい（聴覚・視覚）に関しては完全な統合教育、②普通教育と特殊教育を組み合わせた部分的な統合教育、③普通教育施設の付属学級での部分的な統合教育、である。しかし、1994年には教育改革法1565が制定されて特殊教育は代替教育として位置づけられたことにより、代替教育と普通教育の組織的統合がなされず、特殊教育は特殊教育諸学校に対しての支援に限られ、普通教育内の障がい児に対してのケアや普通学校への啓発は実現しなかった。

2006年4月には「障がい者の平等・機会均等に関する国家計画」（PNIEO）を国家政策として認める内容の大統領令No.28671が制定された。PNIEOにおける教育分野の目的は、特別支援教育の必要な生徒たちの能力に応じた国家教育制度におけるインクルージョンの促進である。また、戦略として、①教育制度へのインクルージョン教育の視点の適用、②教育カリキュラムの適合の促進、③インクルーシブな視点による特殊教育の実践、④同専門性を身につけさせる教員養成の実現、⑤コミュニティ参加によるリハビリテーションの技術的手段の導入、⑥情報整備と研究活動の促進、⑦成人教育へのアクセスの保障、⑧障がい者の大学や専門学校へのアクセスの促進が掲げられた。

2009年2月7日には新憲法が発布され、そのなかには11章にわたって障がい者関連の記述が存在する。特に第70章の「障がい者の権利」、第71章の「障がい者差別の禁止と社会参加の促進」、第72章の「障がいの予防とリハビリテーションの保障」は非常に重要である。この憲法を受けて内閣改造や省庁再編が行われ、教育省では代替・特殊教育次官室と特殊教育局が設置された。また、司法省では平等・機会均等次官室が設けられ、障がい局が新設された。

2010年12月20日には新教育法（アベリノシニャニ・エリサルドペレス）が公布された。同法では特殊教育の位置づけが明確になり、特殊教育は個々の能力や潜在的可能性を尊重しつつ、知的・学習・運動・聴覚・視覚障がい、肢体不自由、重複障がいをもつ児童・生徒と優秀児童・生徒を対象に、包括的な国家教育制度のなかで特別支援教育がなされることと規定された。

その具体的な目標は次の9つである。①特別支援教育の提供による自己実現と社会参加の実現、②普通教育へのインテグレーション、③学習支援による心理・教育的発達の実現、④特別支援教育への人々の関心向上、⑤早期療育と初等教育の提供、⑥普通教育における特別支援教育の必要な児童・生徒への教育的支援、⑦点字、手話、特別な教材・教具、指文字などの教育制度への導入と教員養成課程での義務化、⑧全学校における専門的コミュニケーション手段の準備、⑨知的・身体的・感覚的能力の違いの発見と解決のための専門的技術の促進・適用。

## (2) 特別支援教育の現状

プロジェクト開始後の特別支援教育の動きとして、政府による特別支援学校3校の建設、教員養成課程カリキュラムへの特別支援教育関連講義の導入と必修化、教員養成校インクルーシブ教員養成課程の人材再雇用の実施がある。2011年9月に公布された教員養成課程カリキュラムは、プロジェクトの研修内容と関連性が高くなっており、プロジェクトのインパクトが確認できる。

## 2-2 基本計画

本プロジェクトの概要は表2-1のとおり。なお、成果6は2012年2月27日（月）～3月9日（金）の運営指導調査時のJCCにおいて追加することが合意された。

表2-1 プロジェクト基本計画の概要

協力期間	2010年6月1日～2013年5月31日（3年間）
上位目標	コアグループが活用されることにより、特別支援教育に携わる人材育成が強化される。
プロジェクト目標	コアグループがボリビアの特別支援教育を担う中核人材として育成される。
期待される成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>① コアグループの障がいに関する基礎知識が向上する。</li> <li>② コアグループの特別支援の必要な児童・生徒の実態把握及び発達診断能力が向上する。</li> <li>③ コアグループの特別支援教育における計画能力が強化される。</li> <li>④ コアグループの各教育施設における教育実践が向上する。</li> <li>⑤ 1-4の成果をまとめた教材が作成される。</li> <li>⑥ コアグループにより所属校においてプロジェクト活動のモニタリングが実施される。</li> </ul>
対象サイト	ラパス県、コチャバンバ県、サンタクルス県

## 2-3 実施体制

プロジェクトの実施体制は、プロジェクト・ダイレクターである高等教育次官が議長を務める合同調整委員会（JCC）を最高意思決定機関とし、プロジェクトの実施方針の決定、年間活動計画の承認と進捗確認、プロジェクトが実施する研修内容の決定、その他のプロジェクト実施に関する各種決定を行う。JCCは原則として年1回開催されるが、必要に応じて議長がJCCメンバーを招集し、協議できる仕組みになっている。JCCのメンバーは高等教育次官、代替・特殊教育次官、普通教育次官、教員養成局長、同局教員養成課長、同局技官（以上、ボリビア側）、JICAボリビア事務所長、JICA専門家（以上、日本側）で構成されているが、必要に応じて教育省の代替特殊教育次官室特別支援教育局長、普通教育次官室普通教育局長、普通教育次官室初等・中等教育局長が参加する。

JCCの下部にはプロジェクト・マネジャーである教員養成局長が委員長を務める運営委員会（Comité de Ejecución : CE）が存在し、プロジェクトの適切な実施にかかる組織間調整、プロジェクト活動の進捗確認、県レベルのモニタリングやワークショップ運営などのファシリテーション、県レベルの活動に係る活動進捗確認などを行う。CEは原則として教育省が県ごとに月に2回召集することになっている。CEのメンバーは教員養成局長、同局教員養成課長、同局技官、協力対象の教員養成校3校の副校長、協力対象の特別支援学校/センターの校長・センター長（以上、ボリビア側）、JICA専門家（以上、日本側）によって構成される。



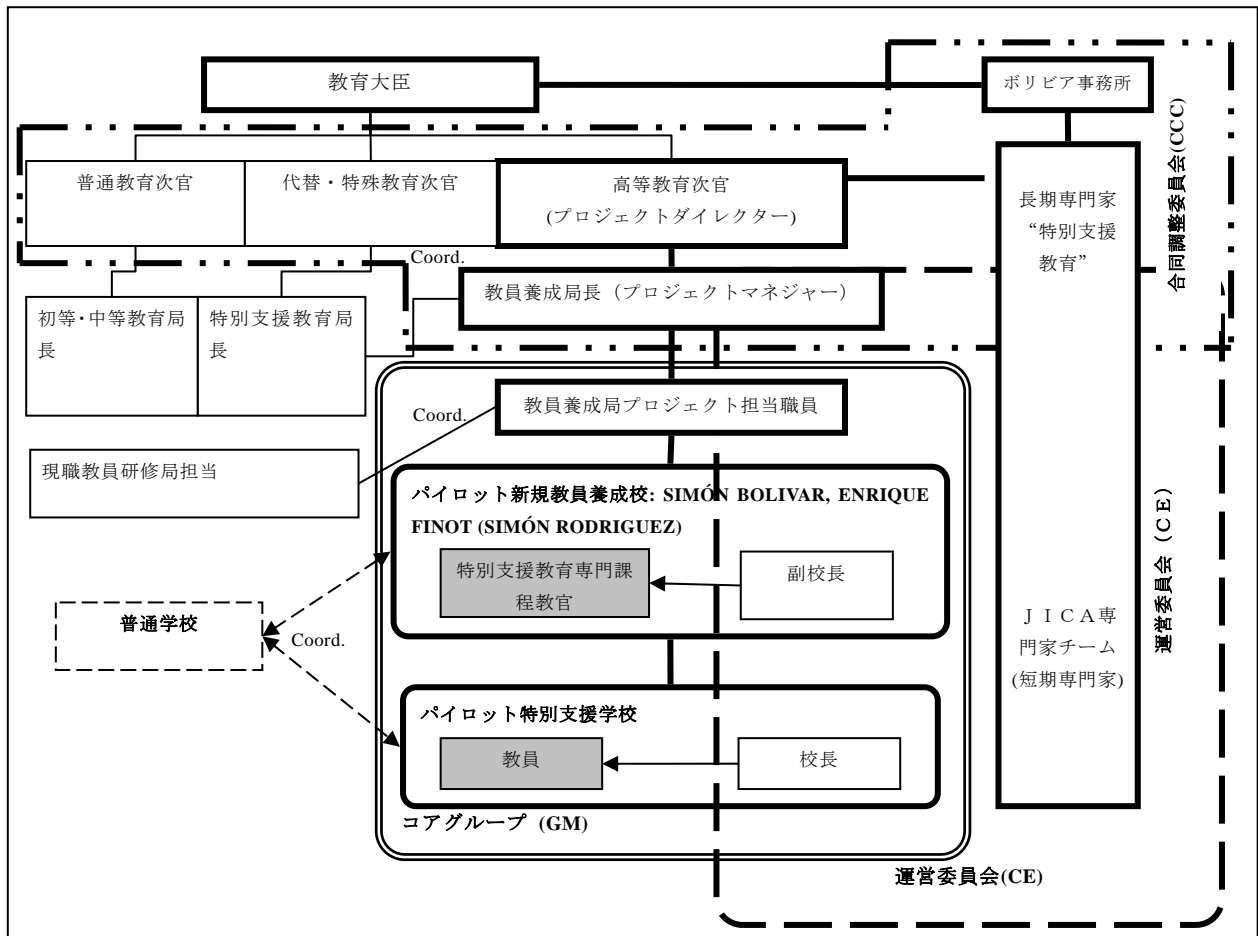


図 2-1 プロジェクト実施体制図

#### 2-4 協力内容

本プロジェクトの基本的なロジック・モデル（活動と期待される効果の因果関係）は、図-2のとおりである。この図は、プロジェクト・デザイン・マトリックス（PDM）記載の上位目標・プロジェクト目標・成果間の関係性を明確にすべく、運営指導調査時に作成されたものである。これで明らかなように、プロジェクトはコアグループの基礎知識、実態把握/発達診断能力、計画能力を向上させ、教員養成校3校や特別支援学校/センター7校での教育実践を改善する。そして、プロジェクト活動を通じて獲得した知識・技術を各施設で実践し、それらの経験を基に教材を作成することでコアグループの更なる能力向上を図るデザインになっている。さらに、コアグループが作成教材を媒介として他の教員と知識・技術・経験を共有しつつ特別支援教育指導者を効果的・効率的に育成することで、将来的にボリビア国全土の特別支援教育の改善をめざしている。

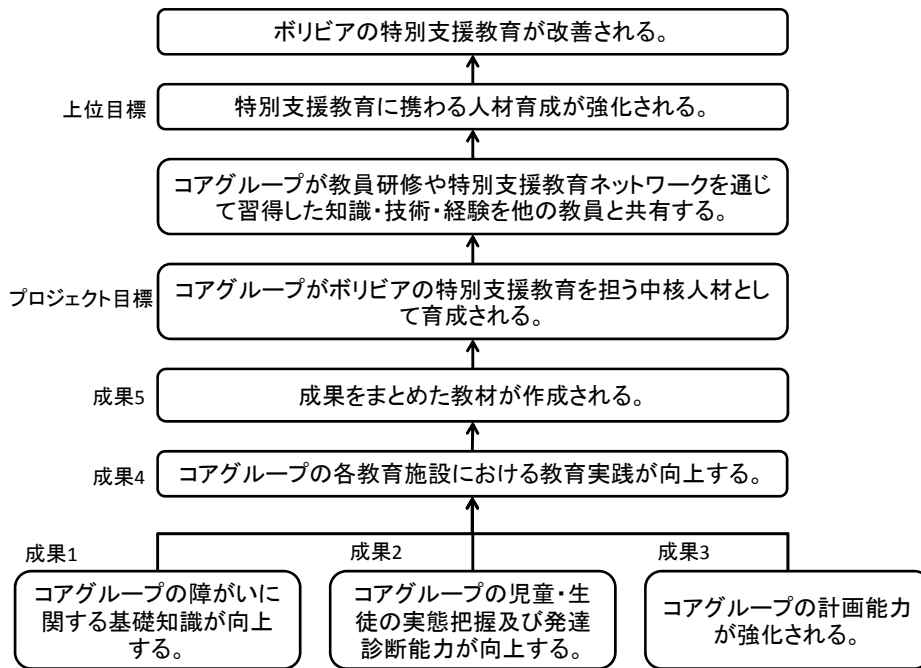


図 2-2 プロジェクト概念図

出所：「ボリビア多民族国 特別支援教育教員養成プロジェクト 運営指導調査団報告書」JICA、2012

## 第3章 評価の方法

### 3-1 評価設問と必要なデータ・評価指標

本プロジェクトは小規模案件であり、協力開始当初（R/D署名2010年5月27日）にプロジェクト・デザイン・マトリックス（Project Design Matrix：PDM）を作成していない。このため、今次評価では、2012年3月8日開催の第1回合同調整委員会（Joint Coordinating Committee：JCC）で合意された指標に基づき、実績の確認及び5項目評価を行った。

### 3-2 評価実施方法

本評価調査の実施プロセスと評価方法は以下のとおりである。

#### 3-2-1 評価実施プロセス

- (1) プロジェクト・チームにより、自己評価結果（評価グリッド案）を作成する。
- (2) PDMに沿って、投入実績、活動実績、計画達成度を確認する。
- (3) 計画達成度を踏まえ、評価5項目（妥当性、有効性、効率性、インパクト、持続性）の観点から、プロジェクトの目標達成度及び成果等を評価する。

表3-1 DAC評価5項目

評価項目	説明
妥当性 (relevance)	開発援助と、ターゲット・グループ・相手国・ドナーの優先度並びに政策・方針との整合性の度合い。
有効性 (effectiveness)	開発援助の目標の達成度合いを測る尺度。
効率性 (efficiency)	インプットに対するアウトプット（定性並びに定量的）を計測する。開発援助が期待される結果を達成ために最もコストのかからない資源を使っていることを示す経済用語。最も効率的なプロセスが採用されたかを確認するため、通常、他のアプローチとの比較を必要とする。
インパクト (impact)	開発援助によって直接または間接的に、意図的または意図せず生じる、正・負の変化。開発援助が、地域社会・経済・環境並びにその他の開発の指標にもたらす主要な影響や効果を含む。
持続性 (sustainability)	ドナーによる支援が終了しても、開発援助による便益が継続するかを測る。開発援助は、環境面でも財政面でも持続可能でなければならない。

出所：「新 JICA事業評価ガイドライン 第1版」JICA、2010

- (4) 上記の評価結果に基づき、プロジェクト終了までの課題及び今後の活動計画についてプロジェクト・チームと協議し、提言、教訓を取りまとめる。

(5) 評価・協議結果を合同評価報告書（西語）として取りまとめる。

(6) 調査結果を踏まえ教育省関係者と協議を行い、議事録（Acta）で合意する。

### 3-2-2 評価方法

「新JICA事業評価ガイドライン 第1版」（JICA、2010）に基づき、「プロジェクト評価の手引き改訂版JICA事業評価ガイドライン」（JICA、2004）を参考に、以下の手法によりプロジェクト評価を実施した。

(1) 文献・既存資料調査（各種調査団報告書、事業進捗報告書、その他プロジェクト作成の各種報告書等、既存報告書の分析）

(2) 直接観察（特別支援教育センターの観察）

(3) インタビュー調査〔教育省本省と高等教員養成校・特別支援教育センターのプロジェクト関係者（校長、教員等）へのインタビュー〕

(4) プロジェクトによる自己評価結果（評価グリッド案）の確認・修正

### 3-4 評価調査の制約・限界

本評価調査実施にあたり、以下の制約・限界が存在した。

#### (1) 物理的制約

本終了時評価調査団は詳細計画策定調査と同期間で実施し、その間に評価分析、合同評価報告書作成、評価結果に関する合意を行わなければならないため、現地調査活動に費やせる時間は非常に限られている。そのため、今回はプロジェクトの自己評価結果の検証を主業務とし、現地調査は同作業に必要な補足調査の実施にとどまった。

また、本プロジェクト対象地域は3県にまたがり、地理的に非常に広範である。したがって、コアグループ全員を対象にプロジェクトの効果を直接検証することは困難であり、悉皆調査結果に近い既存資料（研修事前・事後テスト結果、個別指導計画、授業案等）を基に評価分析を行わざるを得なかった。

#### (2) 客観性の確保

評価分析をするうえで客観性の確保は最も重要な考慮事項である。そのため、本終了時評価調査にあたっては、確認された事実のみに基づいて判断することを徹底した。しかし、プロジェクト評価のあり方そのものに起因して、その客観性には一定の限界が存在する。

## 第4章 プロジェクトの実績

### 4-1 実績の確認

#### 4-1-1 投入実績

##### (1) 日本側投入

日本側総投入額は1億1,000万円（2011年度末までの支出実績及び2012年度計画額）で、詳細は以下のとおりである。

##### 1) 専門家派遣

2012年7月までに長期専門家1名が派遣された。なお、長期専門家はプロジェクト延長に伴い半年間の任期延長を行った。

表4-1 JICA専門家派遣実績

区分	氏名	指導科目	派遣期間
長期専門家	上條貴子	特別支援教育	2010/6/1～2013/5/31

##### 2) 調査団派遣

調査団派遣実績は以下のとおり。

表4-2 JICA調査団派遣実績

調査団名	担当分野	氏名	所属	派遣期間
詳細計画策定調査団	団長	西方 憲広	JICA国際協力専門員/ 人間開発部課題アドバイザー	2010/2/18～2/25
	教員研修	上條 貴子	-	2010/1/16～2/27
	協力企画	前田 佳代子	JICA人間開発部基礎教育第二課職員	2010/2/18～2/25
運営指導	専門員	村田 敏雄	JICA国際協力専門員/人間開発部課題 アドバイザー	2011/10/20～10/26
運営指導調査団	団長/総括	村田 敏雄	JICA国際協力専門員/ 人間開発部課題アドバイザー	2012/2/26～3/16
	特別支援教育 (知的障がい)	野村 勝彦	筑波大学特別支援教育研究センター 教諭	2012/2/25～3/12
	特別支援教育 (視覚障がい)	間々田 和彦	筑波大学特別支援教育研究センター 教諭	2012/2/25～3/12
運営指導調査団	団長	村田 敏雄	JICA国際協力専門員/ 人間開発部課題アドバイザー	2012/10/15～11/4
終了時評価調査団	団長	村田 敏雄	JICA国際協力専門員/ 人間開発部課題アドバイザー	2013/2/16～3/2
	協力企画	池田 亜美	JICA本部 人間開発部基礎教育第1課	

##### 3) 機材投入

供与機材の調達実績は表4-3のとおり。

表 4-3 機材投入実績

機材名	数量	供与場所	使用状況	価格 (USドル)	供与日
ビデオ機材	7	アウディオロヒア聾学校	使用中	500	2011/6/27、7/11 (調達2010年度)
		パラリシスセブレラル・センター	使用中	500	
		ムルラタ・センター	使用中	500	
		フリア・ヒメネス・デ・グティエレス聾学校	使用中	500	
		アプレシア・センター	使用中	500	
		プレファBセンター	使用中	500	
		プレファ・コチャバンバ・センター	使用中	500	
ビデオ機材	3	シモンボリバル教員養成校	使用中	500	2012/3/2
		エンリケフィノット教員養成校	使用中	500	
		シモンロドリゲス教員養成校	使用中	500	
教育器具 ・マット ・バランスボール (丸) ・バランスボール (卵形) ・トンネル ・袋 ・縄跳び	各4 各1	アウディオロヒア聾学校	使用中	228	2011/12/9
		パラリシスセブレラル・センター	使用中	228	
		ムルラタ・センター	使用中	228	
		フリア・ヒメネス・デ・グティエレス聾学校	使用中	228	
	各1	アプレシア・センター	使用中	228	
		プレファBセンター	使用中	228	
	各1 各1 各2	プレファ・コチャバンバ・センター	使用中	228	
		シモンボリバル教員養成校	使用中	228	
		エンリケフィノット教員養成校	使用中	228	
心理検査用具	各11	アウディオロヒア聾学校	使用中	1,583	2011/5~6
		パラリシスセブレラル・センター	使用中	5,350	
		ムルラタ・センター	使用中	1,583	
		フリア・ヒメネス・デ・グティエレス聾学校	使用中	1,583	
		アプレシア・センター	使用中	1,583	
		プレファBセンター	使用中	4,554	
		プレファ・コチャバンバ・センター	使用中	1,583	
		シモンボリバル教員養成校	使用中	3,166	2013/5
		シモンロドリゲス教員養成校	使用中	1,583	
		エンリケフィノット教員養成校	使用中	2,605	
参考図書	48	シモンボリバル教員養成校	使用中	942	2013/5
点字器と算盤	50	シモンボリバル教員養成校	使用中	526	2013/5
	50	シモンロドリゲス教員養成校	使用中	526	
	50	エンリケフィノット教員養成校	使用中	526	
アクリル板の黒板 (磁石使用可)	23	フリア・ヒメネス・デ・グティエレス聾学校	使用中	5,000	2012/6
	18	プレファBセンター	使用中	3,913	
	8	パラリシスセブレラル・センター	使用中	1,739	
	1	アプレシア・センター	使用中	217	
生徒用の個別機 とイス	10	アプレシア・センター	使用中	1,228	2012/5~6
	149	フリア・ヒメネス・デ・グティエレス聾学校	使用中	19,525	
	53	プレファ・コチャバンバ・センター	使用中	6,905	
	166	ムルラタ・センター	使用中	21,620	
	203	プレファBセンター	使用中	26,409	

	144	パラリシスセブレラル・センター	使用中	18,434	2012/8
	140	アウデイオロヒア聾学校	使用中	18,296	
	26	フリア・ヒメネス・デ・グティエレス聾学校	使用中	3,521	
	10	プレファ・コチャバンバ・センター	使用中	1,354	
	4	パラリシス・セブレラルセンター	使用中	542	
合計				163,448	

5) 本邦研修

コアグループの能力向上をめざして表4-4のとおり本邦研修が実施された。

表4-4 本邦研修実績

研修名	期 間	研修員	本邦協力機関
南米地域 特別支援教育	2010/9/1～ 2010/10/9	合計：3名 1. ラミロ・クエンタス教育省教員養成局長（当時） 2. コンスエロ・ダビラ教員養成校教員 3. ジョニー・モレノ教員養成校教員	筑波大学人間学群障害科学類 筑波大学特別支援教育研究センター
南米地域 特別支援教育	2011/8/20～ 2011/10/1	合計：3名 1. ルーシー・フェルナンデス教育省技官 2. ファニー・チャコン教員養成校教員 3. リリィ・オルトゥニョ教員養成校教員	同上
日本の特別支援教育 (視覚・聴覚障がい)	2011/11/1～ 2011/11/25	合計：10名 1. フアン・グエティエレス教員養成校教員（視覚） 2. オルランド・カマチョ聾学校教員 3. ミルタ・アルバレス教員養成校教員（聴覚） 4. クリスティーナ・デルガディリョ盲学校教員 5. マリアエレナ・マリティネス教員養成校教員（聴覚） 6. カテリネ・サルバティエラ盲学校教員 7. スルマ・ソラレス聾学校教員 8. グロリア・アバスト聾学校教員 9. オリビア・サグレド聾学校教員 10. ロサリオ・カベサス盲学校教員	筑波大学特別支援教育研究センター 附属視覚特別支援学校 附属聴覚特別支援学校
特別支援教育 教員養成制度強化	2011/11/7～ 2011/11/11	1. テラサス・アルマンド教育省高等教育次官	同上 筑波大学人間学群障害科学類
日本の特別支援教育 (知的・発達障がい、運動・重複障がい)	2012/6/4～ 2011/6/29	合計：10名 1. マリア・ルイサ・クシカンキ教員養成校教員（運動） 2. ルティ・ロブレス教員養成校教員（運動） 3. ビクトリア・モロン教員養成校教員（知的） 4. イレネ・フェルナンデス運動障がい特別支援学校校長 5. マウリシオ・ソサ運動障がい特別支援学校教員 6. マルケサ・レアニョス運動障がい特別支援学校教員 7. リディア・ペレド知的障がい特別支援学校校長 8. ルドビナ・グティエレス知的障がい特別支援学校教員	筑波大学特別支援教育研究センター 附属大塚特別支援学校 附属桐が丘特別支援学校 附属久里浜特別支援学校

		9. ルトゥ・バウティスタ知的障がい特別支援学校 教員 10. リセツト・オルティス知的障がい特別支援学校 教員	
--	--	---	--

また、プロジェクト外の活動ではあるが、C/Pの能力向上を目的として参加した地域別研修は表4-5のとおり。

表4-5 地域別研修実績

研修名	期 間	研修員	本邦協力機関
南米地域 特別支援教育	2010/9/1～ 2010/10/9	合計：3名 1. ラミロ・クエンタス教育省教員養成局長（当時） 2. コンスエロ・ダビラ教員養成校教員 3. ジョニー・モレノ教員養成校教員	筑波大学人間学 群障害科学類 筑波大学特別 支援教育研究 センター
南米地域 特別支援教育	2011/8/20～ 2011/10/1	合計：3名 1. ルーシー・フェルナンデス教育省技官 2. ファニー・チャコン教員養成校教員 3. リリイ・オルトゥニョ教員養成校教員	同上

5) 在外事業強化費

現地におけるプロジェクト活動実施経費は以下のとおり。また、プロジェクトは現地コンサルタント、第三国専門家を活用し、実施体制の強化を図っている。

表4-6 在外強化費実績

年 度	金 額
2010	546万3,000円（実績）
2011	665万2,000円（実績）
2012	821万8,000円（見込み）
2013	333万4,000円（見込み）
計	2,366万7,000円



表 4-7 現地コンサルタント一覧

氏名	役割	雇用期間
クラウディア・ドラド	テキスト等の編集とプロジェクトのロジスティックス	2010/12/10～2011/3/31 2011/4/19～2012/3/30 2012/4/30～11/30 2012/12/21～2013/5/31
フアン・カルロス・ドゥラン	第1回全国研修セミナー講師	2010/7/12～14
ルシオ・アルバレス		2010/7/15
フェリサ・アリ		2010/7/12
ロクサナ・セルム		2010/7/16
ロシオ・ペレド		—
グラシエラ・ミナヤ		—
ニノスカ・オカンポ	第2回全国研修セミナー講師	2010/10/25～27
フアンカルロス・ドゥラン		2010/10/28～29
ルベン・ブルゴス	第3回全国研修セミナー講師	2010/12/13～15
グロリア・サバト		2010/12/15～17
ラウル・ベリス	第4回全国研修セミナー講師	2011/7/1
ネリー・ガレアノ	第5回全国研修セミナー講師	2011/7/11～13
ベッツィ・オレリヤノ	第7回全国研修セミナー講師	2011/12/7
テレサ・ルイス		2011/12/8～9
ダリンカ・コスティック セルヒオ・オルティス クリスティアン・アビレス	サンタクルス県心理検査講師	2011/5～9 (4回)
ロサリオ・メヒア	コチャバンバ県心理検査講師	2011/6～9 (3回)
ロシオ・ペレド ヘモヘネス・カリリョ	ラパス県心理検査講師	2011/5～9 (4回)
ロサリオ・メヒア	テキスト1の校正	2011/2/26～3/21
テレサ・ルイス	第9回全国研修セミナー講師 (感覚統合)	2012/5/21～25
ロサリオ・メヒア	県セミナー(心理検査)講師及び 発達検査表作成、他	2012/6/15～11/15
ロサリオ・メヒア	発達検査表のバリデーション、 テキスト作成、研修講師、他	2012/12/21～2013/5/31

表 4-8 第三国専門家一覧

氏名	居住国	役割	雇用期間
イメルダ・フェルナン デス	アルゼンチン	第4回全国研修セミナー講師	2011/6/26～29
モニカ・モンフォルテ ラウラ・リングア			2011/6/28～7/1
アナマリア・カルデナス			
アナマリア・カルデナス	チリ	第5回全国研修セミナー講師	2011/7/9～16
ネリー・ガレアノ	コロンビア	第6回全国研修セミナー講師 第7回全国研修セミナー講師	2011/10/19～26 2011/11/31～12/7

ネリー・ガレアノ	コロンビア	児童・生徒の実態把握に関するフォローアップ	2013/2/24～3/6
----------	-------	-----------------------	---------------

(2) ボリビア側投入

1) カウンターパート配置

プロジェクト開始当初より表4-9のとおりC/Pが配置されている。このうち専任C/Pは教育省本省の特別支援教育担当技官1名のみであり、他のC/Pは本来業務との兼任になっている。また、プロジェクト開始当初、コアグループメンバーとして約80名を想定していたが、異動や家庭の事情等により約半数以下に減少した。

表4-9 カウンターパート一覧

No.	役割	氏名	所属	職位	
1	プロジェクト・ディレクター	ベネチオ・キスペ	教育省高等教育次官室	次官	
2	プロジェクト・マネジャー	フェルナンド・カリヨン	教育省教員養成局	局長	
3	コアグループ（専任）	ルーシー・フェルナンデス	教育省教員養成局	技官	
4	コアグループ （兼任：教員養成校）	ファニー・チャコン	シモン・ボリバル教員養成校	教員	
5		レイサ・クシカンキ			
6		コンスエロ・タビラ			
7		フアン・グティエレス			
8		エレナ・マルティネス			
9		ミルタ・アルバレス	エンリケ・フィノット教員養成校	教員	
10		メルセデス・グスマン			
11		ビクトリア・モロン			
12		リリイ・オルトウニョ			
13		ルティ・ロブレス	シモン・ロドリゲス教員養成校	教員	
14		フアン・ヒメネス			
15		コアグループ （兼任：特別支援教育センター）	ルス・バウティスタ	ムルラタ・センター （知的障がい）	教員
16			エドウィン・コアキラ		
17			ナンシー・マイダナ		
18	リセット・オルティス		アプレシア・センター （視覚障がい）	教員	
19	ロサリオ・カベサス				
20	クリスティーナ・デルガダイリョ				
21	カテリネ・サルバティエラ				
22	セリア・タピア				
23	ノルマ・バリェホス		パラシリス・セレブラル・センター （運動障がい）	校長  教員	
24	イレネ・フェルナンデス				
25	ティタ・アルビス				
26	マルケサ・レアニョス				
27	アーノルド・パルド				
28	マウリシオ・ソサ				

29	オリビア・サグレド	フリア・ヒメネス・デ・グティエレス聾学校 (聴覚障がい)	教員
30	スルマ・ソラレス		
31	エリカ・トレド		
32	パブロ・トレス		
33	ルドビナ・グティエレス	プレファB・センター (知的障がい)	教員
34	カルロス・ニナ		
35	マルレーネ・キロス		
36	ナンシー・アバスト	アウディオロヒア聾学校 (聴覚障がい)	教員
37	マリアエレナ・アラルコン		
38	オルランド・カマチョ		
39	アンヘラ・フェンテス		
40	マリアエレナ・ビリャロエル	プレファ・コチャバンバ・センター (知的障がい)	校長
41	リディア・ペレド		
42	マリー・カルタヘナ		
43	マルタ・アンテサナ		
44	アンパロ・リオス		
45	ロベルト・ロペス		
			教員

## 2) ローカルコスト負担

全国研修セミナー実施、全国研究大会実施、及びモニタリング（全国研修セミナーの際）のコストとしてプロジェクト開始からの負担額は、60万8,063ボリビアノ（8万7,999米ドル）に上り、全額が教育省のバスケット・ファンドから供出されている。

教育省が開催費として、参加教員の日当、交通費及び教材費を支払った研修は表4-10のとおり。

表 4-10 参加教員の日当、交通費及び教材費を支払った研修

開催期間	名 称	開催地	参加者数	主要内容
2010/7/12～16	第1回全国研修セミナー	ラパス	59	・発達心理学 ・神経生理学 ・ボリビアの障がいの現状
2010/10/25～29	第2回全国研修セミナー	サンタクルス	57	・障がい（知的、発達）関連基礎知識
2010/12/13～17	第3回全国研修セミナー	コチャバンバ	58	・障がい（感覚障がい）関連基礎知識
2011/6/27～7/1	第4回全国研修セミナー	サンタクルス	43	・視覚障がいの指導法
2011/7/15～11	第5回全国研修セミナー	コチャバンバ	43	・聴覚障がいの指導法
2011/10/24～28	第6回全国研修セミナー	ラパス	42	・発達障がい/知的障がいの指導法
2011/12/5～9	第7回全国研修セミナー	サンタクルス	43	・運動障がい（重複障がい）の指導法
2012/2/27～3/2	第8回全国研修セミナー	サンタクルス	43	・日本の特別支援教育 ・個別指導計画の作成 ・知的障がい視覚障がいの指導法

2012/5/21～25	第9回全国研修 セミナー	ラパス	43	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感覚統合</li> <li>・特別支援教育における指導法 (教室環境整備、授業案作成、 ケーススタディ、他)</li> </ul>
2012/8/27～31	第10回全国研修 セミナー	コチャバンバ	43 (+21)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ケーススタディの発表と検討 会</li> <li>・机といすの供与式 (オーディ オロヒア聾学校)</li> </ul>
2012/10/24～ 26	第1回全国研究大会	サンタクルス	100	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プロジェクトターゲット校に よる学校紹介、ケーススタ ディ発表、授業研究会</li> <li>・参加者：サンタクルスの参加 教員、ベニ・パンド/サンタク ルス県の教員養成校教員、ベ ニ/サンタクルス県の特別支 援学校/普通学校教員、オブザ ーバーほか</li> </ul>
2012/11/8～9	第2回全国研究大会	ラパス	70	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プロジェクトターゲット校に よる学校紹介、ケーススタ ディ発表、授業研究会</li> <li>・参加者：ラパスの参加教員、 ラパス/オルロ/ポトシ県の 教員養成校教員、ラパス県の 特別支援学校/普通学校教員、 オブザーバーほか</li> </ul>
2012/11/15～ 16	第3回全国研究大会	コチャバンバ	60	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プロジェクトターゲット校に よる学校紹介、ケーススタ ディ発表、授業研究会</li> <li>・参加者：コチャバンバの参加 教員、コチャバンバ/タリハ/ チュキサカ県の教員養成校 教員、コチャバンバ県の特別 支援学校/普通学校教員、オブ ザーバーほか</li> </ul>

### 3) プロジェクトの執務場所の提供

教育省は、プロジェクトの日本人専門家とその現地コンサルタントに執務場所と机といすを提供した。しかし、教育省の組織変更等に伴い、3度にわたる執務場所の変更を余儀なくされた。

#### 4-1-2 活動実績及び成果の達成状況

成果1：コアグループの障がいに関する基礎知識が向上する。

指標：1-1 研修時の事前・事後テスト結果

1-2 実習結果（公開授業の評価結果）

障がいに関する基礎知識の向上のため、以下のとおり全国研修セミナー、県研修セミナー・本邦研修が実施された。

表 4-11 障がいに関する基礎知識の向上のために実施された研修

開催期間	名 称	開催地	参加者数	主要内容
2010/6	第1回県研修 セミナー	ラパス、サン タクルス、コ チャバンバ	43	・研修計画立案 ・ベースライン調査
2010/7/12～16	第1回全国研修 セミナー	ラパス	59	・発達心理学 ・神経生理学 ・ボリビアの障がいの現状
2010/9/1～ 2010/10/9	地域別研修1 南米地域 特別支援教育	筑波大学人間 学群障害科学 類 筑波大学特別 支援教育研究 センター	3	1. ラミロ・クエンタス教育省教 員養成局長（当時、現中等教 育局長） 2. コンスエロ・ダビラ教員養成 校教員 3. ジョニー・モレノ教員養成校 教員
2010/10/25 ～ 29	第2回全国研修 セミナー	サンタクルス	57	・障がい（知的、発達）関連基 礎知識
2010/12/13 ～ 17	第3回全国研修 セミナー	コチャバンバ	58	・障がい（感覚障がい）関連基 礎知識
2011/6/27 ～ 7/1	第4回全国研修 セミナー	サンタクルス	43	・視覚障がいの指導法
2011/7/15～11	第5回全国研修 セミナー	コチャバンバ	43	・聴覚障がいの指導法
2011/8/20～ 2011/10/1	地域別研修2 南米地域 特別支援教育	筑波大学人間 学群障害科学 類 筑波大学特別 支援教育研究 センター	3	1. ルーシー・フェルナンデス教 育省技官 2. ファニー・チャコン教員養成 校教員 3. リリィ・オルトゥニョ教員養 成校教員
2011/10/24 ～ 28	第6回全国研修 セミナー	ラパス	42	・発達障がい/知的障がいの指導 法
2011/11/1～ 2011/11/25	本邦研修1 日本の特別支援教育 （視覚・聴覚障が い）	筑波大学特別 支援教育研究 センター  附属視覚特別 支援学校  附属聴覚特別 支援学校	10	<聴覚障がいグループ> 1. オルランド・カマチョ聾学校 教員 2. ミルタ・アルバレス教員養成 校教員 3. マリアエレナ・マリティネ ス教員養成校教員 4. スルマ・ソラレス聾学校教員 5. ナンシー・アバスト聾学校教 員 6. オリビア・サグレド聾学校教 員 <視覚障がいグループ> 1. フアン・グエティエレス教員 養成校教員 2. クリスティーナ・デルガディ リョ盲学校教員 3. カテリネ・サルバティエラ盲 学校教員 4. ロサリオ・カベサス盲学校教 員

2011/11/7～ 2011/11/11	本邦研修2 特別支援教育教員 養成制度強化	同上 筑波大学人間 学群障害科学 類	1	テラス・アルマンド教育省高 等教育次官
2011/12/5～9	第7回全国研修 セミナー	サンタクルス	43	・運動障がい（重複障がい）の 指導法
2012/2/27 ～ 3/2	第8回全国研修 セミナー	サンタクルス	43	・日本の特別支援教育 ・個別指導計画の作成 ・知的障がい/視覚障がいの指導 法
2012/5/21～25	第9回全国研修 セミナー	ラパス	43	・感覚統合 ・特別支援教育における指導法 （教室環境整備、授業案作成、 ケーススタディ、他）
2012/6/4～ 2012/6/29	本邦研修3 日本の特別支援教育 （知的・発達障が い、運動・重複障が い）	筑波大学特別 支援教育研究 センター  附属大塚特別 支援学校  附属桐が丘特 別支援学校  附属久里浜特 別支援学校	10	<運動・重複障がいグループ> 1. マリア・ルイサ・クシカンキ 教員養成校教員 2. ルティ・ロブレス教員養成校 教員 3. イレネ・フェルナンデス運動 障がい特別支援学校校長 4. マウリシオ・ソサ運動障がい 特別支援学校教員 5. マルケサ・レアニョス運動障 がい特別支援学校教員 <知的障がいグループ> 1. ビクトリア・モロン教員養成 校教員 2. リディア・ペレド知的障がい 特別支援学校校長 3. ルドビナ・グティエレス知的 障がい特別支援学校教員 4. ルトゥ・パウティスタ知的障 がい特別支援学校教員 5. リセット・オルティス知的障 がい特別支援学校教員
2012/8/13	第5回県研修 セミナー （サンタクルス教 員と知的・運動教員 対象）	サンタクルス	25 (+50)	・運動障がいに関する日本での 研修成果の発表、公開授業
2012/8/15	第3回県研修 セミナー （ラパス教員・技官 と知的障害教員対 象）	ラパス	22 (+25)	・知的・発達障がいに関する日 本での研修成果の発表、公開 授業

全国研修セミナーにおける事前・事後テスト及び実習の評価結果の比較により、成果1は達成されたといえる。

理論面での理解が不十分である点はみられるものの、全体としてコアグループの障がいに関する知識向上が確認された。これは、事前テストでは参加者の約7割の得点率が50%以下であ

ったのに対し、事後テスト及び実習では7割以上の参加者が50%以上の得点率を得たことから明らかである。

なお、個別に分析すると、プロジェクト活動以外にも研修で獲得した知識や技術を積極的に日々の教育実践に生かしている教員とそうでない教員との間には大きな差が生じている。

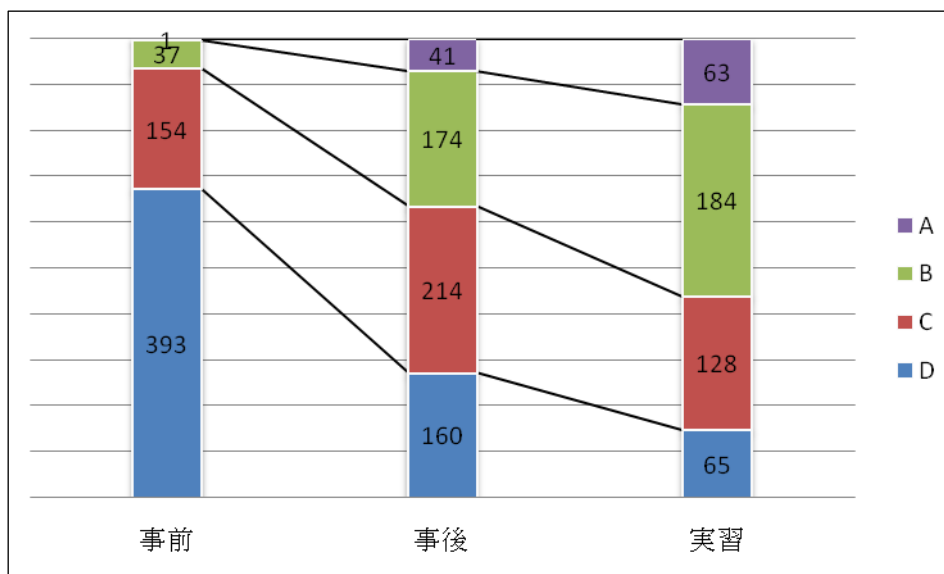


図 4-1 コアグループの事前、事後、実習の評価結果

成果 2 : コアグループの特別支援の必要な児童・生徒の実態把握及び発達診断能力が向上する。  
 指標 : 2~1 (各コアグループメンバー作成の) 個別指導計画 (プロフィール部分) の完成度

成果2達成に向けて、心理検査（教育心理アセスメント）の習得等を目的とした県研修セミナーが実施された。

表 4-12 心理検査の習得等のために実施された県研修セミナー

開催期間	名称	開催地	参加者数	主要内容
2010/11~12	第2回県研修セミナー	ラパス、サンタクルス、コチャバンバ	120	<ul style="list-style-type: none"> <li>各パイロット特別支援学校にて実施</li> <li>個別指導計画</li> </ul>
2011/2	第3回県研修セミナー	ラパス、サンタクルス、コチャバンバ	200	<ul style="list-style-type: none"> <li>各パイロット特別支援学校にて実施</li> <li>発達診断技術の習得、実態把握の方法の習得</li> <li>授業案の作成</li> </ul>
2011/5~9	ラパス県心理検査セミナー (4回)	ラパス	10×4	<ul style="list-style-type: none"> <li>レーヴン色彩マトリックス検査</li> <li>グッドイナフ人物画知能検査</li> <li>ベンダー視覚運動ゲシュタルトテスト</li> </ul>

2011/5～9	サンタクルス県心理検査セミナー（4回）	サンタクルス	23×4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・レーヴン色彩マトリックス検査</li> <li>・グッドイナフ人物画知能検査</li> <li>・ベンダー視覚運動ゲシュタルトテスト</li> </ul>
2011/6～9	コチャバンバ県心理検査セミナー（3回）	コチャバンバ	10×3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・レーヴン色彩マトリックス検査</li> <li>・グッドイナフ人物画知能検査</li> <li>・ベンダー視覚運動ゲシュタルトテスト</li> <li>・フロスティッグ視知覚発達検査</li> <li>・RP-30</li> </ul>
2012/6/25	第1回県研修セミナー （コチャバンバ教員対象）	コチャバンバ	9 （+2）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・心理検査：RP 30、BAPAE、K-BIT</li> </ul>
2012/6/29	第1回県研修セミナー （ラパス教員・技官対象）	ラパス	6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・心理検査：フロスティッグ、RP 30</li> </ul>
2012/7/6	第2回県研修セミナー （サンタクルス知的・運動教員対象）	サンタクルス	11	<ul style="list-style-type: none"> <li>・心理検査：フロスティッグ、RP 30</li> </ul>
2012/7/7	第2回県研修セミナー （サンタクルス視覚・聴覚教員対象）	サンタクルス	11	<ul style="list-style-type: none"> <li>・心理検査：フロスティッグ、RP 30</li> </ul>
2012/7/13	第3回県研修セミナー （コチャバンバ教員対象）	コチャバンバ	11	<ul style="list-style-type: none"> <li>・心理検査：PRON-L、PEABODY</li> </ul>
2012/7/20	第2回県研修セミナー （ラパス教員・技官対象）	ラパス	10	<ul style="list-style-type: none"> <li>・心理検査：BAPAE、K-BIT</li> </ul>
2012/7/27	第4回県研修セミナー （サンタクルス知的・運動教員対象）	サンタクルス	11	<ul style="list-style-type: none"> <li>・心理検査：BAPAE、K-BIT</li> </ul>
2012/7/28	第4回県研修セミナー （サンタクルス視覚・聴覚教員対象）	サンタクルス	11	<ul style="list-style-type: none"> <li>・心理検査：BAPAE、K-BIT</li> </ul>



2012/8/8	第5回県研修 セミナー (コチャバンバ教員 対象)	コチャバンバ	11	・心理検査：EDAF、Currículo Carolina
2012/8/11	第5回県研修 セミナー (サンタクルス視 覚・聴覚教員対象)	サンタクルス	11	・心理検査：PRON-L、PEABODY
2012/8/18	第5回県研修 セミナー (サンタクルス知 的・運動教員対象)	サンタクルス	11	・心理検査：PRON-L、PEABODY
2012/9/25	第4回県研修 セミナー (ラパス教員・技官 対象)	ラパス	9	・心理検査：EDAF、Currículo Carolina
2012/9/27	第7回県研修 セミナー (サンタクルス知 的・運動教員対象)	サンタクルス	11	・心理検査：EDAF、Currículo Carolina
2012/9/28	第7回県研修 セミナー (サンタクルス視 覚・聴覚教員対象)	サンタクルス	11	・心理検査：EDAF、Currículo Carolina

コアグループメンバーが作成した個別指導計画（プロフィール部分）を、日本人専門家が4段階で評価（高い順にA～D）した結果、完成度の向上が確認された。2012年4月には約8割がCレベルであったのに対し、2013年2月には約8割がAレベルに到達している。よって、成果2も達成されたといえる。

表4-13 コアグループの実態把握・発達診断能力（個別指導計画プロフィール部分の評価）

評価基準	コアグループ人数（教員数）			
	2012/3/8時点	2012/4/7時点	2012/8/31時点	2013/2/1時点
A	43	2	12	27
B		5	22	5
C		27	6	1
D	0	0	0	0
計	43	34	40	33

<評価基準>

- A：精緻な観察に基づいて各児童・生徒に適した個別指導計画を作成できる
- B：十分な情報収集と正確な分析に基づいて個別指導計画を作成できる
- C：フォーマットに従って個別指導計画を作成できる（フォーマットが埋められる）
- D：不十分な個別指導計画しか作成できない（フォーマットの記述が不十分である）

成果3：コアグループの特別支援教育における計画能力が強化される。  
 指標：3-1（各コアグループメンバー作成の）個別指導計画（指導計画部分）の完成度  
 3-2（各コアグループメンバー作成の）授業案の完成度

成果3の活動は、成果1・2と併せて行われた。

コアグループメンバーが作成した個別指導計画（指導計画部分）を、日本人専門家が4段階で評価（高い順にA～D）した結果、完成度の向上が確認された。2012年3月には約7割がDレベルであったのに対し、2013年2月には約6割がAレベルに到達している。

表4-14 コアグループの計画能力（個別指導計画指導計画部分の評価）

評価基準	コアグループ人数（教員数）			
	2012/3/8時点	2012/4/7時点	2012/8/31時点	2013/2/1時点
A	0	0	4	21
B	0	7	28	10
C	12	13	8	2
D	31	16	0	0
計	43	36	40	33

<評価基準>

- A：実施可能かつ評価可能な個別指導計画を作成できる
- B：具体的な目標とそれに対応した指導法を含む個別指導計画を作成できる
- C：フォーマットに従って個別指導計画を作成できる（フォーマットが埋められる）
- D：不十分な個別指導計画しか作成できない（フォーマットの記述が不十分である）

また、授業案の完成度についても同様に4段階評価（高い順にA～D）を行った結果、2012年3月には約7割がCレベル以下であったのに対し、2013年2月には約7割がAレベルに到達しており、完成度の向上が確認された。

以上により、成果3は達成されたといえる。

表4-15 コアグループの授業案の完成度

評価基準	コアグループ人数（教員数）		
	2012/3/8時点	2012/5 時点	2013/2/1時点
A	0	0	24
B	13	5	11
C	15	16	0
D	14	20	0
計	42	41	35

<評価基準>

- A：児童・生徒の個別指導計画に基づく授業案が作成できる
- B：内容に過不足のない授業案が作成できる
- C：授業案の略案が作成できる
- D：不十分な授業案しか作成できない

成果4：コアグループの教育実践が向上する。  
 指標：4-1 授業観察シートに基づく公開授業の評価結果  
 4-2 授業観察者としての公開授業への参加度評価

成果4の活動は、成果1・2と併せて行われた。

コアグループメンバーの教育実践については、プロジェクト開始当初より一定の向上がみられることから、コアグループメンバーが既に特別支援教育の実践能力を身につけていたといえる。とはいえ、研修・セミナーで得た知識や技術を日々の授業実践で活用している研修参加者ほど、教育実践の向上度に大きな変化がみられた。

表4-16 コアグループの教育実践能力（公開授業実施の評価）

評価基準	コアグループ人数（教員数）	
	2012/6～8 時点	2012/10～11 時点
A	0	5
B	21	17
C	1	0
D	0	0
計	22	22

<評価基準>

A：10点満点中8～10点、B：5～7点、C：1～4点、D：0点

また、公開授業の評価結果と公開授業への参加度評価からは、よりの確な授業観察の視点を習得することで、自らの教育実践能力の向上にもつながることが明らかとなった。

以上の結果により、成果4は達成された。

表4-17 コアグループの教育実践能力（授業観察者としての評価）

評価基準	コアグループ人数（教員数）	
	2012/6～8 時点	2012/10～11 時点
A	5	22
B	21	20
C	16	0
D	0	0
計	42	42

<評価基準>

- A：実施済み公開授業に関して改善提案ができる。
- B：実施済み公開授業の良い点と改善点を指摘できる。
- C：実施済み公開授業の問題点を指摘できる。
- D：実施済み公開授業について何もコメントしない。

成果5：1～4の成果をまとめた教材が作成される。  
 指標：5-1公式教材としての発行

成果5は、達成に向けて進捗している。

プロジェクトでは、以下表4-18のとおり8種類の教材（理論編3種類、ケーススタディ編5種類）を作成している。現在は教材の執筆を完了し、編集・校正・公式化の段階にある。なお、ケーススタディ教材の執筆を担当したコアグループメンバーの教材作成経験が少なかったこと、プロジェクトの活動計画がボリビアの学校歴と合致していなかったことから、執筆に時間を要し、プロジェクト期間を6カ月延長することとなった。全教材の出版は、2013年4月中旬に完了する見込みである。

表4-18 作成した8種類の教材

①	人間の成長と発達：障がい理解のための基礎 I Crecimiento y Desarrollo Humano : Base Neurofisiológica - Psicológica para la Comprensión de la Discapacidad I
②	神経構造・運動・感覚・言語に関する生理学：障がい理解のための基礎 II Fisiología de Sistema Nervioso, Motora, Sensorial y de Lenguaje : Base Neurofisiológica - Psicológica para la Comprensión de la Discapacidad II
③	ボリビアの障がいに関する政策・法規・現状：障がい理解のための基礎 III Políticas, Leyes, Reglamentos y Situación actual para Discapacidad en Bolivia - para la Comprensión de la Discapacidad III
④	知的障がい児の教育 — ケーススタディ Enseñanza para Alumnos/as con Discapacidad Intelectual - Estudio de Caso -
⑤	視覚障がい児の教育 — ケーススタディ Enseñanza para Alumnos/as con Discapacidad Visual - Estudio de Caso -
⑥	聴覚障がい児の教育 — ケーススタディ Enseñanza para Alumnos/as con Discapacidad Auditiva - Estudio de Caso -
⑦	運動障がい児の教育 — ケーススタディ Enseñanza para Alumnos/as con Discapacidad Física Motora - Estudio de Caso -
⑧	発達障がい児の教育 — ケーススタディ Enseñanza para Alumnos/as con Discapacidad (Trastorno) de Desarrollo - Estudio de Caso -

成果6：コアグループにより、所属校においてプロジェクト活動のモニタリングが実施される。  
指標：相互モニタリングの実践回数

当初、本省技官によるモニタリング実施を想定していたが、専門性不足から代替案としてプロジェクトの技術評価に継続教育専門ユニット（UNESCO）技官を活用することになった。しかし、教育省の実施する教員補完研修プログラム（PROFOCOM）等の活動により、UNESCO技官が多忙であったため、彼らによるモニタリング実施の機会は十分に得られなかった。

この代わりとして、プロジェクトでは相互モニタリング手法を導入し、コアグループメンバー間での意見交換と経験共有を効果的に実施することに成功したことから、成果6は達成されたといえる。

(1) プロジェクト目標の達成状況

プロジェクト目標：コアグループがボリビアの特別支援教育を担う中核人材として育成される。  
指標：専門知識、診断能力、計画能力、実践能力の総合評価（成果1～4の指標の総合評価）

プロジェクト目標は達成された。

成果1～4の指標の評価結果から、プロジェクト開始当初と比較して、コアグループメンバーの特別支援教育に関する理論・知識や教育実践は向上したといえる。また、コアグループメンバーが教材作成を担ったことにより、彼ら自身の専門性の深化や、理論知識と教育実践の一体化が可能になった。このような専門性の向上は、コアグループメンバーの自信を高め、さらにはボリビアにおける特別支援教育専門人材のネットワーク強化につながった。

ただし、ボリビアの特別支援教育の人材育成は始まったばかりであり、ケーススタディや公開授業を通して、更なる専門性の向上が必要である。

表4-19 コアグループの能力（専門知識、診断能力、計画能力、実践能力の総合評価

評価項目	評価指標	評価時期	評価基準別累計人数 (%)				計
			A	B	C	D	
成果1： 専門知識	理論×事前テスト	研修 総計	1 (0.2)	37 (6.3)	154 (26.3)	393 (67.2)	585 (100.0)
	理論×事後テスト		41 (7.4)	164 (29.5)	202 (36.4)	148 (26.7)	555 (100.0)
	実習		63 (14.3)	184 (41.8)	128 (29.1)	65 (14.8)	440 (100.0)
成果2： 診断能力	個別指導 計画 プロフィール 部分	2012/3	43 (100.0)				43 (100.0)
		2013/2	27 (81.8)	5 (16.1)	1 (2.1)	0 (0.0)	33 (100.0)
成果3： 計画 能力	個別指導 計画 指導計画 部分	2012/3	0 (0.0)	0 (0.0)	12 (27.9)	31 (72.1)	43 (100.0)
		2013/2	21 (63.6)	10 (30.3)	2 (6.1)	0 (0.0)	33 (100.0)
	授業案	2012/3	0 (0.0)	13 (31.0)	15 (35.7)	14 (33.3)	42 (100.0)
		2013/2	24 (68.6)	11 (31.4)	0 (0.0)	0 (0.0)	35 (100.0)
成果4： 実践 能力	公開授業	2012/8	0 (0.0)	21 (95.5)	1 (4.5)	0 (0.0)	22 (100.0)
		2013/2	5 (22.7)	17 (77.3)	0 (0.0)	0 (0.0)	22 (100.0)
	授業観察者	2012/8	5 (11.9)	21 (50.0)	16 (38.1)	0 (0.0)	42 (100.0)
		2013/2	22 (52.4)	20 (47.6)	0 (0.0)	0 (0.0)	42 (100.0)

## 第5章 評価結果

### 5-1 5項目評価結果

#### 5-1-1 妥当性

特別支援教育/インクルーシブ教育の推進は、2009年発表のボリビア国家政策、及び2010年制定の「教育基本法」において優先課題の1つに掲げられていることから、プロジェクトの政策面での整合性は高い。また、特別支援教育の教員養成により専門性を強化し、障がい児への教育実践を向上させる必要性が高い一方、ボリビアでは基礎情報すら不足していたことから、本分野への協力は現地ニーズに合致している。

また、プロジェクトは、わが国のODA分野別政策「日本の教育協力政策（2011～15）」の重点分野1「すべての人に質の高い教育を」に合致しており、「対ボリビア多民族国事業展開計画」（2012年6月）において、重点分野「人材育成を中心とした社会開発」、開発課題「教育」の下で、「障がい者支援」プログラムに位置づけられていることから、日本の協力方針とも整合性が高い。

以上から妥当性は高いと判断される。

#### 5-1-2 有効性

プロジェクト目標は達成されている。また、成果とプロジェクト目標の因果関係については、以下のとおりロジカル・フレームワークで整理され、適切にデザインされている。以上から有効性は高いと判断される。

なお、成果からプロジェクト目標に至る外部条件は設定されていないが、プロジェクト目標達成の貢献要因・阻害要因を、以下5-2-1及び5-2-2に整理した。

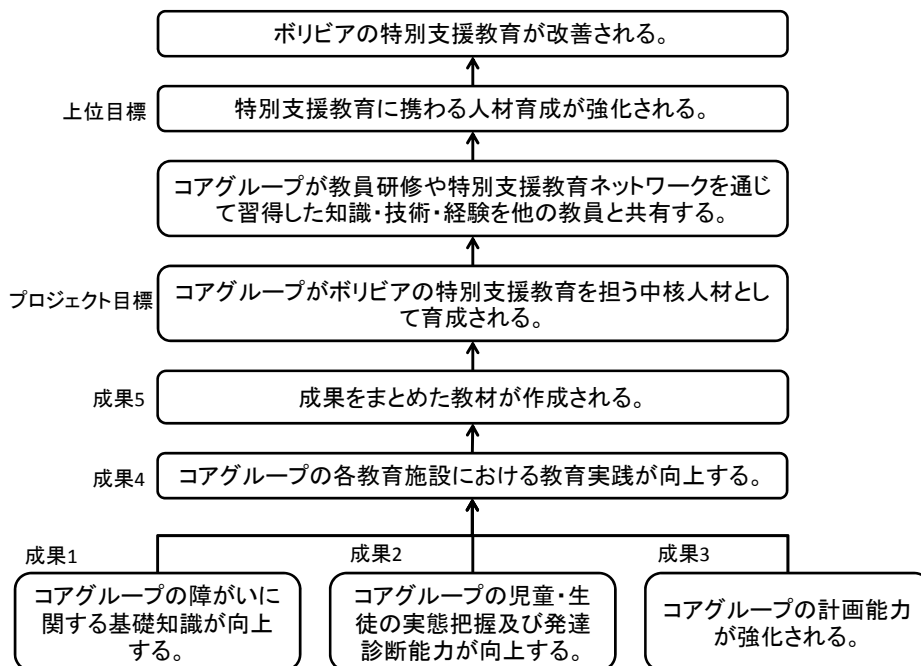


図5-1 成果とプロジェクト目標の因果関係

### 5-1-3 効率性

投入はボリビア・日本国側双方ともにおおむね適切な質・量・時期によって管理・実施され、成果達成に結びついている。ただし、ボリビア側については、教材執筆担当のコアグループメンバーの経験不足とプロジェクト活動計画と学校歴との不一致により、執筆活動の遅延が生じた。この結果、教材の完成及び全国普及のため、プロジェクト期間を6カ月延長したことから、効率性は中程度と判断される。

なお、活動から成果に至る外部条件は設定されていない。

### 5-1-4 インパクト

上位目標「コアグループが活用されることにより、特別支援教育に携わる人材育成が強化される。」達成に向けては、特別支援教育分野の教員養成の質の向上がみられる。コアグループメンバーにより計81回の研修・セミナーが実施され、延べ2,000人が参加した。

正のインパクトとしては、①高等教員養成校において特別支援教育の関心が向上し、教育環境の改善にもつながったこと、②特別支援教育センター内で教員・関係者間の連携が強化されたこと、③教室での教育実践向上や家庭訪問を通して、高等教員養成校・特別支援教育センターの教員と障がい児の両親との良好な関係が構築されたこと、等が挙げられる。また、高等教員養成校の教員は、本プロジェクトで教材執筆をした経験を生かし、教員養成課程のカリキュラム作成にも関与しており、作成教材は同課程のテキストとして活用される見込みである。一方、負のインパクトはみられない。

以上から、インパクトは高いと判断される。

### 5-1-5 持続性

コアグループメンバーが習得した知識・技術は、ボリビアの特別支援教育の質の向上に有効であることが確認されており、教材作成や中核人材の育成を通じて技術面での持続性はおおむね担保されている。なお、コアグループメンバーの教材開発能力には改善の余地が残されているが、高い研修運営能力を身につけていることから、今後も公開授業やケーススタディを通して、継続的な能力向上・専門性強化を図ることが期待される。また、作成教材の具体的な活用計画は策定されていないが、コアグループの在籍する高等教員養成校や特別支援教育センター、今後実施予定の研修参加者により活用される見込みである。

法制度・政策面においても、特別支援教育の強化は、ボリビアの法律・政策に一致することから、持続性は担保されている。しかし、教育省及び高等教員養成校の特別支援教育分野への優先的な予算配賦、特別支援教育センターでの予算確保等、財政面での持続性は懸念が残る。また、高等教員養成校における特別支援教育養成課程の新入生受入れ計画や、同課程教員の職の安定性にも課題が残る。

以上から、持続性は中程度と判断される。

## 5-2 阻害・貢献要因

### 5-2-1 効果発現に貢献した要因

#### (1) 計画内容に関すること

プロジェクト開始当初から、高等教員養成校及び特別支援教育センターと協働しプロジ

ェクト活動を実施する計画を立案していたことにより、教室現場における教育実践能力向上につながった。

## (2) 実施プロセスに関すること

実施プロセスにおける貢献要因としては、コアグループメンバーが強い責任感をもって積極的にプロジェクト活動へ参加したこと、また、教育省関係者も高いイニシアティブの下、予算・プロジェクト運営面で高い貢献を果たしたことが挙げられる。

併せて、法制度・政策や、システム・組織体制に関しても、特別支援教育について継続的に広報・啓発活動を行ったこと、教育省の責任者や高等教員養成校・特別支援教育センターの校長から必要な支援が得られたことも、効果発現に貢献した。

## 5-2-2 問題点及び問題を惹起した要因

### (1) 計画内容に関すること

特別支援教育に係る政策の詳細や、教員養成カリキュラム・法規が未整備の状態プロジェクトを開始したことにより、プロジェクトのインパクト発現に制約が生じた。また、計画時点では、コアグループメンバーの科学的調査・学術論文執筆に係る知識・経験の少なさを十分に把握できておらず、ケーススタディ実現に必要な学校歴との整合性が十分に考慮されていなかったため、教材執筆に遅延が生じた。

### (2) 実施プロセスに関すること

実施プロセスの問題点としては、プロジェクト期間中にコアグループメンバーが減少したこと（当初計画80名→現行42名）や、人事問題に起因してシモン・ロドリゲス高等教員養成校（コチャバンバ）からの参加者が少なかったことが挙げられる。また、教育省の責任者や高等教員養成校・特別支援教育センターの校長が頻繁に交代し、プロジェクト活動の調整に多大な労力を要したが、これに対しては、専門家が直接かつ適時に関係者への説明を行い、プロジェクト活動への理解を得ることで問題の回避に成功した。

## 5-3 結論

本プロジェクトは、2013年5月末までに予定された活動をすべて終了する見込みである。

教育省の調整の下、関係機関のイニシアティブとコアグループメンバーの積極的な貢献、適切な技術支援によって、プロジェクト目標及び各成果が達成された。

また、プロジェクトで紹介された知識・技術は、ボリビアの特別支援教育の質向上に有効であることが明らかになった。併せて、特別支援教育センターの教育実践においても、正のインパクトがあったことが確認された。



## 第6章 提言と教訓

### 6-1 提言

- (1) プロジェクトを予定どおり2013年5月31日に終了する。
- (2) プロジェクトで開発した教材を教員養成及び継続教育（現職教員研修等）にも活用する。
- (3) プロジェクトに参加した特別支援教育センターをモデル校（リソースセンター）として位置づけ、研修・セミナーの実施や、高等教員養成校の実習に活用する。
- (4) 高等教員養成校においても、教室現場での教育実践能力を強化し、障がい児のケーススタディを深化させる。
- (5) コアグループはじめプロジェクト関係者の経験を明文化し、特別支援教育制度整備に活用する。

### 6-2 教訓

- (1) プロジェクト成果を最大化し、正のインパクトを確保するためには、現行の教育開発の方向性に即した政策・法制度の確立が不可欠である。
- (2) 特別支援教育の専門性は4分野（視覚・聴覚・知的障がいと肢体不自由）に分かれており、専門性の深化・分化が顕著であることから、1名の専門家が全領域をカバーするには限界がある。プロジェクト形成時にはこの点を勘案し、より戦略的な人的投入を実施すべきである。
- (3) プロジェクトの効率的な運営のためには、相手国の組織規定に配慮しつつ懸案事項に係る意思決定過程を明確にするとともに、日本・ボリビア国側双方関係者の意思統一が重要である。

## 付 属 資 料

### 1. 議事録 (Acta)

**ACTA DE REUNIONES**  
**ENTRE**  
**LA MISIÓN DE EVALUACIÓN FINAL DE LA**  
**AGENCIA DE COOPERACIÓN INTERNACIONAL DEL JAPÓN**  
**Y EL**  
**MINISTERIO DE EDUCACIÓN DEL ESTADO PLURINACIONAL DE BOLIVIA**  
**SOBRE EL**  
**“PROYECTO DE FORMACIÓN DE MAESTROS/AS EN EDUCACIÓN INCLUSIVA EN**  
**LA DIVERSIDAD - APRENDEMOS EN LA DIVERSIDAD – (FM-EID)”**

La Misión Japonesa de Evaluación Final (de aquí en adelante “Misión”), organizada por la Agencia de Cooperación Internacional del Japón (de aquí en adelante “JICA”), encabezada por el Sr. Toshio Murata, visitó el Estado Plurinacional de Bolivia (de aquí en adelante “Bolivia”) del 16 de febrero al 2 de marzo de 2013, con el propósito de realizar la Evaluación Final del “Formación de Maestros/as en Educación Inclusiva en la Diversidad -Aprendemos en la Diversidad- (FM-EID)” (de aquí en adelante “Proyecto”).

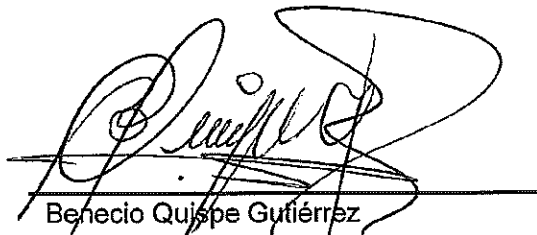
Durante su estancia en Bolivia, la Misión ha realizado una serie de investigaciones y discusiones con las autoridades bolivianas correspondientes e intercambiaron opiniones para evaluar el Proyecto.

Como resultado del Evaluación Final, ambas partes acordaron los resultados de la evaluación que se indican en el documento adjunto (Apéndice 1). El Ministerio de Educación recibió oficialmente el Informe de Evaluación Final del Proyecto elaborado por la Misión (Apéndice 2).

La Paz, 27 de febrero de 2013



Toshio Murata  
Líder de la Misión Japonesa de  
Evaluación Final  
Agencia de Cooperación Internacional  
del Japón (JICA)



Benecio Quispe Gutiérrez  
Viceministro de Educación Superior de  
Formación Profesional  
Ministerio de Educación  
Estado Plurinacional de Bolivia

Apéndice 1

Comité de Coordinación Conjunta  
ME, La Paz, 27 de Febrero de 2013

**Evaluación Final del Proyecto  
de Formación de Maestros/as en  
Educación Inclusiva en la Diversidad  
- Aprendemos en la Diversidad –  
(FM-EID)**

Misión de Evaluación Final, JICA

**Contenidos**

- Logros
  - Resultados
  - Objetivo del Proyecto
  - Objetivo General (Estimación)
- Resultado de Evaluación por 5 Criterios
- Factores Positivos y Factores que impiden
- Conclusión
- Recomendaciones
- Lecciones Aprendidas



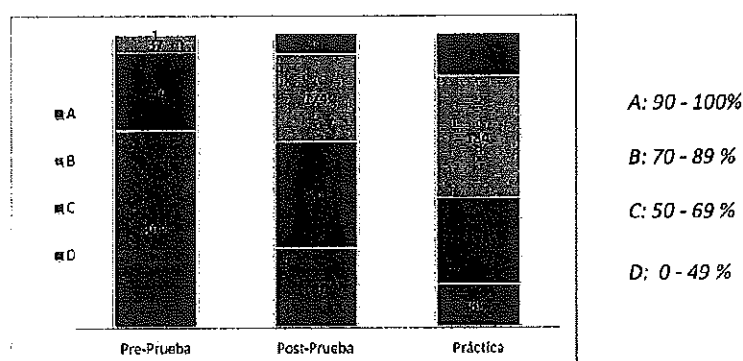
JJ

## Resultado 1

“Los maestros del Grupo Meta mejoraron sus conocimientos básicos sobre discapacidad.”

⇒ Logrado

Indicador: 1-1. Pre y post-prueba de capacitación y 1-2. Evaluación de prácticas



## Resultado 2

“Los maestros del Grupo Meta adquirieron la capacidad de realizar diagnóstico y valoración pedagógica a los alumnos con NEE.”

⇒ Logrado

Indicador: 2-1. Plan de trabajo individual (perfil)

Criterios de evaluación	Número de personas del grupo meta (número de docentes)			
	8/3/2012	7/4/2012	31/8/2012	1/2/2013
A	43	2	12	27
B		5	22	5
C		27	6	1
D	0	0	0	0
Total	43	34	40	33

*[Handwritten signature]*

## Resultado 3

“Los maestros del Grupo Meta reforzaron la capacidad de planificación en Educación Inclusiva en la Diversidad.”

⇒ Logrado

*Indicador: 3-1. Plan de trabajo individual (didáctica)*

Criterios de evaluación	Número de personas del Grupo Meta (número de docentes)			
	8/3/2012	7/4/2012	31/8/2012	1/2/2013
A	0	0	4	21
B	0	7	28	10
C	12	13	8	2
D	31	16	0	0
Total	43	36	40	33

## Resultado 3

*3-2. Plan de situación didáctica*

Criterios de evaluación	Número de personas del grupo meta (número de docentes)		
	8/3/2012	5/2012	1/2/2013
A	0	0	24
B	13	5	11
C	15	16	0
D	14	20	0
Total	42	41	35

## Resultado 4

“Los maestros del Grupo Meta mejoraron la práctica pedagógica en sus entidades educativas.”

⇒ **Logrado**

*Indicador: 4-1. Observación de clase abierta, 4-2. Participación en clase abierta*

Criterios de evaluación	Número de personas del Grupo Meta (número de docentes)		Criterios de evaluación	Número de personas del Grupo Meta (número de docentes)	
	6-8/2012	10-11/2012		2012/6-8	2012/10-11
A	0	5	A	5	22
B	21	17	B	21	20
C	1	0	C	16	0
D	0	0	D	0	0
Total	22	22	Total	42	42

## Resultado 5

“Los Maestros del Grupo Meta elaboraron materiales para los puntos 1 a 4 y otros de acuerdo a requerimientos del Ministerio.”

⇒ **En proceso (Elaboración terminada)**

*Indicador: 5-1. Publicación de materiales como los oficiales*

(1)	Crecimiento y Desarrollo Humano: Base Neurofisiológica - Psicológica para la Comprensión de la Discapacidad I
(2)	Fisiología de Sistema Nervioso, Motora, Sensorial y de Lenguaje: Base Neurofisiológica - Psicológica para la Comprensión de la Discapacidad II
(3)	Políticas, Leyes, Reglamentos y Situación actual para Discapacidad en Bolivia - para la Comprensión de la Discapacidad III
(4)	Enseñanza para Alumnos/as con Discapacidad Intelectual - Estudio de Caso -
(5)	Enseñanza para Alumnos/as con Discapacidad Visual - Estudio de Caso -
(6)	Enseñanza para Alumnos/as con Discapacidad Auditiva - Estudio de Caso -
(7)	Enseñanza para Alumnos/as con Discapacidad Física Motora - Estudio de Caso -
(8)	Enseñanza para Alumnos/as con Discapacidad (Trastorno) de Desarrollo - Estudio de Caso -

*Handwritten signature and initials.*





## Objetivo General

“Mejorar la calidad de formación de maestros en Educación Inclusiva en la Diversidad a través del Grupo Meta del Proyecto, como agentes multiplicadores.”

⇒ Tendencia del mejoramiento hacia el Objetivo General

Indicador: Capacitación realizada por el Grupo Meta

CEE	Número de capacitaciones realizadas por temática				Participantes totales
	Introducción a la discapacidad	Diagnóstico y valoración pedagógica	Planificación, Plan de trabajo individual	Práctica pedagógica, Clase abierta-pública	
MURURATA, LPZ	11	3	1	3	527
PREEFA, CBBA	4	2	2	3	215
IDA, CBBA	1	3	4	-	109
CPC, SCZ	4	5	4	5	446
PREEFA "B", SCZ	2	3	2	2	456
JULIA JIMENEZ DE GUTIERREZ, SCZ	4	2	3	4	192
APRECIA, SCZ	2	1	1	-	55
Total	28	19	17	17	2000

## Resultado de Evaluación por 5 Criterios

☐ Muy Bien

	Alto	Medio	Bajo
Pertinencia	○		
Efectividad	○		
Eficiencia		○ Por prolongación	
Impacto	○		
Sostenibilidad		○ Por Inestabilidad	

FD

## Factores Positivos

- Participación positiva del GM en el Proyecto con alta responsabilidad y voluntad.
- Alta iniciativa y compromiso de ME tanto en parte financiera como parte logística.
- Promoción constante de la educación inclusiva en el marco legal, político, sistemático y organizacional.
- Colaboración institucional de ESFMs y CEEs involucrados en el Proyecto.
- Autoridades del ME y los directores de ESFMs y CEEs brindaron los apoyos necesarios.

## Factores que impiden

- Disminución de participantes de GM del Proyecto y poca participación de ESFM "Simón Rodríguez".
- Indeterminación de los detalles de políticas de educación especial-inclusiva y la elaboración inacabada del currículo y reglamento de formación inicial.
- Poca formación y experiencia de hacer estudios científicos y elaborar artículos académicos de parte del GM.
- Dificultad de coordinación con las autoridades de ME, ESFMs y CEES por los cambios de las mismas y sus agendas apretadas.



fd

## Conclusión

- El Proyecto ha realizado las actividades planificadas y finalizará las demás actividades del PO hasta el final de mayo del 2013.
- El Proyecto ha logrado el Objetivo del Proyecto y los Resultados a nivel satisfactorio en el tiempo previsto en su plan, en virtud de las iniciativas y responsabilidad de las entidad involucradas bajo coordinación del ME, la participación activa de los miembros del GM, la asistencia técnica apropiada, etc.
- Se ha identificado la efectividad de los conocimientos y metodologías introducidas por el Proyecto para el mejoramiento de la calidad de educación especial-inclusiva y se han observado los impactos positivos en las prácticas en aula de los CEE.

## Recomendaciones


- Terminar el Proyecto en el 31 de mayo del 2013.
- Aplicar los materiales didácticos a la formación inicial y continua.
- Crear los Centros de Educación Especial de modelo.
- Fortalecer la capacidad práctica de las Escuelas Superiores de Formación de Maestros.
- Sistematizar las experiencias del Proyecto y introducirlas al sistema educativo.
- Más articulación de los materiales didácticos a la política educativa del país.
- Acreditación para los docentes participantes




FJ

## Lecciones Aprendidas

- Requisitos previos y circunstancias externas del proyecto para asegurar impactos positivos.
- Características y limitaciones de expertos de la educación especial-inclusiva por las áreas amplias de discapacidad.
- Unificación de opiniones para la administración eficiente del proyecto.



¡Gracias por su atención!



INFORME DE EVALUACIÓN FINAL  
PARA EL PROYECTO  
“FORMACIÓN DE MAESTROS/AS EN EDUCACIÓN  
INCLUSIVA EN LA DIVERSIDAD-APRENDEMOS  
EN LA DIVERSIDAD”  
(FM-EID)

1 de marzo de 2013

Misión de Evaluación Final, JICA

## ÍNDICE

### Abreviaturas

#### 1. Introducción

- 1-1. Objetivos de la evaluación final
- 1-2. Miembros de la Misión de evaluación final
- 1-3. Periodo de evaluación y agenda de actividades
- 1-4. Listado de personal visitado por la Misión
- 1-5. Metodología de la evaluación

#### 2. Resumen del Proyecto

- 2-1. Antecedentes
- 2-2. Resumen del Proyecto

#### 3. Resultados de la evaluación

- 3-1. Logros del Proyecto
- 3-2. Proceso de implementación del Proyecto
- 3-3. Evaluación por cinco criterios
- 3-4. Conclusiones

#### 4. Recomendaciones

#### 5. Lecciones aprendidas

### Apéndices

Apéndice 1: Plan Operativo (PO, Plan inicial e implementado)

## Siglas y acrónimos

AOD	Asistencia Oficial para el Desarrollo
CBBA	Cochabamba
CCC	Comité de Coordinación Conjunta (Joint Coordinating Committee)
CE	Comité de Ejecución
CEE	Centro de Educación Especial
C/P	Contraparte (Counter Part)
CPE	Constitución Política del Estad
DGFM	Dirección General de Formación de Maestros
EID	Educación Inclusiva en la Diversidad
EM-EID	Proyecto “Formación de Maestros/as en Educación Inclusiva en la Diversidad- Aprendemos en la Diversidad”
EPI	Estudio Pedagógico Interno
ESFM	Escuela Superior de Formación de Maestros
GM	Grupo Meta
JICA	Agencia de Cooperación Internacional del Japón (Japan International Cooperation Agency)
JOCV	Voluntarios Japoneses para la Cooperación Extranjera (Japan Overseas Cooperation Volunteer)
LPZ	La Paz
ME	Ministerio de Educación
M/M	Mínutas de Reuniones (Minutes of Meetings)
NEEs	Necesidades Educativas Especiales
PCD	Personas con Discapacidad
R/D	Registro de Discusiones (Record of Discussions)
PDM	Matriz de Diseño del Proyecto (Project Design Matrix)
PNIEO	Plan Nacional de Igualdad y Equiparación de Oportunidades para las Personas con Discapacidad
PO	Plan Operativo (Plan of Operation)
PROFOCOM	Programa de Formación Complementaria para Maestras y Maestros
RP	Resumen del Proyecto
SCZ	Santa Cruz
SEP	Sistema Educativo Plurinacional
TDC	Taller Departamental de Capacitación
TNC	Taller Nacional de Capacitación
UEE	Unidad Educativa Especial
UNEFCO	Unidad Especializada de Formación Continua
VESFP	Viceministerio de Educación Superior de Formación Profesional

## **1. Introducción**

El Proyecto “Formación de Maestros/as en Educación Inclusiva en la Diversidad-Aprendemos en la Diversidad (FM-EID)” inició el 1 de junio de 2010 y finalizará el 31 de mayo de 2013. Considerando el periodo que falta para concluir el Proyecto (aproximadamente tres meses), la Agencia de Cooperación Internacional del Japón (JICA) envió una Misión de Evaluación Final al Estado Plurinacional de Bolivia, del 16 de febrero al 2 de marzo de 2013, con el propósito de evaluar los logros y los procesos del Proyecto.

La evaluación final fue realizada por la Misión con el apoyo de cooperantes del Ministerio de Educación (ME) y de la JICA-Bolivia. La evaluación del Proyecto es un requisito y un compromiso oficial basado en el documento “Registro de Discusiones (R/D)” entre el ME y JICA sobre el Proyecto, firmado el 27 de mayo de 2010.

### **1-1. Objetivos de la evaluación final**

Los objetivos de la evaluación final fueron:

- (1) Confirmar los logros obtenidos y el proceso del Proyecto.
- (2) Examinar el nivel de alcance de los objetivos y de los resultados esperados.
- (3) Identificar los factores positivos y negativos en la ejecución del Proyecto.
- (4) Evaluar el Proyecto sobre la base de cinco criterios de evaluación estandarizados universalmente (pertinencia, efectividad, eficiencia, impacto y sostenibilidad).
- (5) Proponer actividades a ser desarrolladas en el periodo restante del Proyecto y después de ese periodo, así como dejar recomendaciones pertinentes.
- (6) Destacar las lecciones aprendidas para actividades y/o proyectos similares.

### **1-2. Miembros de la Misión de Evaluación Final**

La evaluación final fue desarrollada por la Misión de Evaluación Final de JICA, con el apoyo de los colaboradores y de los miembros del Proyecto.

La Misión de Evaluación Final estuvo conformada por:

- Toshio Murata, líder de la Misión, Asesor superior en educación, JICA
- Ami Ikeda, responsable de planificación de la cooperación, JICA
- Yasuhiro Hori, especialista de técnica pedagógica
- Miho Ota, especialista de evaluación, Koei Research Institute



Los colaboradores fueron:

- Mónica Okabe, funcionaria local, JICA-Bolivia
- Rocío Peredo, consultora, JICA-Bolivia

### 1-3. Periodo de evaluación

El periodo de la evaluación final fue programado del 16 de febrero al 2 de marzo de 2013 (15 días), sin considerar la etapa de preparación. La agenda de actividades de la Misión se muestra en la siguiente tabla:

**Tabla 1: Itinerario de la Misión de Evaluación Final, JICA**

Fecha	Hora	Actividad
16/2 Sáb.	19:30-21:30	Llegada de la Misión de Evaluación Final a Bolivia Reunión con el señor Osato (Murata)
17/2 Dom.	15:00-19:00	Reunión con el director de JICA y el señor Osato (Murata y Ikeda)
18/2 Lun.	9:00-11:00	Visita a JICA-Bolivia y reunión
19/2 Mar.	9:30-10:00	Reunión con el Viceministro de Educación Superior de Formación Profesional
	16:00-16:30	Reunión con el Director General de Formación de Maestros
	16:30-17:00	Reunión con el Viceministro de Educación Alternativa y Especial
20/2 Miér.	8:30-11:00	Visita a la Escuela Superior de Formación de Maestros (ESFM) Simón Bolívar
	15:30-16:00	Reunión con la encargada de Relaciones Internacionales del ME
21/2 Jue.	8:00-18:00	Elaboración del Informe de Evaluación Final y de la Minuta
	11:00-12:00	Entrevista con la funcionaria local y con la consultora de JICA-Bolivia (Ota)
	14:40-15:20	Entrevista con el responsable de Formación Inicial (Ota)
22/2 Vier.	8:00-18:00	Elaboración del Informe de Evaluación Final y de la Minuta
23/2 Sáb.	8:00-18:00	Elaboración del Informe de Evaluación Final y de la Minuta
24/2 Dom.	8:00-18:00	Elaboración del Informe de Evaluación Final y de la Minuta
25/2 Lun.	9:00-10:00	Reunión con el Director General de Formación de Maestros
	18:30-19:00	Reunión con el Viceministro de Educación Superior de Formación Profesional
26/2 Mar.	8:00-9:00	Reunión con el Viceministro de Educación Alternativa y Especial
	15:00-16:00	Reunión con la analista del financiamiento externo del Viceministerio de Inversión Pública y Financiamiento Externo
27/2 Miér.	8:30-9:00	Acta de firma con el Viceministro de Educación Superior de Formación Profesional y el Director General de Formación de Maestros
	14:30-16:00	Vista al Centro MURURATA
	17:00-18:00	Reunión con el Viceministro de Educación Alternativa y Especial
28/2 Jue.	8:00-18:00	Elaboración del Informe de Misión
1/3 Vier.	9:00-10:00	Reunión con la Embajada de Japón en Bolivia
	11:00-12:30	Reunión con el Director Representante Residente, oficina de JICA Bolivia
2/3 Sáb.		Regreso de la Misión a Japón

### 1-4. Listado del personal visitado por la Misión

Se realizaron entrevistas a diferentes actores a nivel nacional y local vinculados con el Proyecto. En la siguiente tabla, se muestra el listado del personal visitado:

**Tabla 2: Lista del personal visitado por la Misión**

N°	Nombre	Cargo
----	--------	-------

<b>ME</b>		
1	Benecio Quispe	Viceministro de Educación Superior de Formación Profesional
2	Noel Aguirre	Viceministro de Educación Alternativa y Especial
3	Fernando Carrión	Director General de Formación de Maestros
4	Susana Postigo	Encargada de Relaciones Internacionales
5	Delia Apaza	Directora General de Educación Especial
6	Jaime Chambilla	Responsable de Formación Continua, Dirección General de Formación de Maestros (DGFM)
7	Luisa Cáceres Velasco	Responsable de Formación Inicial, DGFM
8	Gonzalo Vacaflóres	Técnico de la Dirección General de Educación Especial
9	José Luis Pumacawa	Técnico de la Dirección General de Educación Especial
<b>Viceministerio de Inversión Pública y Financiamiento Externo</b>		
1	Stephanie Bellot	Analista del financiamiento externo
<b>ESFM Simón Bolívar</b>		
1	José Antonio Villalba Choque	Director General
2	Rómulo Huayta	Director Administrativo
3	Melva Laime Bramas	Directora Académica
4	Edith Chacón	Docente, miembro del Grupo Meta (GM) del Proyecto
5	María Luisa Cusicanqui	Docente, miembro del GM del Proyecto
6	María Consuelo Dávila	Docente, miembro del GM del Proyecto
7	Juan Gutiérrez	Docente, miembro del GM del Proyecto
8	María Elena Martínez	Docente, miembro del GM del Proyecto
<b>Centro de Educación Especial (CEE) MURURATA</b>		
1	Luz Wayar	Directora administrativa
2	Ruth Bautista	Docente, miembro del GM del Proyecto
3	Lizet Ortiz	Docente, miembro del GM del Proyecto
4	Nancy Maydana	Docente, miembro del GM del Proyecto
5	Edwin Coaquira	Docente, miembro del GM del Proyecto
<b>Proyecto FM-EID</b>		
1	Takako Kamijo	Experta en el área de Educación Especial
2	Claudia Dorado	Consultora de JICA
<b>JICA-Bolivia</b>		
1	Hideyuki Maruoka	Director
2	Keiichi Osato	Responsable del Sector Educativo
3	Mónica Okabe	Funcionaria local
4	Rocío Peredo	Consultora

### 1-5. Metodología y proceso de evaluación

La Misión de Evaluación Final aplicó la metodología oficial de evaluación de JICA.

El Proyecto se ejecuta de acuerdo al Resumen del Proyecto (RP) y al Plan Operativo del Proyecto (PO), definidos en el R/D firmado el 27 de mayo de 2010. Por tanto, la Misión evaluó los logros y el avance del Proyecto, basándose en el RP y en el PO, utilizando los indicadores de los objetivos y de los resultados del Proyecto, y sus estándares aprobados en la reunión del Comité de Coordinación Conjunta (CCC) de fecha 8 de marzo de 2012, de la manera que se detalla a continuación.

#### **1-5-1. Elaboración de la tabla de evaluación**

El líder de la Misión (Toshio Murata) elaboró anticipadamente la tabla de evaluación, sobre la base del RP y del PO, considerando la información necesaria para la evaluación.

#### **1-5-2. Autoevaluación por el Proyecto**

Los miembros del Proyecto y los cooperantes de JICA-Bolivia recopilaron la información y los datos necesarios mediante el análisis de documentos, de encuestas y de entrevistas. Después de revisar toda la información, ellos llenaron las respuestas correspondientes a las preguntas de la tabla de evaluación.

#### **1-5-3. Confirmación y complementación de la tabla de evaluación por la Misión**

La Misión confirmó el llenado de la tabla de evaluación por medio de la revisión de los documentos existentes, del análisis de los datos presentados y de las entrevistas a los beneficiarios involucrados y relacionados con el Proyecto. Posteriormente, la Misión complementó la tabla de evaluación con información adicional.

#### **1-5-4. Valoración de los resultados del Proyecto**

La Misión realizó tres tipos de valoración: (a) medición de los resultados, (b) examen del proceso de implementación y (c) examen de relaciones causales acerca de los resultados del Proyecto, con la tabla de evaluación.

#### **1-5-5. Juicio de valor con base en cinco criterios de evaluación**

La Misión evaluó el Proyecto por medio de la tabla de evaluación, utilizando los cinco criterios establecidos internacionalmente, en 1991, por el Comité de Asistencia para el Desarrollo en la organización para la Cooperación Económica y el Desarrollo. Tales cinco criterios fueron los siguientes:

##### **(1) Pertinencia**

La pertinencia del plan del Proyecto se evalúa por la validez del objetivo del Proyecto y del objetivo general, con relación a la política de desarrollo del país, a las necesidades de los beneficiarios y a su consistencia lógica en el plan del Proyecto.

##### **(2) Efectividad**

La efectividad se determina por el alcance que el Proyecto ha logrado en cuanto a su objetivo y aclarando la relación entre el objetivo y los resultados.

**(3) Eficiencia**

La eficiencia de la implementación del Proyecto se analiza enfatizando la relación entre los resultados y los aportes en términos de tiempo, de calidad y de cantidad.

**(4) Impacto**

Los impactos del Proyecto se determinan por las influencias positivas y/o negativas causadas por el Proyecto.

**(5) Sostenibilidad**

La sostenibilidad del Proyecto se determina en los aspectos organizacionales, financieros y técnicos, examinando si los logros del Proyecto serán sostenidos y expandidos después de su finalización.

**1-5-6. Redacción de recomendaciones y de lecciones aprendidas**

La Misión analizó todos los resultados de la evaluación e hizo una serie de recomendaciones para lograr la implementación exitosa del Proyecto en el tiempo restante y para proponer actividades a ser desarrolladas después del periodo de vigencia del Proyecto. Además, la Misión redactó las lecciones aprendidas para futuras actividades y/o proyectos similares.

**1-5-7. Elaboración del Informe**

La Misión elaboró el documento de la evaluación final del Proyecto para informar los resultados a las autoridades de ambas entidades ejecutoras del Proyecto y así poder compartirlos con los involucrados e interesados.

## **2. Resumen del Proyecto**

### **2-1. Antecedentes<sup>1</sup>**

#### **2-1-1. Política de discapacidad en Bolivia**

El actual Gobierno de Bolivia, en el marco de la política de Protección Social y Desarrollo Comunitario, garantiza las acciones importantes para los sectores excluidos: “las prioridades de inversión y ejecución de estrategias, programas y proyectos estarán orientadas a garantizar la atención y resolución de necesidades, expectativas y derechos de las poblaciones con mayores niveles de exclusión” (Plan Nacional de Desarrollo 2006: P28).

Con base en el Plan Nacional de Desarrollo, de 7 de abril de 2006, se lanzó el “Plan Nacional de Igualdad y Equiparación de Oportunidades para las Personas con Discapacidad (PNIEO)”, mediante la promulgación del Decreto Supremo N° 28671, que promueve la igualdad y la equiparación de las personas con discapacidad.

La nueva Constitución Política del Estado (CPE), promulgada en febrero de 2009, marca claramente los derechos específicos de las personas con discapacidad por primera vez en la historia de Bolivia. El artículo 85 especifica la educación para personas con discapacidad: “El Estado promoverá y garantizará la educación permanente de niñas, niños y adolescentes con discapacidad, o talentos extraordinarios en el aprendizaje, bajo la misma estructura, principios y valores del Sistema Educativo Plurinacional (SEP), y establecerá una organización y desarrollo curricular especial”.

#### **2-1-2. Situación educativa de las personas con discapacidad**

Las Unidades Educativas Especiales (UEEs) sólo acogen el 2.25% de la población con discapacidad en edad escolar, según datos del ME. Es decir, más o menos 98% de los alumnos con discapacidad no reciben ningún servicio educativo especializado, con excepción de los casos de los menores que asisten a la educación regular. En su mayoría, estos centros no cuentan con un currículo ni con una infraestructura adaptados a las capacidades y a las necesidades de personas con discapacidad.

La atención a la discapacidad en SEP se ha visto obstaculizada por diversas razones, entre ellas: ausencia de políticas en educación especial, inexistencia de la formación especializada de los docentes y de los profesionales, y ausencia de currículo por área de atención con base en la educación regular y en el SEP que posibilite una mayor independencia de las personas con discapacidad.

---

<sup>1</sup> Anexo I: Antecedentes del Proyecto, Minuta de Discusión entre JICA y el ME sobre el Proyecto de Cooperación Técnica de “Formación Docente Inicial en Necesidades Educativas Especiales”, de fecha 22 de febrero de 2010.

Respecto a los recursos humanos, los 432 maestros titulados que trabajan en las CEEs (menos del 70% de total de docentes que trabajan en los CEEs) tienen solamente el título de maestros de educación regular, porque en el Sistema de Formación de Maestros no existe la carrera de educación especial que garantice la atención a las especialidades y la aplicación de políticas dirigidas a esta población.

La ausencia de una oferta formativa hace que los profesores no cuenten con el título de maestros con especialidad en educación especial. Si consideramos que la formación de docentes del área formal está siendo mejorada cualitativamente en los últimos años, es pertinente señalar que aún no se brinda la formación necesaria para atender a personas con Necesidades Educativas Especiales (NEEs). Esto significa que la calidad educativa para niños/as, jóvenes y adolescentes con NEEs no responde a las particularidades necesarias para desarrollar procesos formativos de esta población.

El mes de junio de 2008, el ME, por intermedio de la DGM, impulsó las políticas del Estado respecto a la discapacidad. Para ese fin, solicitó a JICA la coordinación de la formación inicial de maestros en Educación Especial-Inclusiva, a través de un Proyecto de Cooperación Técnica.

### **2-1-3. Concepto del Proyecto**

Actualmente, el ME está en proceso de transformar el nuevo SEP. Paralelamente, se están elaborando la normativa conexas, el currículo nacional y otras acciones fundamentales para iniciar el proceso de transformación educativa.

En el marco de la transformación de la formación docente, a través del Decreto Supremo N° 0156, de 6 de junio de 2009, y de la Resolución Ministerial N° 0013/2010, a partir de la presente gestión 2010 se oferta la especialidad en Educación Inclusiva en la Diversidad (EID) en tres ESFM, que ya está en proceso de ejecución. Sin embargo, todavía falta la reglamentación de la gestión institucional y del currículo de Formación Inicial de Maestros, que será emitida en el corto plazo.

Considerando la carencia de profesionales en la especialidad de EID, el Proyecto asumió la formación de profesionales, a través de un grupo meta, que tengan conocimientos tanto específicos de educación inclusiva como didácticos en educación para la población con NEEs y que, a futuro, promuevan el desarrollo de esta área.

## **2-2. Resumen del Proyecto**

### **2-2-1. Nombre del Proyecto**

Proyecto “Formación de Maestros/as en Educación Inclusiva en la Diversidad-Aprendemos en la Diversidad” (FM-EID).

### **2-2-2. Periodo de la Cooperación**

Tres años a partir del 1 de junio de 2010 y hasta el 31 de mayo de 2013.

Nota: El periodo original fue de dos años y seis meses. Sin embargo, ese tiempo fue prolongado seis meses más mediante el R/D entre el ME y JICA, firmado el 24 de septiembre de 2012.

### **2-2-3. Lugar del Proyecto**

Los departamentos de La Paz, Santa Cruz y Cochabamba.

### **2-2-4. Grupo beneficiario**

**Beneficiarios directos:** 80 maestros del GM

Nota: El GM fue conformado con maestros/as de las ESFMs Enrique Finot, Simón Bolívar y Simón Rodríguez, y con maestros/as de los CEEs piloto seleccionados.

**Beneficiarios indirectos:** 1040 alumnos/as con NEEs, aproximadamente 140 estudiantes de las ESFMs, por año

### **2-2-5. Ejecutores**

#### **Por parte de Bolivia:**

ME, DGFM

ESFMs: Enrique Finot, Simón Bolívar y Simón Rodríguez (pendiente), en coordinación con los CEEs piloto para cada ESFM

#### **Por parte de Japón:**

JICA

### **2-2-6. Objetivo del Proyecto**

#### **Objetivo general:**

Mejorar la calidad de la formación de maestros/as en educación inclusiva en la diversidad a través del GM del Proyecto, como agentes multiplicadores.

**Objetivo del Proyecto:**

Formar maestros/as del GM en educación inclusiva en la diversidad, tanto en contenidos específicos como en didáctica especial.

**2-2-7. Resultados del Proyecto**

- (1) Los/as maestros/as del GM mejoraron sus conocimientos básicos sobre discapacidad.
- (2) Los/as maestros/as del GM adquirieron la capacidad de realizar el diagnóstico y la valoración pedagógica a los/as alumnos/as con NEEs.
- (3) Los/as maestros/as del GM reforzaron la capacidad de planificación en educación inclusiva en la diversidad (planes anuales, planes semanales, planes de situaciones didácticas y planes individuales).
- (4) Los/as maestros/as del GM mejoraron la práctica pedagógica en sus entidades educativas.
- (5) Los/as maestros/as del GM elaboraron materiales para los anteriores resultados (1 a 4) y otros, de acuerdo con los requerimientos del ME.
- (6) El GM realiza el monitoreo del Proyecto en las entidades involucradas.
  - ※ El Resultado 6 se agregó oficialmente con la autorización del CCC en la reunión de fecha 8 de marzo de 2012.

**2-2-8. Actividades del Proyecto**

- (1)-1. Elaboración de la planificación de capacitaciones nacionales, departamentales e institucionales.
- (1)-2. Ejecución de las capacitaciones nacionales y de los talleres departamentales relativos al Proyecto.
- (1)-3. Elaboración del documento sobre introducción a la discapacidad.
  
- (2)-1. Ejecución de las capacitaciones nacionales y de los talleres departamentales sobre diagnóstico y valoración pedagógica.
- (2)-2. Aplicación práctica del diagnóstico y de la valoración pedagógica en sus establecimientos educativos.
- (2)-3. Elaboración de la guía de diagnóstico y valoración pedagógica, y su aplicación.
  
- (3)-1. Ejecución de las capacitaciones nacionales y de los talleres departamentales respecto al plan de trabajo individual.
- (3)-2. Aplicación práctica del plan de trabajo individual.
- (3)-3. Elaboración de la guía del plan de trabajo individual y su aplicación.

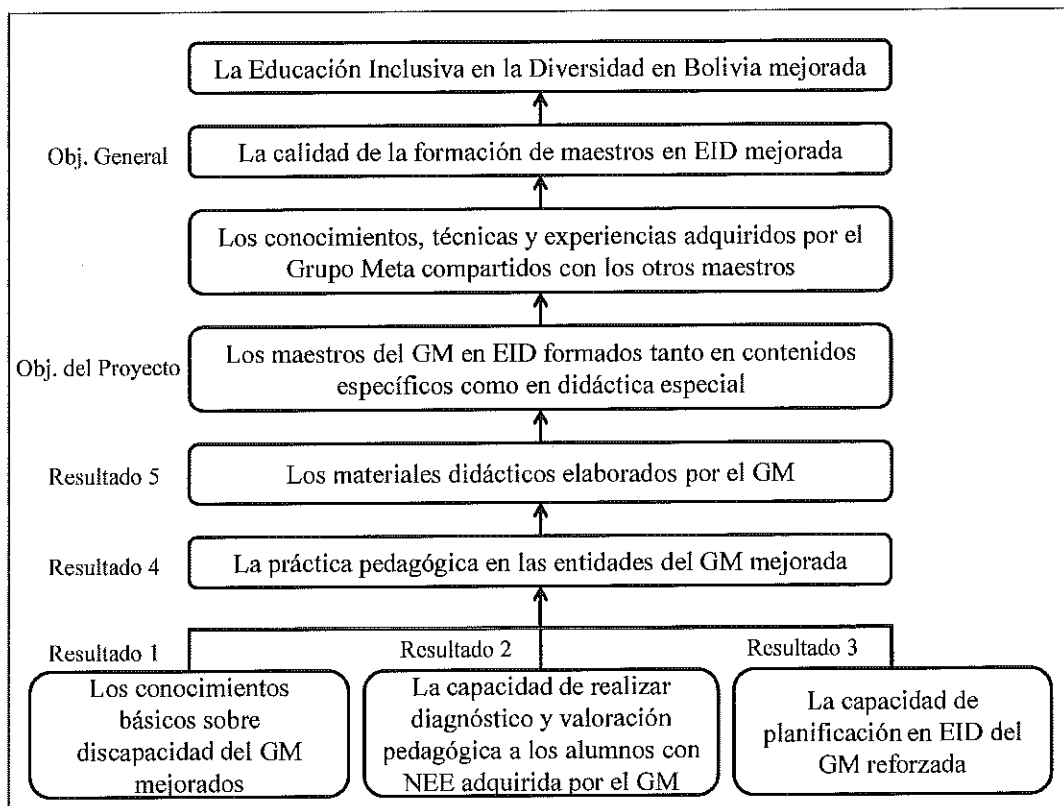


- (4)-1. Ejecución de las capacitaciones nacionales y de los talleres departamentales respecto a la innovación en la práctica docente.
- (4)-2. Planificación y ejecución de clases piloto en el plan anual de cada establecimiento para mejorar la práctica docente.
- (4)-3. Elaboración del documento de la sistematización y de la evaluación de los procesos educativos de la clase.
  
- (5)-1. Elaboración de materiales de acuerdo con los Resultados 1 a 4.
- (5)-2. Publicación de los materiales elaborados a través del ME.
- (5)-3. Realización del Encuentro Nacional de socialización de los materiales publicados.
  
- (6)-1. Construcción de mecanismo de monitoreo mutuo.
- (6)-2. Realización de monitoreo mutuo bajo la supervisión del ME.

**2-2-9. Modelo lógico del Proyecto**

El Proyecto fue formulado a partir del siguiente modelo lógico:

**Gráfico 1: Modelo lógico del Proyecto**



### 3. Resultados de Evaluación

#### 3-1. Logros del Proyecto

##### 3-1-1. Resultados

###### Resultado 1:

Los/as maestros/as del GM mejoraron sus conocimientos básicos sobre discapacidad.

###### Indicadores y criterios

*1-1. Pre y posprueba de capacitación (A: 90%-100%, B:70%-89%, C:50%-69%, D:0%-49%)*

*1-2. Evaluación de prácticas (A: 90%-100%, B:70%-89%, C:50%-69%, D:0%-49%)*

###### El Resultado 1 se ha logrado por las siguientes razones:

Los resultados de pre y posprueba de las capacitaciones nacionales y departamentales se muestran en la Tabla 3. Así mismo, los resultados de la evaluación de las prácticas se muestran en la Tabla 4. De acuerdo con estos resultados, los/as maestros/as del GM han mejorado sus conocimientos básicos sobre discapacidad (véase el Gráfico 2), aunque todavía existen debilidades en cuanto a conocimientos teóricos. Por otra parte, cuando analizamos los resultados individuales de cada maestro/a, encontramos diferencias entre los/as maestros/as que aplican cotidianamente sus conocimientos adquiridos a la práctica en sus clases y los que no los aplican.

**Tabla 3: Resultados de la pre y postevaluación escrita del GM en los Talleres Nacionales de Capacitación (Número de personas por criterios de evaluación)**

Criterio de evaluación	Neurofisiología		Psicología del desarrollo		Situación actual de la discapacidad en Bolivia		Procesos cognitivos de aprendizaje		Anatomía y fisiología del ojo		Anatomía y fisiología del oído		Comunicación y lenguaje 1	
	Pre	Post	Pre	Post	Pre	Post	Pre	Post	Pre	Post	Pre	Post	Pre	Post
A	0	7	0	0	1	2	0	1	0	0	0	0	0	1
B	1	37	0	7	15	0	3	0	0	8	1	2	1	15
C	4	8	18	21	25	16	6	16	1	18	5	22	3	17
D	51	4	38	27	15	37	47	22	43	17	38	18	30	1
<b>Total</b>	<b>56</b>	<b>56</b>	<b>56</b>	<b>55</b>	<b>56</b>	<b>55</b>	<b>56</b>	<b>39</b>	<b>44</b>	<b>43</b>	<b>44</b>	<b>42</b>	<b>34</b>	<b>34</b>

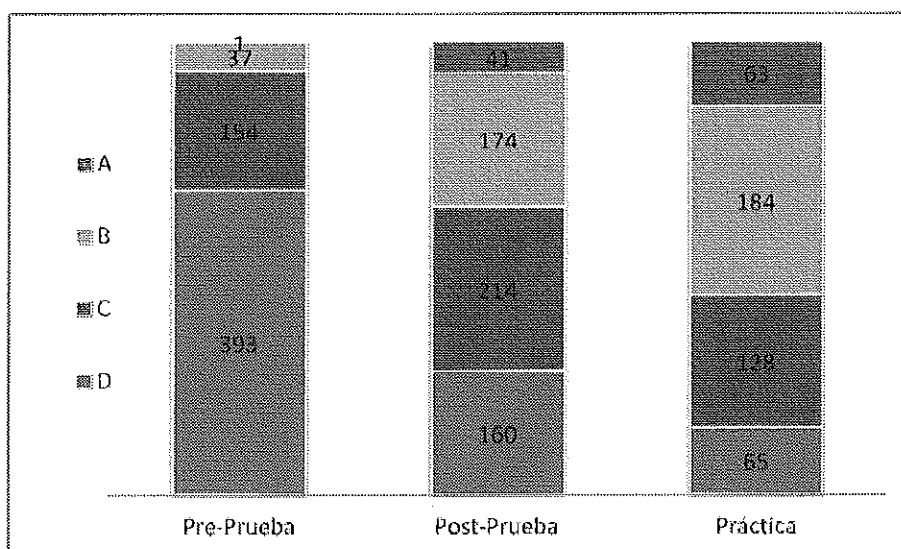
Criterio de evaluación	Comunicación y lenguaje 2		Comunicación y lenguaje 3		Discapacidad física motora		Orientación vocacional		Integración sensorial		Elaboración de plan de situación didáctica	
	Pre	Post	Pre	Post	Pre	Post	Pre	Práctica	Pre	Práctica	Pre	Práctica
A	0	2	0	0	0	0	0	0	0	4	0	24
B	0	14	0	5	1	15	5	36	5	14	5	11
C	7	19	10	25	14	24	21	0	24	16	16	0
D	32	1	32	13	24	2	12	0	11	6	20	0
<b>Total</b>	<b>39</b>	<b>36</b>	<b>42</b>	<b>43</b>	<b>39</b>	<b>41</b>	<b>38</b>	<b>36</b>	<b>40</b>	<b>40</b>	<b>41</b>	<b>35</b>

**Tabla 4: Resultados de la evaluación de las prácticas del GM  
(Número de personas por criterios de evaluación)**

Criterio de evaluación	Tests de psicopedagogía 1 (2011)	Tests de psicopedagogía 2 (2012)	Uso y aplicación del optotipo	Discapacidad visual 1 y 2		Discapacidad visual 3 y 4	
	Práctica	Práctica		Práctica	Guía 1	Guía 2	Guía 3
A	3	0	10	3	5	4	5
B	11	18	32	13	15	11	17
C	4	22	0	13	11	6	14
D	20	1	1	8	2	16	1
<b>Total</b>	<b>38</b>	<b>41</b>	<b>43</b>	<b>37</b>	<b>33</b>	<b>37</b>	<b>37</b>

Criterio de evaluación	Orientación vocacional	Discapacidad auditiva	Discapacidad física motora	Plan de trabajo individual	Comité de Estudio de Caso
	Práctica	Práctica	Práctica	Práctica	Práctica
A	0	0	0	0	33
B	36	5	14	7	5
C	0	17	28	13	0
D	0	0	0	16	0
<b>Total</b>	<b>36</b>	<b>22</b>	<b>42</b>	<b>36</b>	<b>38</b>

**Gráfico 2: Resultados de la pre y posevaluación escrita y de la evaluación de las prácticas del GM**



### Actividades

Para lograr el Resultado 1, el Proyecto cumplió una serie de actividades planificadas en el PO (véase el Gráfico 3). Hasta la fecha, se realizaron 47 talleres y/o capacitaciones, número que se incrementó según las necesidades de los/as maestros/as del GM (véase la Tabla 5). Lo más admirable es que algunas capacitaciones recientes se realizaron por la propia iniciativa y responsabilidad de los/as maestros/as del GM, en coordinación con el ME y con la experta japonesa a cargo del Proyecto.



				educativo
21-25/5/2012	9no TNC	ME y ESFM Simón Bolívar, LPZ	43	- Metodología de enseñanza en educación en NEEs - Conocimientos teóricos y prácticos en integración sensorial
20/6/2012	1er TDC de SCZ (Grupo 4: Áreas visual y auditiva)	Centro Julia Jiménez de Gutiérrez, SCZ	8 (+ 2)*	- Clase pública y sesión de reflexión (docentes encargados de la clase: Solares y Torrez)
25/6/2012	1er TDC de SCZ (Grupo 3: Áreas intelectual y físico motora)	ESFM Enrique Finot, SCZ	6 (+ 3)	- Clase pública y sesión de reflexión (docente encargada de la clase: Ortuño)
25/6/2012	1er TDC de CBBA (Grupo 2)	CBBA	9 (+ 2)	- Uso y aplicación de tests de psicopedagogía: RP 30, BAPAE, K-BIT
27/6/2012	2do TDC de CBBA (Grupo 2)	Instituto de Audiología, CBBA	9 (+ 5)	- Clase pública y sesión de reflexión (docente encargada de la clase: Alarcón)
29/6/2012	1er TDC de LPZ (Grupo 1)	LPZ	6	- Uso y aplicación de tests de psicopedagogía: RP 30, Frostig
6/7/2012	2do TDC de SCZ (Grupo 3: Áreas intelectual y físico motora)	SCZ	11	- Uso y aplicación de tests de psicopedagogía: RP 30, Frostig
7/7/2012	2do TDC de SCZ (Grupo 4: Áreas visual y auditiva)	SCZ	11	- Uso y aplicación de tests de psicopedagogía: RP 30, Frostig
13/7/2012	3er TDC de CBBA (Grupo 2)	CBBA	11	- Uso y aplicación de tests de psicopedagogía: PLON-R, PEABODY
20/7/2012	2do TDC de LPZ (Grupo 1)	LPZ	10	- Uso y aplicación de tests de psicopedagogía: BAPAE, K-BIT
23/7/2012	3er TDC de SCZ (Grupo 3: Áreas intelectual y físico motora)	Centro PREEFA B, SCZ	11 (+ 11)	- Clase pública y sesión de reflexión (docente encargado de la clase: Nina)
26/7/2012	4to TDC de CBBA (Grupo 2)	Instituto de Audiología, CBBA	11 (+ 5)	- Clase pública y sesión de reflexión (docentes encargadas de la clase: Abasto, Villarroel)
27/7/2012	3er TDC de SCZ (Grupo 4: Áreas visual y auditiva)	Centro Apresia y ESFM Enrique Finot, SCZ	11 (+ 5)	- Clase pública y sesión de reflexión (docentes encargadas de la clase: Cabezas, Álvarez)
27/7/2012	4to TDC de SCZ (Grupo 3: Áreas intelectual y físico motora)	SCZ	11	- Uso y aplicación de tests de psicopedagogía: BAPAE, K-BIT
28/7/2012	4to TDC de SCZ (Grupo 4: Áreas visual y auditiva)	SCZ	11	- Uso y aplicación de tests de psicopedagogía: BAPAE, K-BIT
8/8/2012	5to TDC de CBBA (Grupo 2)	CBBA	11	- Uso y aplicación de tests de psicopedagogía: EDAF, Currículo Carolina
11/8/2012	5to TDC de SCZ (Grupo 4: Áreas visual y auditiva)	SCZ	11	- Uso y aplicación de tests de psicopedagogía: PLON-R, PEABODY
13/8/2012	5to TDC de SCZ (Grupo 3: Áreas intelectual y físico motora)	Centro Parálisis Cerebral, SCZ	25 (+ 50)	- Presentación de los resultados de las capacitaciones en Japón con el tema de discapacidad física motora - Clases públicas
15/8/2012	3er TDC de LPZ (Grupo 1)	LPZ	22 (+ 25)	- Presentación de los resultados de las capacitaciones en Japón con el tema de discapacidad intelectual y discapacidad del desarrollo - Clases públicas
16/8/2012	6to TDC de SCZ (Grupo 4: Áreas visual y auditiva)	Centro Apresia, SCZ	11 (+ 1)	- Clase pública y sesión de reflexión (docentes encargadas de la clase: Delgadillo, Tapia)
17/8/2012	6to TDC de CBBA (Grupo 2)	ESFM Simón Rodríguez, CBBA	9 (+ 2)	- Clase pública y sesión de reflexión (docente encargado de la clase: Jiménez)
18/8/2012	6to TDC de SCZ (Grupo 3: Áreas intelectual y físico motora)	SCZ	11	- Uso y aplicación de tests de psicopedagogía: PLON-R, PEABODY
27-31/8/2012	10mo TNC	Instituto de Audiología y Centro PREEFA, CBBA	43 (+ 21)	- Análisis de los resultados del avance del trabajo de la investigación educativa: Estudio de Caso, Estudio Pedagógico Interno (EPI) y otros - Observación de clases desde el punto de vista de la investigación educativa - Entrega oficial de mesas y sillas (Instituto de Audiología)

25/9/2012	4to TDC de LPZ (Grupo 1)	LPZ	9	- Uso y aplicación de tests de psicopedagogía: EDAF, Currículo Carolina
27/9/2012	7mo TDC de CBBA (Grupo 2)**	Centro PREFPA, CBBA	11	- Clase pública y sesión de reflexión (docentes encargados de la clase: Cartagena, López)
27/9/2012	7mo TDC de SCZ (Grupo 3: Áreas intelectual y físico motora)	SCZ	11	- Uso y aplicación de tests de psicopedagogía: EDAF, Currículo Carolina
28/9/2012	6to TDC de SCZ (Grupo 4: Áreas visual y auditiva)	SCZ	11	- Uso y aplicación de tests de psicopedagogía: EDAF, Currículo Carolina
3/10/2012	8vo TDC de CBBA (Grupo 2)**	Instituto de Audiología, CBBA	11	- Clase pública y sesión de reflexión (docentes encargados de la clase: Camacho, Fuentes)
10/10/2012	5to TDC de LPZ (Grupo 1)	LPZ	9	- Clase pública y sesión de reflexión (docentes encargados de la clase: Maydana, Coaquira)
24-26/10/2012	1er Encuentro Nacional Regionalizado	SCZ	100	- Presentación de las entidades del GM y de los Estudios de Caso, y realización de clases públicas por docentes del GM - Participantes: docentes del GM del departamento de SCZ, docentes de las ESFM de SCZ/Pando/Beni, docentes de los CEEs/UEs de SCZ/Beni y observadores especiales
8-9/11/2012	2do Encuentro Nacional Regionalizado	LPZ	70	- Presentación de las entidades del GM y de los Estudios de Caso, y realización de clases públicas por docentes del GM - Participantes: docentes del GM del departamento de LPZ, docentes de las ESFM de LPZ/Oruro/Potosí, docentes de los CEEs/UEs de Oruro y observadores especiales
15-16/11/2012	3er Encuentro Nacional Regionalizado	CBBA	60	- Presentación de las entidades del GM y de los Estudio de Caso, y realización de clases públicas por docentes del GM - Participantes: docentes del GM del departamento de CBBA, docentes de las ESFM de CBBA/Chuquisaca/Tarija, docentes de los CEEs/UEs de CBBA y observadores especiales
28-30/1/2013	Elaboración de textos con relación al tema de discapacidad visual	SCZ	21 (+ 5)	- Elaboración de textos sobre los temas de Braille-ábaco, actividades de la vida diaria, orientación y movilidad, y baja visión

**Notas:**

\* Los números entre paréntesis son los números de maestros/as que no son participantes del Proyecto pero sí participaron voluntariamente en las capacitaciones.

\*\* Los dos talleres para la realización de las clases públicas fueron ejecutados por los/as propios/as maestros/as, tanto en la parte logística como en la de realización de las clases, con el esfuerzo y la voluntad del grupo de Cochabamba.

**Resultado 2:**

Los/as maestros/as del GM adquirieron la capacidad de realizar el diagnóstico y la valoración pedagógica a los/as alumnos/as con NEEs.

**Indicadores y criterios**

*2-1. Plan de trabajo individual (perfil) - (A: En base a la observación del/la niño/a, B: Informaciones exactas y escritas, C: Puede completar el formato del plan de trabajo individual, D: Plan de trabajo individual incompleto)*

**El Resultado 2 se ha logrado por las siguientes razones:**

La experta japonesa hizo la evaluación de la parte del perfil del plan de trabajo individual de cada alumno/a y/o







**Resultado 4:**

Los/as maestros/as del GM mejoraron la práctica pedagógica en sus entidades educativas.

**Indicadores y criterios**

*4-1. Observación de clase abierta (En base a la ficha de observación de clase) - (A: 8 a 10 puntos positivos, B: 5 a 7 puntos positivos, C: 1 a 3 puntos positivos, D: No se detecta ningún punto positivo)*

*4-2. Participación en la clase abierta (A: Propuesta al mejoramiento de la clase, B: Puede señalar los puntos positivo y negativos, C: Puede señalar los puntos problemáticos, D: No tiene el comentario a la clase)*

**El Resultado 4 se ha logrado por las siguientes razones:**

El nivel de la práctica pedagógica en el aula fue relativamente alto desde el principio del Proyecto. Es decir, los/as maestros/as del GM ya contaban con cierta capacidad para realizar clases de educación especial-inclusiva, como resultado de la acumulación de sus experiencias hasta ese momento. Además, gracias a su participación en las capacitaciones del Proyecto y por la aplicación práctica de los conocimientos y de las técnicas adquiridos en las clases de cada día, ellos/as mejoraron sus capacidades sobre la práctica pedagógica. De acuerdo con los resultados de las evaluaciones de la observación de clases abiertas (véase la Tabla 9) y de la participación del GM en las clases abiertas (véase la Tabla 10), la obtención de puntos de vista precisos por parte de las personas observadoras de las clases afectaron positivamente al mejoramiento de su capacidad para implementar clases abiertas.

**Tabla 9: Resultados de la evaluación de la ejecución de las clases públicas (Capacidad de prácticas educativas del GM)**

Criterios de evaluación	Número de personas del GM (número de docentes)	
	6-8/2012	10-11/2012
A	0	5
B	21	17
C	1	0
D	0	0
<b>Total</b>	<b>22*</b>	<b>22</b>

**Nota:** No todos/as los/as docentes del GM ejecutaron clases públicas. De un total de 43 docentes, 29 realizaron clases públicas, desde la elaboración del plan de secuencias didácticas y de materiales hasta la ejecución de la clase real y la sesión de reflexión, con la participación de otros/as docentes del GM. De esos 29 docentes, de 15 tienen experiencia en ejecutar dos o tres clases públicas. Entre ellos, se advirtió que la mayor experiencia acumulada en la ejecución de clases públicas dio como resultado una mejora en las propias clases, tanto en la elaboración del plan, en la estructuración espacial del aula y en la elaboración de los materiales, como en la estructuración de la clase, que fue de creación propia de esos/as docentes. Sin embargo, respecto a los contenidos y a las actividades de las clases, se notó que las experiencias propias de los/as docentes vienen limitadas desde su infancia y su escolaridad, por lo que tienen la tendencia de realizar clases solamente encima de las mesas. Para contrarrestar esa situación, necesitaron recibir asesoramiento y propuestas de clase mediante actividades concretas.



**Tabla 11: Lista de materiales didácticos elaborados por Proyecto**

Nº	Material
(1)	Crecimiento y desarrollo humano: Base neurofisiológica - Psicológica para la comprensión de la discapacidad I
(2)	Fisiología del sistema nervioso, motora, sensorial y de lenguaje: Base neurofisiológica - Psicológica para la comprensión de la discapacidad II
(3)	Políticas, leyes, reglamentos y situación actual para la discapacidad en Bolivia - Para la comprensión de la discapacidad III
(4)	Enseñanza para alumnos/as con discapacidad intelectual - Estudio de Caso
(5)	Enseñanza para alumnos/as con discapacidad visual - Estudio de Caso
(6)	Enseñanza para alumnos/as con discapacidad auditiva - Estudio de Caso
(7)	Enseñanza para alumnos/as con discapacidad física motora - Estudio de Caso
(8)	Enseñanza para alumnos/as con discapacidad (trastorno) del desarrollo - Estudio de Caso

**Tabla 12: Avances en la elaboración de materiales didácticos del Proyecto (1/2/2013)**

Avance	Logro en el periodo del Proyecto (%)												
	(1)	(2)	(3)	(4)		(5)		(6)		(7)		(8)	
				T	CT	T	CT	T	CT	T	CT	T	CT
1. Estructura	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
2. Elaboración de contenidos	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
3. Revisión de contenidos	100	100	0	50	50	100	100	50	50	50	50	50	50
4. Corrección y edición	100	50	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5. Reestructuración	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6. Aprobación del ME	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

**Notas:**

T: Parte teórica.

CS: Parte práctica (investigación educativa).

**Actividades**

El Proyecto realizó las actividades planificadas relacionadas con el Resultado 5 con atraso, debido al tiempo limitado. Esto ha sido ocasionado por la discrepancia entre el PO del Proyecto y el calendario escolar, así como por la falta de experiencia en la elaboración de materiales didácticos por parte de los/as maestros/as del GM. Por esta razón, el ME y JICA decidieron prolongar por seis meses la duración del Proyecto.

**Gráfico 7: Actividades planificadas e implementadas (Actividades 5-1, 5-2 y 5-3)**

Resultados	Actividad	Inicio	2010												2011												2012												2013
			6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11							
5. Los estudiantes del Quito Meta obtienen certificaciones para los cursos 1 a 4 y otros de acuerdo a la normativa del Ministerio	5.1 Elaboración de materiales de acuerdo a los cursos planificados (1 a 4)	Jun	[Shaded]												[Shaded]												[Shaded]												Jul
	5.2 Publicación de los materiales elaborados a través del Ministerio	Jun	[Shaded]												[Shaded]												[Shaded]												Jul
	5.3 Realización de encuentros nacionales de la coordinación de los cursos planificados	Jun	[Shaded]												[Shaded]												[Shaded]												Jul



**El Objetivo del Proyecto se ha logrado a nivel apreciable por las siguientes razones:**

- (1) Según el resultado de la evaluación sintética, sobre la base de los resultados de las evaluaciones de los indicadores de los Resultados 1 a 4 (véase la Tabla 13), los/as maestros/as del GM han mejorado sus conocimientos teóricos y sus prácticas pedagógicas sobre educación especial-inclusiva, en comparación con el nivel inicial.

**Tabla 13: Resultados de la evaluación sintética  
(Resultado 1, 2, 3 y 4)**

Criterios de evaluación	Indicadores de evaluación	Tiempo de evaluación	Número total por criterios de evaluación (%)				Total
			A	B	C	D	
Resultado 1: Conocimientos especializados	Teoría x Preevaluación	6/2010 a 2/2013	1 (0.2)	37 (6.3)	154 (26.3)	393 (67.2)	585 (100.0)
	Teoría x Posevaluación		41 (7.0)	174 (29.5)	214 (36.3)	160 (26.7)	589 (100.0)
	Prácticas		63 (14.3)	184 (41.8)	128 (29.1)	65 (14.8)	440 (100.0)
Resultado 2: Capacidad de valoración	Perfil del plan de trabajo individual	3/2012	43 (100.0)		0 (0.0)		43 (100.0)
		2/2013	27 (81.8)	5 (16.1)	1 (2.1)	0 (0.0)	33 (100.0)
Resultado 3: Capacidad de planificación	Plan de intervención	3/2012	0 (0.0)	0 (0.0)	12 (27.9)	31 (72.1)	43 (100.0)
		2/2013	21 (63.6)	10 (30.3)	2 (6.1)	0 (0.0)	33 (100.0)
	Plan de situación didáctica	3/2012	0 (0.0)	13 (31.0)	15 (35.7)	14 (33.3)	42 (100.0)
		2/2013	24 (68.6)	11 (31.4)	0 (0.0)	0 (0.0)	35 (100.0)
Resultado 4: Capacidad de prácticas	Clases abiertas y públicas	8/2012	0 (0.0)	21 (95.5)	1 (4.5)	0 (0.0)	22 (100.0)
		2/2013	5 (22.7)	17 (77.3)	0 (0.0)	0 (0.0)	22 (100.0)
	Observador/a de clase	8/2012	5 (11.9)	21 (50.0)	16 (38.1)	0 (0.0)	42 (100.0)
		2/2013	22 (52.4)	20 (47.6)	0 (0.0)	0 (0.0)	42 (100.0)

- (2) Mientras que los/as maestros/as del GM estaban elaborando una serie de materiales didácticos, sus especialidades fueron más firmes, por dominar todos los contenidos de esos materiales. Además, ellos/as han logrado integrar la parte teórica con la parte práctica por sí mismos/as, gracias a las actividades realizadas en el marco del Proyecto y a los trabajos cotidianos en sus lugares de prácticas. Estos avances profesionales han producido la autoconfianza de cada uno/a del GM, al igual que el fortalecimiento de una red profesional entre ellos, aumentando y favoreciendo las discusiones sobre la educación especial-inclusiva en Bolivia.
- (3) Los/as maestros/as del GM todavía deben fortalecer ciertos aspectos tanto teóricos como prácticos para ser recursos humanos núcleo del desarrollo de la educación especial-inclusiva en Bolivia, con el fin de formar a los/as docentes de la siguiente generación de esa área educativa. Por tal razón, es necesario seguir profundizando sus especialidades mediante la realización de estudios de caso y estudios de clase.

### 3-1-2. Objetivo general

Mejorar la calidad de la formación de maestros/as en educación inclusiva en la diversidad a través del GM del Proyecto, como agentes multiplicadores.

#### Indicador

*Capacitación realizada por el Grupo Meta (Capacitación Intraescolar, Capacitación Interescolar, Capacitación local, etc.)*

Se puede observar la tendencia del mejoramiento hacia el Objetivo general por las siguientes razones:

- (1) Los/as maestros/as de las ESFM's están introduciendo los conocimientos y las metodologías aprendidas en el Proyecto en sus clases, y los/as maestros/as de los CEEs también los están aplicando en sus prácticas cotidianas. Estos esfuerzos promueven el mejoramiento de sus capacidades y llaman la atención de sus colegas, de las autoridades de cada entidad, de los padres de familia y de los educadores interesados, entre otros actores educativos. Esto podría convertirse en el primer paso para cambiar la situación actual de la educación especial-inclusiva en Bolivia.
- (2) Aparte de los esfuerzos individuales, los/as maestros/as del GM, con el apoyo de los directivos y de sus colegas de sus propias entidades, realizaron las actividades que se muestran en la Tabla 14, con el propósito de compartir conocimientos, técnicas y experiencias con otros. Esto evidencia que ellos/as tienen las capacidades de ser agentes multiplicadores para mejorar la calidad de la educación especial-inclusiva.

**Tabla 14: Capacitaciones espontáneas realizadas en las entidades involucradas en el Proyecto**

CEE	Número de capacitaciones realizadas por temática				Participantes en total
	Introducción a la discapacidad	Diagnóstico y valoración pedagógica	Planificación, plan de trabajo individual	Práctica pedagógica, clase abierta-pública	
MURURATA, LPZ	11	3	1	3	527
PREEFA, CBBA	4	2	2	3	215
IDA, CBBA	1	3	4	-	109
CPC, SCZ	4	5	4	5	446
PREEFA B, SCZ	2	3	2	2	456
JULIA JIMÉNEZ DE GUTIÉRREZ, SCZ	4	2	3	4	192
APRECIA, SCZ	2	1	1	-	55
<b>Total</b>	<b>28</b>	<b>19</b>	<b>17</b>	<b>17</b>	<b>2000</b>

### 3-2. Proceso de implementación del Proyecto

#### 3-2-1. Implementación de las actividades

Las actividades del Proyecto han sido llevadas a cabo de acuerdo con el PO definido en el R/D firmado el 27 de mayo de 2010. Las actividades planificadas fueron ejecutadas con un nivel de logro satisfactorio (véase el

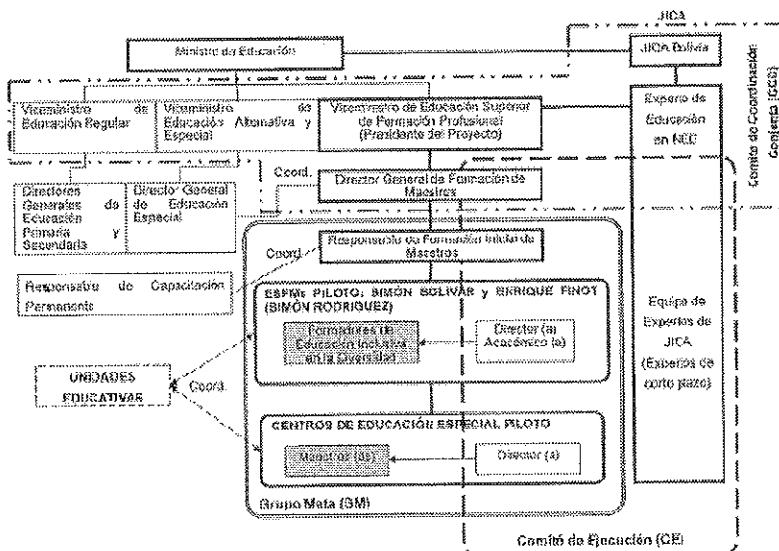
Apéndice 1). No obstante, fue necesario modificar las fechas planificadas, debido a las varias dificultades encontradas a lo largo del desarrollo del Proyecto.

### 3-2-2. Estructura de operación y de gestión del Proyecto

El Proyecto se ha implementado con una estructura orgánica apropiada. Dicha estructura ha funcionado relativamente bien, en virtud de la coordinación efectiva entre la experta japonesa y los miembros del GM, aunque se presentaron dificultades de coordinación interna en el ME debido al movimiento de personal, a la reorganización institucional y a la comunicación limitada por el exceso de trabajo, entre otros factores.

Por otra parte, en el R/D, se establecieron las funciones para cada una de las instancias intervinientes, conformando el CCC como órgano supremo del Proyecto, encabezado por el Viceministro de Educación Superior de Formación Profesional, y el Comité de Ejecución (CE) como órgano técnico administrativo. Esta condición ha permitido diferentes niveles de coordinación, que pueden ser identificados como coordinación estratégica y coordinación técnica. Sin embargo, el CE no ha funcionado bien debido a los inconvenientes para reunirse por la distancia dispersa y por los cambios de autoridades y de todos los directores de las ESFMs y de los CEEs. Para evitar los problemas de coordinación, la experta japonesa ha sostenido contactos directos con las ESFMs y con los CEEs. Para ello, seleccionó a un/a coordinador/a por entidad, entre los/as docentes participantes en el Proyecto.

**Gráfico 9: Estructura orgánica del Proyecto**



### **3-2-3. Monitoreo y evaluación**

Al inicio del Proyecto, el monitoreo a las ESFM y a los CEEs por la profesional de la DGFM y por la experta japonesa estaba planificado para ser realizado seis veces al año. Sin embargo, dicho monitoreo fue ejecutado parcialmente por la dificultad de acceso geográfico y por el tiempo insuficiente para hacerlo, principalmente. Por tales razones, en el momento de la Revisión Intermedia del Proyecto, se agregaron dos actividades: la “Construcción del mecanismo de monitoreo mutuo (Actividad 6-1.)” y la “Realización de monitoreo mutuo bajo la supervisión del Ministerio de Educación (Actividad 6-2.)”. A partir de ello, se creó el Resultado 6: “El GM realiza monitoreo del Proyecto a las entidades involucradas”. Estas actividades se han realizado animadamente por iniciativa de los miembros del GM.

### **3-2-4. Comunicación entre las partes interesadas**

En general, ha habido una buena comunicación tanto formal como cotidiana informal entre la experta japonesa y los/as maestros/as de las ESFM y de los CEEs que participan en el Proyecto. Esto ha sido realizado a través de comunicaciones telefónicas y electrónicas (E-mail), y/o por medio de eventos periódicos, gracias al adecuado dominio del idioma local por parte de la experta.

En cuanto a la comunicación de la experta japonesa con las personas del ME, a nivel central, ésta fue por contacto directo, tanto de manera personal como oficial (reuniones), así como por vía telefónica y por E-mail. Así mismo, la experta japonesa mantiene comunicación permanente y fluida con la profesional de la DGFM. Sin embargo, se debe hacer notar que han existido ciertas dificultades de comunicación con las autoridades, debido a sus agendas apretadas.

### **3-2-5. Sentido de apropiación**

Todos los miembros del GM se sienten como protagonistas del Proyecto. En ese sentido, han realizado grandes esfuerzos para implementar las actividades planificadas por el Proyecto, sacrificando incluso sus tiempos libres. Las autoridades del ME los han apoyado de manera efectiva mediante la coordinación con las entidades involucradas en el Proyecto, el cumplimiento de los gastos para los talleres de capacitación (según el convenio suscrito entre ambos gobiernos) y su presencia en los eventos realizados, entre otras formas. Por tanto, las personas principales del Proyecto tienen un amplio sentido de apropiación del mismo.

### **3-2-6. Método de la cooperación técnica**

JICA presta asistencia técnica en la modalidad de proyectos, cuyos componentes son, entre otros: la asignación de expertos en los respectivos temas, tanto de Japón como de terceros países; las capacitaciones en Japón; los talleres nacionales y departamentales de capacitación; el seguimiento a nivel escolar e institucional; y la donación de equipos y de materiales didácticos.



Los miembros del GM consideran que esta estrategia y este método de asistencia técnica han sido congruentes y apropiados, ya que permiten realizar una incidencia directa en los beneficiarios y dejar capacidades instaladas en el país.

En cuanto a la colaboración de los voluntarios japoneses del Programa JOCV, cuatro de ellos han trabajado en los CEEs PREEFA B de Santa Cruz, PREEFA de Cochabamba y MURURATA de La Paz. El Proyecto mantiene una buena relación con esos voluntarios y ha logrado con ellos una adecuada sinergia. Así, por ejemplo, después de que el Proyecto fortaleció los conocimientos y las técnicas de los/as maestros/as del GM por medio de talleres de capacitación, los voluntarios apoyaron en sus prácticas, en sus respectivos Centros. De ese modo, el Proyecto y los voluntarios japoneses complementan mutuamente su trabajo de asistencia técnica, con el fin de lograr un mismo objetivo: formación de maestros de CEEs.

Además de la cooperación técnica de JICA, las ESFMs Enrique Finot y Simón Bolívar han recibido la “Asistencia Financiera No Reembolsable para Proyectos Comunitarios de Seguridad Humana” de la Embajada del Japón, con la finalidad de construir un centro de investigación y diagnóstico para la especialidad de educación inclusiva en la diversidad, desde el año 2012. Esta cooperación también ha producido una sinergia, mejorando el ambiente físico y el desempeño de la especialidad de educación inclusiva de ambas ESFMs.

En cuanto a la relación con otros donantes, el Proyecto ha mantenido la coordinación con otros proyectos de otros donantes que siguen interesados en el mejoramiento de la calidad de la educación especial-inclusiva, particularmente con el ICEVI (International Council for Education of People with Visual Impairment), para realizar el 4to TNC.

### **3-2-7. Aportaciones**

#### **(1) Parte japonesa**

##### **1. Experto japonés**

JICA envió a Bolivia una experta japonesa en “Educación especial-inclusiva” el 1 de junio de 2010. Ella se ha encargado tanto de dar la asistencia técnica en ese tema como de la administración del Proyecto, hasta la fecha. La duración de su trabajo se extendió por seis meses (hasta el 31 de mayo de 2013), por la prolongación del propio Proyecto.

**Tabla 15: Lista de experto japonés del Proyecto**

Categoría	Nombre	Especialidad	Periodo de contratación
Experta de largo plazo	Takako Kamijo	Educación en NEE	1/6/2010-31/5/2013

### 2. Expertos de terceros países

En total, JICA envió a Bolivia seis expertas de terceros país: tres argentinas, una chilena y una colombiana (por 3 veces), para dar asistencia técnica en los TNC.

**Tabla 16: Lista de expertos de terceros países del Proyecto**

Nombre	País de residencia	Cargo	Periodo de contratación
Imelda Fernández	Argentina	Capacitadoras, 4to TNC	26-29/6/2011
Mónica Monforte			28/6-1/7/2011
Laura Lingua			
Ana María Cárdenas	Chile	Capacitadora, 5to TNC	9-16/7/2011
Nelly Galeano	Colombia	Capacitadora, 6to y 7mo TNC	19-26/10/2011 31/11-7/12/2011
Nelly Galeano	Colombia	Observadora, supervisora y analista de los contenidos del Proyecto	24/2-6/3/2013

### 3. Consultores nacionales

JICA contrató 24 consultores nacionales para los TNC, las capacitaciones departamentales y la elaboración de materiales didácticos. También contrató a la Sra. Claudia Dorado, cuatro veces, como asistente técnica-administrativa del Proyecto; ella trabaja con la experta japonesa de manera conjunta y coordinada. Por otra parte, JICA ofreció servicios adicionales a través de dos consultores de su oficina, como apoyo complementario al Proyecto.

**Tabla 17: Lista de consultores nacionales del Proyecto**

Nombre	Cargo	Periodo de contratación
Claudia Dorado	Asistente técnica para la revisión y la corrección de textos sobre NEE, y la coordinación administrativa del Proyecto Capacitadora del taller departamental sobre redacción de textos	10/12/2010-31/3/2011
		19/4/2011-30/3/2012
		30/4/2012-30/11/2012
		2/1-31/5/2013
Juan Carlos Durán	Capacitadores del 1er TNC	12-14/7/2010
Lucio Álvarez		15/7/2010
Feliza Alf		12/7/2010
Roxana Selum		16/7/2010
Rocío Peredo		Consultoras locales de JICA
Graciela Minaya		
Ninosca Ocampo		
Juan Carlos Durán	Capacitadores del 2do TNC	25-27/10/2010 28-29/10/2010
Rubén Brugos	Capacitadores del 3er TNC	13-15/12/2010
Gloria Sabath		15-17/12/2010
Raúl Véliz	Capacitador del 4to TNC	1/7/2011
Nelly Galeano	Capacitadora del 5to TNC	11-13/7/2011
Bethy Orellano	Capacitadoras del 7mo TNC	7/12/2011
Tereza Ruiz		8-9/12/2011

Darinka Kostic Sergio Ortiz Cristian Avilés	Capacitadores en el uso y la aplicación de tests de psicopedagogía en SCZ	5-9/2011 (4 veces)
Rosario Mejía	Capacitadora en el uso y la aplicación de tests de psicopedagogía en CBBA	6-9/2011 (3 veces)
Rocío Peredo Hemógenes Carrillo	Capacitadores en el uso y la aplicación de tests de psicopedagogía en LPZ	5-9/2011 (4 veces)
Rosario Mejía	Revisora y correctora de contenido del texto 1	26/2-21/3/2011
Tereza Ruiz	Capacitadora del 9no TNC	21-25/5/2012
Rosario Mejía	Elaboración de la tabla y del manual de valoración del desarrollo, y capacitadora en la aplicación y el uso de tests de psicopedagogía	15/6-15/11/2012
Tereza Ruiz	Capacitadora del 10mo TNC	27-31/8/2013
Rosario Mejía	Revisora y correctora de contenidos de los textos sobre NEE, y validación de la tabla de valoración del desarrollo	2/1-31/5/20123

#### 4. Misión japonesa

JICA envió cinco Misiones desde Japón: una “Misión de Estudio de Planificación Detallada del Proyecto”, una “Misión de Revisión Intermedia”, dos “Misiones de Consulta (monitoreo)” y una “Misión de Evaluación Final”.

**Tabla 18: Lista de las Misiones Japonesas**

Misión	Nombre	Cargo	Entidad	Periodo
Estudio de planificación detallada	Norihiro Nishikata	Líder	Asesor Superior de JICA	18-25/2/2010
	Takako Kamijo	Capacitación docente	-	16/1-27/2/2010
	Kayoko Maeda	Planificación de cooperación	Funcionaria de JICA-Tokio	18-25/2/2010
Consulta	Toshio Murata	Asesor	Asesor Superior de JICA	20/10-26/10/2011
	Toshio Murata	Líder/General	Asesor Superior de JICA	26/2-16/3/2012
Revisión intermedia	Katsuhiko Nomura	Educación en NEE (Intelectual)	Docente del Centro de Investigación de Educación en NEE, Universidad de Tsukuba	25/2-12/3/2012
	Kazuhiko Mamada	Educación en NEE (discapacidad visual)	Docente del Centro de Investigación de Educación en NEE, Universidad de Tsukuba	25/2-12/3/2012
Consulta	Toshio Murata	Líder	Asesor Superior de JICA	15/10-4/11/2012
Evaluación final	Toshio Murata	Líder	Asesor Superior de JICA	16/2-2/3/2013
	Ami Ikeda	Planificación de cooperación	Funcionaria de JICA-Tokio	
	Yasuhiro Hori	Especialista técnica pedagógica	-	
	Miho Ota	Especialista de evaluación	Koei Research Institute	

#### 5. Capacitación en Japón

JICA envió a 27 bolivianos (26 maestros/as del GM y una autoridad) a los tres tipos de cursos de capacitación en Japón: “Educación en NEEs para los Países Suramericanos (3 maestros x 2 años)”, “Educación en NEEs de Japón (10 maestros x 2 años)” y “Fortalecimiento de Formación Inicial de Docentes en Educación en NEEs (1 viceministro)”.

**Tabla 19: Lista de participantes en las capacitaciones en Japón**

Título de la capacitación	Periodo	Participantes de la capacitación	Entidad cooperante en Japón
Educación en NEEs para los países suramericanos	1/9-9/10/2010	Total: 3 personas 1. Ramiro Cuentas, Asesor del Viceministerio de Educación Superior de Formación Profesional (VESFP), ME (exautoridad) 2. María Consuelo Dávila, Docente de la ESFM Simón Bolívar 3. Johnny Moreno, Docente de la ESFM Enrique Finot (exparticipante del GM)	Universidad de Tsukuba
Educación en NEEs para los países suramericanos	20/8-1/10/2011	Total: 3 personas 1. Lucy Fernández, Profesional de la DGFM, ME 2. Edith Chacón, Docente de la ESFM Simón Bolívar 3. Lily Ortuño, Docente de la ESFM Enrique Finot	Universidad de Tsukuba
Educación en NEEs de Japón (Discapacidad visual y auditiva)	1-25/11/2011	Total: 10 personas 1. Juan Gutiérrez, Docente de la ESFM Simón Bolívar (discapacidad visual) 2. Orlando Camacho, Docente de Instituto de Audiología (discapacidad auditiva) 3. Mirtha Álvarez, Docente de la ESFM Enrique Finot (discapacidad auditiva) 4. Cristina Delgadillo, Docente del Centro Aprecia Santa Cruz (discapacidad visual) 5. María Elena Martínez, Docente de la ESFM Simón Bolívar (discapacidad auditiva) 6. Katerine Salvatierra, Docente del Centro Aprecia Santa Cruz (discapacidad visual) 7. Zulma Solares, Docente del Centro Julia Jiménez de Gutiérrez (discapacidad auditiva) 8. Nancy Abasto, Docente del Instituto de Audiología (discapacidad auditiva) 9. Olivia Sagredo, Docente del Centro Julia Jiménez de Gutiérrez (discapacidad auditiva) 10. Rosario Cabezas, Docente del Centro Aprecia Santa Cruz (discapacidad visual)	Universidad de Tsukuba Escuela experimentada en NEEs visuales Escuela experimentada en NEEs auditivas
Fortalecimiento de formación inicial de docentes educación en NEE	7-11/11/2011	1. Armando Terrazas, VESFP, ME	Universidad de Tsukuba
Educación en NEEs de Japón (Discapacidad intelectual, discapacidad del desarrollo y discapacidad física motora-múltiple profunda)	4-29/6/2012	Total: 10 personas 1. María Luisa Cusicanqui, Docente de la ESFM Simón Bolívar (discapacidad físico motora) 2. Ruthy Robles, Docente de la ESFM Enrique Finot (discapacidad físico motora) 3. Victoria Morón, Docente de la ESFM Enrique Finot (discapacidad intelectual) 4. Irene Fernández, Directora del Centro Parálisis Cerebral (discapacidad físico motora) 5. Mauricio Sosa, Docente del Centro Parálisis Cerebral (discapacidad físico motora) 6. Marquezza Leaños, Docente del Centro Parálisis Cerebral (discapacidad físico motora) 7. Lidia Peredo, Directora del Centro PREEFA CBBA (discapacidad	Universidad de Tsukuba Escuela experimentada en NEEs visuales Escuela experimentada en NEEs auditivas

	intelectual)	
	8. Ludovina Gutiérrez, Docente del Centro PREEFA B (discapacidad intelectual)	
	9. Ruth Bautista, Docente del Centro Mururata (discapacidad intelectual)	
	10. Lizet Ortiz, Docente del Centro Mururata (discapacidad intelectual)	

#### 6. Gastos complementarios

Los gastos necesarios para la ejecución del Proyecto han sido proporcionados por parte de JICA, tal como aparece en la Tabla 20, a una tasa de cambio aplicada de Bs1.00 = JPY13.00.

**Tabla 20: Gastos operativos de JICA en el Proyecto**

Año fiscal	Monto (en miles de yenes)
2010	5463 (ejecutado)
2011	6652 (ejecutado)
2012	9452 (en ejecución)
2013	5401 (estimado)
<b>Total</b>	<b>26968</b>

#### 7. Donación de equipos

JICA realizó donaciones de videocámaras, de instrumentos para ejercicios, de baterías de tests psicopedagógicos, de mobiliario escolares y de textos bibliográficos de referencia. El costo total fue de Bs 1098818 (US\$ 159249, a una tasa de cambio aplicada de US\$1.00 = Bs6.9).

**Tabla 21: Lista de equipos donados por el Proyecto**

Equipos	Cantidad	Lugar de donación	Estado de uso	Precio (USD)	Fecha de donación
Videocámara y trípode	7	Instituto de Audiología	En uso	500	27/6 y 11/7/2011 (Adquisición el año fiscal 2011)
		Centro Parálisis Cerebral	En uso	500	
		Centro Mururata	En uso	500	
		Centro Julia Jiménez de Gutiérrez	En uso	500	
		Centro Apresia Santa Cruz	En uso	500	
		Centro PREEFA B	En uso	500	
Videocámara y trípode	3	ESFM Simón Bolívar	En uso	500	2/3/2012
		ESFM Enrique Finot	En uso	500	
		ESFM Simón Rodríguez	En uso	500	
Equipos de psicomotricidad (a cada entidad) - Colchonetas - Pelota (redonda) - Pelota (ovalada) - Túnel para circuitos - Saco - Soga	4	Instituto de Audiología	En uso	228	9/12/2011
		Centro Parálisis Cerebral	En uso	228	
		Centro Mururata	En uso	228	
		Centro Julia Jiménez de Gutiérrez	En uso	228	
	1	Centro Apresia Santa Cruz	En uso	228	
		Centro PREEFA B	En uso	228	
	1	Centro PREEFA CBBA	En uso	228	
		ESFM Simón Bolívar	En uso	228	
	1	ESFM Enrique Finot	En uso	228	
2					

Textos bibliográficos referenciales	41	Oficina del Proyecto	En uso	1132	6/2010-2/2013
Baterías de tests de psicopedagogía	11	Instituto de Audiología	En uso	1560	5-6/2011
		Centro Parálisis Cerebral	En uso	1560	
		Centro Mururata	En uso	1560	
		Centro Julia Jiménez de Gutiérrez	En uso	1560	
		Centro Aprecia Santa Cruz	En uso	1560	
		Centro PREEFA B	En uso	1560	
		Centro PREEFA CBBA	En uso	1560	
	3 ESFMs	(En espera)	4680	Se espera la construcción del Centro de Investigación de Educación Inclusiva en las ESFMs	
Pizarras acrílicas con imán	23	Centro Julia Jiménez de Gutiérrez	En uso	11111	2012/6
	18	Centro PREEFA B	En uso		
	8	Centro Parálisis Cerebral	En uso		
	1	Centro Aprecia Santa Cruz	En uso		
Mesas y sillas unipersonales para estudiantes	10	Centro Aprecia Santa Cruz	En uso	52985	2012/5-6
	149	Centro Julia Jiménez de Gutiérrez	En uso		
	53	Centro PREEFA CBBA	En uso		
	166	Centro Mururata	En uso		
	203	Centro PREEFA B	En uso	45855	6/2012
	144	Centro Parálisis Cerebral	En uso		
	140	Instituto de Audiología	En uso	25514	8/2012
	26	Centro Julia Jiménez de Gutiérrez	En uso		
	10	Centro PREEFA CBBA	En uso		
	4	Centro Parálisis Cerebral	En uso		
<b>Total</b>				<b>159249</b>	

## (2) Parte boliviana

### 1. Contrapartes

Al inicio del Proyecto, el ME, por intermedio del VESFP, asignó a dos autoridades y a una de sus profesionales a nivel central, a 11 maestros/as de tres ESFMs y a 31 maestros/as de siete CEEs como miembros del GM. Luego, fueron incluidos la directora del CEE PREEFA de Cochabamba, en mayo de 2012, y un docente de la ESFM Simón Rodríguez, como participante del GM en el 8vo TNC. Actualmente, los miembros del GM son como se muestra en la Tabla 22.

**Tabla 22: Lista de miembros del GM del Proyecto  
(Contrapartes, 2/2013)**

Nº	Función	Nombre	Entidad	Cargo
1	Presidente del Proyecto	Benecio Quispe	VESFP, ME	Viceministro
2	Director ejecutivo del Proyecto	Fernando Carrión	DGFM, ME	Director
3	GM (parte administrativa)	Lucy Fernández	DGFM, ME	Professional II
4	GM	Edith Chacón	ESFM Simón Bolívar	Docente

5	(ESFMs)	María Luisa Cusicanqui			
6		María Consuelo Dávila			
7		Juan Gutiérrez			
8		María Elena Martínez			
9		Mirtha Álvarez			
10		Mercedes Guzmán	ESFM Enrique Finot	Docente	
11		Victoria Morón			
12		Lily Ortuño			
13		Ruthy Robles			
14		Juan Jiménez	ESFM Simón Rodríguez	Docente	
15		GM (CEEs)	Ruth Bautista	Centro Mururata (Discapacidad intelectual)	Docente
16			Edwin Coaquira		
17			Nancy Maydana		
18			Lizeth Ortiz	Centro Apresia Santa Cruz (Discapacidad visual)	Docente
19	Rosario Cabezas				
20	Cristina Delgadillo				
21	Katerine Salvatierra				
22	Celia Tapia				
23	Norma Vallejos		Centro Parálisis Cerebral (Discapacidad física Motora- múltiple)	Directora	
24	Irene Fernández			Docente	
25	Tita Alvis				
26	Marqueza Leafios				
27	Arnoldo Pardo		Centro Julia Jiménez de Gutiérrez (Discapacidad auditiva)	Docente	
28	Mauricio Sosa				
29	Olivia Sagredo				
30	Zulma Solares		Centro PREEFA B (Discapacidad intelectual)	Docente	
31	Erika Toledo				
32	Pablo Torrez		Instituto de Audiología (Discapacidad auditiva)	Docente	
33	Ludovina Gutiérrez				
34	Carlos Nina				
35	Sandra Quiroz				
36	Nancy Abasto				
37	María Elena Alarcón		Centro PREEFA CBBA (Discapacidad intelectual)	Docente	
38	Orlando Camacho				
39	Ángela Fuentes				
40	María Elena Villarroel		Centro PREEFA CBBA (Discapacidad intelectual)	Directora	
41	Lidia Peredo			Docente	
42	Mary Cartagena				
43	Martha Antezana				
44	Amparo Ríos				
45	Roberto López				

## 2. Costo por ejecución de capacitaciones y de monitoreo

En total, hasta la fecha, el costo por concepto de ejecución de las capacitaciones y de los monitoreos fue de Bs.608,063 (US\$ 87,999).

## 3. Expertos bolivianos

El ME no ofreció expertos bolivianos en la temática de “Política Educativa Plurinacional y Política de Educación Inclusiva en la Diversidad” porque en esta Cartera de Estado aún están en proceso de construcción los detalles de tales políticas.

#### 4. Espacio de oficina para el Proyecto

El ME ofreció al Proyecto un espacio físico con escritorios, sillas y estantes para la experta japonesa y su asistente, en instalaciones de su edificio central. Sin embargo, en menos de un año, dicho espacio fue cambiado tres veces debido a la reorganización ministerial. El espacio actual que ocupa el Proyecto es limitado, por lo que el ambiente de trabajo no es el adecuado, especialmente para la elaboración de materiales didácticos y para el trabajo de administrativo y de contabilidad.

#### 5. Donación de equipos

El ME suministró en total tres computadoras portátiles y tres estantes a las tres ESFMs que participan en el marco del Proyecto. Sin embargo, por el cambio de autoridades en las ESFMs y por el reglamento interno de cada ESFM, no hubo un aprovechamiento favorable de ese equipamiento por parte de los/as docentes participantes en el Proyecto.

### **3-2-8. Influencia de los requisitos y de los supuestos importantes, y otros asuntos pendientes**

#### **(1) Requisitos**

##### 1. Asignación de los miembros del GM

El ME, por intermedio del VESFP, seleccionó tres ESFMs: ESFM Simón Bolívar, en La Paz, ESFM Enrique Finot, en Santa Cruz, y ESFM Simón Rodríguez, en Cochabamba. Con esas instituciones, firmó el correspondiente Convenio definido en el R/D, firmado por el ME y JICA el 27 de mayo de 2010. Así mismo, entre junio y julio de 2010, el ME seleccionó siete CEEs: CEE Julia Jiménez de Gutiérrez, CEE PREEFA B, CEE Centro Parálisis Cerebral (CPC) y CEE APRECIA Santa Cruz, de Santa Cruz; CEE Mururata de La Paz; CEE Instituto de Audiología (IDA) y CEE PREEFA Cochabamba, de Cochabamba. Con todas esas instituciones, el ME firmó un acuerdo de participación en el Proyecto.

Desde el inicio, tanto las ESFMs como los CEEs participaron positivamente en las actividades del Proyecto. En el caso de la ESFM Simón Rodríguez de Cochabamba, la participación ha sido parcial por motivos internos y debido a la política que maneja la propia institución. De ahí que después del 3er TNC, los/as docentes de esa ESFM dejaron de participar en el Proyecto, por no haber para ellos/as la necesaria estabilidad laboral. A pesar de ello, desde el 8vo TNC, un docente institucionalizado en la especialidad de educación inclusiva inició su participación en el Proyecto. De igual manera, el CEE PREEFA Cochabamba presentó dificultades en la estabilidad de sus participantes, por lo que sólo una persona de las cinco iniciales se benefició con todas las actividades del Proyecto, y recién desde el 7mo TNC se incorporaron tres nuevos/as docentes de esa entidad, así como la nueva directora, que se integró en mayo de 2012. La incorporación de esos/as cuatro participantes al Proyecto dio como resultado un notable avance en ese Centro.



### 2. Asignación de los/as docentes del GM como contrapartes del Proyecto

Al inicio del Proyecto, el ME asignó a 11 maestros de tres ESFMs y a 31 maestros de siete CEEs como miembros del GM. Luego, en diciembre de 2011, fueron incorporados tres docentes del CEE PREEFA Cochabamba” en el mes de diciembre de 2011, la directora de CEE “PREEFA CBBA” en el mes de mayo de 2012 y un docente de ESFM Simón Rodríguez como miembro de GM en el 8vo Taller Nacional de Capacitación.

### 3. Establecimiento del CCC y del CE

El CCC fue establecido sobre la base del R/D. Los miembros del CCC son: el Viceministro de Educación Superior de Formación Profesional (Presidente del CCC), el Viceministro de Educación Alternativa y Especial, el Viceministro de Educación Regular, el Director General de Formación de Maestros, el Responsable de Formación Inicial de Maestros, los Profesionales 1 en Didáctica General y Especial (6 del ME), el Representante Residente de JICA-Bolivia y los Expertos japoneses (2 de JICA). Las reuniones del CCC se celebraron solamente una vez, en fecha 8 de marzo del 2012.

**Tabla 23: Reuniones del CCC**

CCC	Fecha	Lugar	Participantes	Tema de discusión
Iro	8/3/2012 7:30-9:00	Sala del VESFP	Total: 10 personas 1. Armando Terrazas, Viceministro, VESFP 2. Fernando Carrión, Director, DGFM 3. Lucy Fernández, Profesional II, DGFM 4. Takashi Nishimura, Subdirector, JICA-Bolivia 5. Aimi Shimizu, Funcionaria, JICA Bolivia 6. Takako Kamijo, Experta, JICA 7. Claudia Dorado, Consultora local, JICA 8. Toshio Murata, Líder, Misión de consulta, JICA 9. Katsuhiko Nomura, Miembro, Misión de consulta, JICA 10. Kazuhiko Mamada, Miembro, Misión de consulta, JICA	<ul style="list-style-type: none"> <li>- Confirmación del avance del Proyecto</li> <li>- Informe del nivel de alcance de la elaboración de textos</li> <li>- Promover aprovechamiento del GM por el ME</li> <li>- Aprobación del plan operativo próximo y de las indicaciones de logro del Proyecto</li> <li>- Extensión del Proyecto</li> <li>- Auditoría del Proyecto por el ME</li> </ul>

De igual manera, se estableció el CE. Los miembros del CE son: el Director General de Formación de Maestros, el Responsable de Formación Inicial de Maestros, los Profesionales 1 en Didáctica General y Especial (3 del ME), los Directores Académicos de tres ESFMs (3 de las ESFMs participantes), los Directores de siete CEEs (7 de los CEEs participantes) y la Experta japonesa. Hasta la fecha, no se ha realizado ninguna reunión del CE, debido al inconveniente de reunirse por la distancia dispersa y por los cambios de autoridades del ME y de todos los directores de las ESFMs y de los CEEs.

## **(2) Seguimientos a las recomendaciones de la Revisión Intermedia**

La Revisión Intermedia del Proyecto fue realizada entre febrero y marzo de 2012 por la Misión Japonesa y el ME. Los miembros de la Revisión Intermedia presentaron las siguientes tres recomendaciones en la reunión del CCC:

- 1) Prolongar por seis meses la duración del Proyecto, para perfeccionar los textos (Estudio de Caso) en elaboración e introducirlos oficialmente en el SEP.
- 2) Promover y monitorear la aplicación de los conocimientos y de las técnicas adquiridos, y los formatos y los materiales elaborados, construyendo un mecanismo de monitoreo mutuo en el GM.
- 3) Asegurar la estabilidad laboral del GM y aprovecharlo eficientemente dentro y fuera del Proyecto.

En cuanto a la recomendación 1), el Gobierno de Bolivia y JICA firmaron el R/D en fecha 24 de septiembre de 2012 para prolongar por seis meses la duración del Proyecto, agregando las actividades de introducción y de difusión de los materiales elaborados. Es decir, dicha recomendación está cumplida.

Sobre la recomendación 2), el Proyecto creó el mecanismo de monitoreo y también ha introducido la ficha de observación para el monitoreo de las prácticas en el aula. Actualmente, se están realizando tales monitoreos. Esto significa que la segunda recomendación también está cumplida.

Acercas de la recomendación 3), el Proyecto no cuenta con ninguna estrategia para lograrla, dado que se trata de asuntos de administración de recursos humanos internos del ME. Se espera alguna medida por parte del ME para así poder cumplir con la recomendación.

### **3-3. Evaluación por cinco criterios**

#### **3-3-1. Pertinencia**

##### **Resultado: Pertinencia alta**

Considerando la alta relevancia del Proyecto, especialmente en las leyes y en las políticas del Estado Plurinacional de Bolivia, así como en las necesidades de la sociedad boliviana y en la política de Asistencia Oficial para el Desarrollo (AOD) del Japón, la Misión de Evaluación Final evaluó que la pertinencia del Proyecto es alta. Los detalles de sus evidencias se presentan en continuación.

#### **(1) Pertinencia con las leyes del país**

- La Constitución Política del Estado, establecida en febrero de 2009, asegura los derechos de las personas con discapacidad (Artículo 70). Uno de los derechos es “una educación integral gratuita”.
- La Ley de la Educación “Avelino Siñani-Elizardo Pérez”, promulgada en diciembre de 2010, está orientada a promover y a consolidar una educación especial-inclusiva para las personas con discapacidad.

- Para llevar la educación especial-inclusiva a la práctica, obviamente se requiere contar con recursos humanos preparados como docentes y técnicos. El Proyecto está contribuyendo en la formación de esos especialistas.
- (2) Pertinencia con las políticas del país
- El “Plan Nacional de Igualdad y Equiparación de Oportunidades para las Personas con Discapacidad (PNIEO)”, elaborado en agosto de 2006, da importancia a la formación de recursos humanos en educación especial con un enfoque de educación inclusiva en su Estrategia 4 de la Política de Educación.
  - El “Plan Estratégico Institucional 2010-2014” del ME menciona la importancia de la formación de educadores/as como uno de los programas de la política “Eleva la calidad de la educación”. Este programa tiene un proyecto denominado “Mejoramiento y formación permanente de docentes en todos los niveles del Sistema Educativo Plurinacional” y cubre a los/as docentes de educación especial-inclusiva.
  - Sin embargo, todavía no se han determinado los detalles de las políticas de educación especial-inclusiva en el país ni se ha terminado la elaboración del currículo y del reglamento de formación inicial en la especialidad de EID.
- (3) Pertinencia con las necesidades de la sociedad boliviana
- Todas las personas involucradas en el Proyecto enfatizan las necesidades de formación especial de docentes en educación especial-inclusiva, considerando la carencia de una especialidad en esa temática para dar clases y orientaciones tanto a niños/as con discapacidades en sus CEEs como a los/as estudiantes de sus ESFMs.
  - Sin embargo, por falta de credibilidad de los datos estadísticas, las necesidades de formación docente en educación especial-inclusiva no están objetivamente claras.
- (4) Pertinencia de la política de Asistencia Oficial para el Desarrollo (AOD) del Japón
- El lineamiento básico de cooperación del Gobierno de Japón para el Gobierno de Bolivia es el “apoyo para el desarrollo económico sostenible”, mediante la reducción de la pobreza. Los sectores de enfoque son: el “desarrollo social enfocado en la formación de recursos humanos” y el “mejoramiento de la productividad mediante el desarrollo regional”. La cooperación educativa corresponde al primer enfoque.
  - El Gobierno de Japón está implementando en Bolivia ocho programas de cooperación. Uno de ellos es el “Programa de Mejoramiento de la Educación”, del cual este Proyecto forma parte.
  - El Gobierno de Japón sigue, además, la “Política de Desarrollo Sectorial”. Aquella correspondiente al sector educativo se llama “Política de Cooperación Educativa del Japón 2011-2015”. Mediante dicha política, el Gobierno del Japón presentó el modelo de desarrollo educativo “Escuela para Todos”, cuyo

componente incluye la educación inclusiva.

- JICA es la unidad ejecutora de la AOD del Gobierno del Japón y trabaja bajo las políticas de la AOD. Sin embargo, también tiene algunos lineamientos institucionales relativos a la cooperación y su carácter es más práctico que dicha política. En el caso de la cooperación educativa, existe un documento que se llama “La Cooperación de JICA en el Sector de Educación – el Presente y el Futuro”. Este documento menciona la importancia de dar atención a las personas marginadas, como los/as niños/as con discapacidad, y de lograr la educación inclusiva.

(5) Pertinencia del Proyecto como método para lograr el objetivo del Proyecto

- El Proyecto sigue el modelo lógico que se presenta en el Gráfico 1. Su lógica es razonable y adecuada a la situación actual de la educación especial-inclusiva de Bolivia y a las necesidades de los/as docentes y del ME.
- El ME seleccionó a los/as docentes de tres ESFM's según los criterios definidos en el R/D, que fueron: (1) Título de Maestro Normalista, (2) Licenciatura en Pedagogía o Psicología o Psicopedagogía y (3) Experiencia en educación especial o docente de integración escolar. Igualmente, el ME seleccionó a los/as maestros/as de los CEEs según los siguientes criterios definidos: (1) Fiscal o de Convenio Público, (2) Atiende a estudiantes en una de las cuatro modalidades: discapacidad intelectual, discapacidad auditiva, discapacidad visual o discapacidad física motora, (3) Está organizado con los niveles educativos inicial, primario y secundario (talleres productivos o de formación), y (4) Tiene un currículo del Centro de Educación Especial en base al currículo de educación regular. El proceso de selección y los/as docentes seleccionados/as para el Proyecto son relativamente adecuados, cualitativamente. Sin embargo, el número de participantes del GM y la dispersión geográfica de sus instituciones son grandes, en comparación con la escala del Proyecto (aportaciones, periodo, etc.). Esto dificulta alguna parte de la administración del Proyecto.

### 3-3-2. Efectividad

#### **Resultado: Efectividad alta**

Se confirmó que el Proyecto ha logrado su Objetivo, como efecto de los resultados generados por las actividades desarrolladas hasta la fecha. En ese sentido, se evaluó que la efectividad del Proyecto es alta.

(1) Nivel de logro del Objetivo del Proyecto

Gracias al Proyecto, los/as maestros/as del GM han mejorado sus conocimientos teóricos y sus prácticas pedagógicas sobre educación especial-inclusiva, como se aprecia en los resultados de la evaluación sintética (véase la Tabla 13). Es decir, han aumentado sus conocimientos básicos sobre discapacidad (Resultado 1) y han

fortalecido sus capacidades para: realizar el diagnóstico y la valoración pedagógica a los/as alumnos/as con NEEs (Resultado 2), desarrollar planes de trabajo individuales y planes de situación didáctica (Resultado 3), e implementar las clases abiertas y sus correspondientes reflexiones (Resultado 4). Además, por medio de la elaboración de materiales didácticos, sus especialidades son más firmes, debido al dominio de los contenidos.

(2) Factores que contribuyeron al logro del Objetivo del Proyecto

- La participación positiva del GM en el Proyecto, con alta responsabilidad y voluntad.
- La alta iniciativa y el compromiso del ME tanto en la parte financiera como en los aspectos logísticos.
- La promoción constante de la educación inclusiva por el ME en el marco legal, político, sistemático y organizacional.
- La colaboración institucional de las ESFM y de los CEEs involucrados en el Proyecto.
- El apoyo necesario brindado al Proyecto por las autoridades del ME y por los directores de las ESFM y de los CEEs .

(3) Factores que impidieron el logro del Objetivo del Proyecto

- La disminución constante de participantes del GM del Proyecto y la poca participación de la ESFM Simón Rodríguez de Cochabamba, por situaciones dificultosas internas.
- La indeterminación de los detalles de las políticas de educación especial-inclusiva y la elaboración inacabada del currículo y del reglamento de formación inicial en la especialidad de EID.
- La poca formación y experiencia en hacer estudios científicos y en elaborar artículos académicos por parte del GM, con el fin de integrar los conocimientos y las prácticas.
- La dificultad de coordinación con las autoridades del ME, de las ESFM y de los CEES por los cambios de dichas autoridades y/o por sus agendas apretadas.

### 3-3-3. Eficiencia

#### **Resultado: Eficiencia media**

Los aportes de las partes boliviana y japonesa fueron adecuados en cantidad y en calidad. También fueron oportunos para realizar las actividades del Proyecto. Sin embargo, con el fin de perfeccionar los materiales didácticos y su difusión a nivel nacional, la duración del Proyecto debió ser prolongada por seis meses, disminuyendo la efectividad del Proyecto. Por tal razón, la eficiencia del Proyecto fue evaluada como media.

(1) Pertinencia de los aportes y de las actividades para la producción de los resultados esperados

Los aportes estuvieron adecuadamente vinculados con las actividades del Proyecto y contribuyeron al alcance de los resultados. Los recursos humanos, materiales y económicos fueron los requeridos para realizar todas las

actividades del Proyecto. Además, se considera que los aportes fueron adecuadamente manejados por el Proyecto.

#### 1. Aportes de la parte boliviana

Se concluye que los aportes de la parte boliviana (salario de los miembros del GM, costo por ejecución de los TNCs y de los TDCs, prestaciones de los lugares para las capacitaciones, pago de viáticos para el monitoreo y la dotación de equipos) fueron oportunos y adecuados para el cumplimiento y el logro de los Resultados del Proyecto.

#### 2. Aportes de la parte japonesa

Juzgando por los Resultados del Proyecto, se concluye que los aportes de la parte japonesa (envío de expertos japoneses y de terceros países, contratación de consultores nacionales, ofrecimiento de capacitaciones en Japón, donación de equipos y envío de las Misiones Japonesas) fueron oportunos y adecuados en cantidad y en calidad para la ejecución de las actividades planificadas a fin de lograr los resultados esperados.

#### 3. Prolongación del Proyecto

Debido a la necesidad de perfeccionar los materiales didácticos y su difusión, el Proyecto tuvo que ser prolongado por seis meses, mediante acuerdo oficial entre el ME y JICA. Esto significa que los aportes de ambas partes se incrementaron, en comparación con el plan original del Proyecto.

#### (2) Eficiencia administrativa

En la ejecución del Proyecto, hubo una optimización adecuada de los recursos, cuidando que éstos sean empleados en la consecución de los objetivos y de los resultados previstos. Por otra parte, los desembolsos de ambas partes se hicieron cumpliendo las normativas y los reglamentos establecidos por cada entidad involucrada. Es igualmente importante resaltar la sinergia interinstitucional que se presentó durante las actividades del Proyecto.

### 3-3-4. Impacto

#### **Resultado: Impacto alto**

Gracias al esfuerzo del GM, se advierte una tendencia hacia el mejoramiento de la calidad de la formación de los/as maestros/as en educación especial-inclusiva, tal como fue definido en el Objetivo general del Proyecto. De ese modo, el Proyecto generó varios impactos positivos y algunos de ellos han sido extendidos a actores externos al Proyecto. Reconociendo altamente la incidencia positiva, se calificó que el impacto del Proyecto es alto.

(1) Perspectiva para lograr el Objetivo general del Proyecto

Los/as maestros/as de las ESFMs están introduciendo los conocimientos y las metodologías aprendidas en las actividades del Proyecto en sus clases. Así mismo, los/as maestros/as de los CEEs están aplicando esos conocimientos y esas metodologías en sus prácticas cotidianas. En total, ellos/as realizaron 81 talleres y capacitaciones, atendiendo a 2000 personas participantes, con el apoyo de los directivos y de sus colegas de sus respectivas entidades. Teniendo en cuenta estas evidencias, el Objetivo general del Proyecto será logrado en un futuro cercano, siempre que ellos/as sigan haciendo el mismo tipo de esfuerzos.

(2) Impactos y repercusiones producidos por la implementación del Proyecto

1. Impactos positivos

- Aumento del interés en educación especial-inclusiva entre los/as maestros/as de las ESFMs.
- Fortalecimiento de la iniciativa por parte de los directivos de las ESFMs para mejorar el ambiente físico y comunitario de sus instituciones.
- Crecimiento rápido de la consolidación firme entre los/as maestros/as de los CEEs para mejorar sus clases y su ambiente escolar.
- Participación de los/as maestros/as del GM de las ESFMs en la elaboración del “Currículo de Formación de Maestras y Maestros del Sistema Educativo Plurinacional”, específicamente en lo concerniente a la especialidad de EID.
- Desarrollo de una relación estrecha entre los padres y las madres de los/as alumnos/as y los/as estudiantes con discapacidad y los/as maestros/as de los CEEs y de las ESFMs, mediante prácticas educativas cotidianas y visitas domiciliarias.

2. Impactos negativos

No se ha encontrado ningún impacto negativo del Proyecto.

### 3-3-5. Sostenibilidad

#### **Resultado: Sostenibilidad media**

Se evidencia que los conocimientos y las técnicas que adquirieron los miembros del GM por medio de las actividades del Proyecto son muy útiles para mejorar la educación especial-inclusiva en Bolivia. Así mismo, las clases abiertas-públicas, los Estudios de Caso y el EPI son estrategias eficientes para mejorar sus capacidades. Además, el sentido de profesionalismo en ellos/as ha crecido considerablemente. Por otra parte, el fortalecimiento de la educación especial-inclusiva gracias al Proyecto es congruente con las leyes y las políticas de Bolivia. Sin embargo, existen factores que impiden la visibilidad de esos impactos positivos, entre ellos: el asegura los presupuestos del ME para la educación especial-inclusiva, las dificultades financieras de los CEEs, la

inestabilidad laboral de los/as maestros/as de las ESFM y la incertidumbre del plan de formación docente en educación especial-inclusiva. Por consiguiente, la Misión de Evaluación Final evaluó que la sostenibilidad del Proyecto es media.

(1) Aspectos políticos e institucionales

- La Constitución Política del Estado asegura los derechos de las personas con discapacidad, incluyendo el derecho a tener “una educación integral gratuita” (Artículo 70). Así mismo, la Ley de la Educación “Avelino Siñani-Elizardo Pérez” está orientada a promover y a consolidar una educación especial-inclusiva para las personas con discapacidad. Por tanto, el marco legal de la educación especial-inclusiva en Bolivia se mantendrá, favoreciendo a las personas con discapacidad.
- Sin embargo, todavía no se han determinado los detalles de las políticas de educación especial-inclusiva. Tampoco se ha terminado la elaboración del currículo y del reglamento de la formación inicial en la especialidad de EID.
- El “Plan Nacional de Igualdad y Equiparación de Oportunidades para las Personas con Discapacidad (PNIEO)”, de 2006, y el “Plan Estratégico Institucional 2010-2014” del ME mencionan la importancia de la formación de los/as educadores/as.
- La educación especial-inclusiva ha sido introducida en el “Currículo de Formación de Maestras y Maestros del Sistema Educativo Plurinacional”.

(2) Aspectos organizativos

- La especialidad de EID (educación especial) se ejecuta en la ESFM Simón Bolívar de La Paz, en la ESFM Enrique Finot de Santa Cruz y en la ESFM Simón Rodríguez de Cochabamba. En la gestión 2013, la admisión de nuevos estudiantes a esa especialidad se realizará pero bajo el nombre de especialidad en “Educación inclusiva para personas con discapacidad”.
- Los siete CEEs involucrados en el Proyecto están atendiendo a los/as alumnos/as y a los/as estudiantes con discapacidad llevando la idea de ampliación de sus servicios educativos y de creación de un centro de recursos de la educación especial-inclusiva.

(3) Aspectos técnicos

- Antes de terminar el Proyecto, se elaborarán ocho materiales didácticos sobre educación especial-inclusiva. Estos materiales incluyen los contenidos académicos y técnicos indispensables para llevar adelante la educación especial-inclusiva en Bolivia. Por tanto, no se perderán los conocimientos, las metodologías, las técnicas y las experiencias acumuladas durante la ejecución del Proyecto. Así mismo, esos materiales podrán servir como herramientas para mejorar la educación especial-inclusiva del país.



- Además, como se muestra en la Tabla 13 (Resultados de la evaluación sintética), los miembros del GM han mejorado sus conocimientos teóricos y sus prácticas pedagógicas en el ámbito de la educación especial-inclusiva, y están trabajando como agentes multiplicadores en sus respectivas entidades. Por tanto, existe una alta posibilidad de difundir a nivel nacional los conocimientos y las experiencias del Proyecto, cuando el ME tome una estrategia adecuada.

(4) Aspectos financieros

- Los CEEs presentan dificultades para tener sostenibilidad financiera, bajo la situación actual que implica el requerimiento de administración autofinanciera y la prohibición de cobrar matrículas, porque la educación en NEEs implica un presupuesto especial para la adecuación de los materiales específicos y para brindar los servicios adecuados a las necesidades actuales y al nivel de desarrollo de cada estudiante con discapacidad.
- El ME presenta limitaciones para asegurar presupuestos suficientes destinados a las actividades de la educación especial-inclusiva.

### 3-4. Conclusiones

El Proyecto ha realizado las actividades planificadas y finalizará las demás actividades del PO hasta fines de mayo de 2013.

El Proyecto ha logrado su Objetivo (formación de los/as maestros/as del GM) y sus Resultados (mejoramiento de los conocimientos básicos, adquisición de la capacidad de diagnóstico, reforzamiento de la capacidad de planificación, mejoramiento de la práctica pedagógica y elaboración de materiales) en un nivel apreciable y en el tiempo previsto en su plan maestro, en virtud de: las iniciativas y de la responsabilidad asumida por las entidades involucradas, bajo la coordinación del ME; la participación activa de los miembros del GM, con el apoyo de sus autoridades y de sus directivos; la asistencia técnica apropiada por parte de los expertos, etc.

Se ha identificado la efectividad de los conocimientos y de las metodologías introducidos por el Proyecto para el mejoramiento de la calidad de la educación especial-inclusiva.

Se han observado impactos positivos en las prácticas en aula de los CEEs.

El ME tiene en cuenta los efectos del Proyecto y considera que los materiales didácticos que están siendo elaborados por el Proyecto se aplicarán en la formación inicial de las ESFMs y en la capacitación docente, a partir de junio del 2013.

La Misión de Evaluación Final evaluó el Proyecto sobre la base de cinco criterios. Como resultado, la “Pertinencia”, la “Efectividad” y el “Impacto” del Proyecto tienen una calificación “Alta”, en tanto que la “Eficiencia” y la “Sostenibilidad” del Proyecto presentan una calificación “Media”, en virtud de que se trata de aspectos que dependen de la situación financiera de las entidades relacionadas y de la estabilidad laboral de los recursos humanos preparados por el propio Proyecto.

Se espera que a futuro el GM pueda promover el mejoramiento de la educación especial-inclusiva del país.

#### **4. Recomendaciones**

(1) Terminar el Proyecto

Considerando los logros del Proyecto, se recomienda terminarlo hasta el 31 de mayo de 2013, tal como ha sido planeado, cumpliendo todas las actividades que se están realizando y preparando.

(2) Aplicar los materiales didácticos

Los materiales didácticos que los miembros del GM están elaborando son libros especializados en educación especial-inclusiva, elaborados por manos bolivianas y acordes con la realidad de Bolivia. Por esta razón, pensamos que son muy útiles para la formación docente en esta temática y deseamos que el ME los aproveche al máximo en la Formación Inicial, en la Formación Postgradual y en la Formación Continua como libros de texto y/o como referencias para promover y fortalecer la EID.

(3) Crear CEE modelo

Los CEEs involucrados en el Proyecto tienen la capacidad para desarrollar una educación especial-inclusiva de alta calidad. Estos centros podrían funcionar como expositores y multiplicadores de la nueva metodología de enseñanza que se está aplicando actualmente. Por tanto, deseamos que el ME los asigne como CEEs modelo y los aproveche para realizar cursos de capacitación docente en el tema y/o en las prácticas docentes de los/as estudiantes de las ESFMs, bajo la coordinación entre el ME, los CEEs y las ESFMs. Esto podría contribuir a difundir de manera más eficiente y certera la nueva metodología de la educación especial-inclusiva a nivel nacional.

(4) Fortalecer la capacidad práctica de las ESFMs

Los/as maestros/as participantes en el Proyecto por parte de las ESFMs han fortalecido sus conocimientos teóricos y metodológicos sobre educación especial-inclusiva y pueden asignar lecturas de calidad a sus estudiantes. Sin embargo, por el carácter particular de su trabajo, tienen dificultades para fortalecer su capacidad práctica aplicando los conocimientos que han adquirido con el Proyecto. Con el fin de resolver este problema, deseamos que el ME considerara la posibilidad de ofrecer capacitación especial a los/as maestros/as de las ESFMs en los CEEs, como práctica docente de alto nivel y/o como profundización académica de estudio de los casos de los/as niños/as con discapacidad.

(5) Sistematizar las experiencias del Proyecto e introducirlas en el SEP

Además de los productos concretos y visibles, los/as maestros/as del GM han acumulado varias experiencias gracias a su participación en las actividades del Proyecto. Por consiguiente, es recomendable que sus experiencias sean sistematizadas como guías, manuales y/o informes, a fin de introducirlas en el SEP del país. Como posibles temas de la sistematización de experiencias se pueden citar los siguientes: el método de

diagnóstico y de valoración pedagógica a los/as alumnos/as con NEEs, los procesos de desarrollo de los planes de educación especial-inclusiva, la manera de elaboración/adecuación de los materiales didácticos y la estrategia de monitoreo mutuo entre las entidades educativas, entre otros.

(6) Mayor articulación de los materiales didácticos a la política educativa del país

El ME está en pleno proceso de transformar la educación. Por tanto, todavía no están determinados los detalles de la política y del currículo nacional de educación especial-inclusiva. No obstante, cuando se elaboran materiales didácticos, es indispensable ajustarlos al lineamiento principal de la política, de la estructura y de la forma definida oficialmente, así como a la realidad de la educación boliviana, entre otros aspectos. Este esfuerzo asegurara el uso efectivo de los materiales y su difusión tanto en el contexto de la formación inicial como en el de la formación continua de maestros/as.

(7) Acreditar académicamente a los docentes participantes

Con el fin de asegurar el mejoramiento profesional de los/as docentes del GM y de mantener su motivación para realizar las actividades del Proyecto y de la educación especial-inclusiva del país, es recomendable acreditarlos/as por los trabajos realizados, sobre la base de los criterios oficiales del ME y/o de institutos académicos superiores de Bolivia, además de entregarles la certificación correspondiente por participar en el Proyecto.

## 5. Lecciones aprendidas

### (1) Requisitos previos y circunstancias externas de un proyecto para asegurar impactos positivos

La cooperación técnica en la modalidad de proyecto funciona mejor en sistemas educativos estables, en los que produce impactos positivos de mayor magnitud. Por ello, es preciso investigar en profundidad la estabilidad del sector objetivo de la cooperación, poniendo énfasis en los aspectos relacionados con la política, el sistema, la estrategia, el currículo nacional, las entidades relacionadas y sus recursos humanos, entre otros. Cuando no es posible asegurar tales requisitos, se necesita cambiar la estrategia de la cooperación, así como la escala y/o el periodo de la misma.

Por su parte, los países receptores también tienen requisitos para recibir la cooperación técnica de otros países, los cuales deben necesariamente ser analizados y considerados antes de aprobar una solicitud de cooperación. En el caso de Bolivia, el Decreto Supremo N° 29308 determina las condiciones para recibir cooperación externa en el país. Con el propósito de evitar problemas futuros, es imprescindible analizar bien tal normativa.

### (2) Características y limitaciones de los expertos de educación especial-inclusiva

Existen cuatro áreas principales en educación especial-inclusiva: discapacidad visual, discapacidad auditiva, discapacidad intelectual y discapacidad física motora. El grado de especialización de estas áreas dificulta el trabajo educativo, por lo que un solo experto no puede cubrir las cuatro áreas. Por tal razón, en el proceso de formulación de un nuevo proyecto, se deben considerar las estrategias más precisas y adecuadas de cooperación técnica, incluyendo la determinación del área de discapacidad a atender y considerando los recursos humanos especializados y las entidades cooperantes para dicho proyecto, entre otros detalles.

### (3) Unificación de opiniones para la administración eficiente de un proyecto

Luego de empezar un proyecto, existe la posibilidad de cambiar a las personas que se relacionan con él, tanto de Japón como del país receptor de la cooperación técnica. Además, las propias circunstancias del proyecto podrían cambiar en su periodo de ejecución, por varias razones. Con el fin de lograr una administración eficiente, es indispensable que todas las personas vinculadas tengan una mejor comprensión del proyecto como tal. Para ello, se deberán unificar las opiniones hacia el logro del objetivo del proyecto. En consecuencia, el proyecto deberá tener una estrategia para lograr esa unificación, al iniciar sus actividades.



